



photo by : Sachi\* (photographer)

# 連続フォーラム「チョゴリときもの」

## ～在日コリアンの視点と ニューカマーの視点～

財団法人 京都市国際交流協会



## はじめに

京都造形芸術大学客員教授 仲尾 宏

今回のテーマは「在日コリアンの視点とニューカマーの視点」とした。今まで、いわゆるニューカマーの方々に登場していただいたことがあるが、今回は四回のフォーラムにそれぞれ個別のテーマを設定して、同じ課題にオールドカマーである在日とあたらしい韓国から渡日してきた人々の体験やご感想・ご意見を対比させることにした。同じ民族とはいえ、日本社会で生まれ育つた人々と韓国社会で生まれ育つた人々のご意見や感想がどこまで同じでどこが違うか、を浮かびあがらせてみたい、という企画である。

詳しくは本文の記録を読んでいただきたいが、第一回の「韓流ブームと在日コリアン」では受けとめたの違いもさることながら、際だったのは日本人が韓国や韓国の物語やスターたちに親近感をおぼえ、関心をもつたとしても日本で暮らしてきた在日についての知識や想いが希薄すぎるのではないか、ということであった。第二回目の「子どもへの期待と教育」、第三回目の「女性像の移り変わり」ではニューカマーの方が研究者であることも含めて韓国の教育事情や女性たちに対する社会のまなざしの移り変わりを紹介していただき、また在日の女性たちの家庭での苦闘の姿を語っていただいた。第四回目は「高齢者福祉をめぐって」であり、京都の「故郷の家」が「梅干もキムチもある高齢者施設」であること、また在日高齢者の生活構造と高齢者福祉の調査結果の報告もふくめて、在日高齢者の実情を知ることができただけでなく、韓国から来て、その施設で働いている青年の実体験からこれから日本社会での民族的マイノリティの高齢者福祉のありかたを考えさせる機会を提供していただいた。

いずれも、日本人一般が知っているようで知らない現実であり、この日本社会の見過ごしてはならない現実がそこについた。ここで語られていたことは、知識や理論、また漠然とした理念ではなく、在日やニューカマーの日本社会での生きかたの「ナマの姿」を通じた現実である。そのことがとりわけ実感できた今回のフォーラムであつた。



## 目 次

「チョコリ」ときもの	～在日「リアン」の視点と「ユーカマー」の視点～
第一回 「韓流ブームと在日「リアン」	.....
第二回 「子どもへの期待と教育」	.....
第三回 「女性像の移り変わり」	.....
第四回 「高齢者福祉をめぐって」	.....

109      71      31      5



## 第一回「韓流ブームと在日コリアン」

パネリスト

李 裕淑（イ ユスク）氏

尚宰（リ サンジエ）氏

コーディネーター

平井 美津子（ひらい みつこ）氏  
仲尾 宏氏（京都造形芸術大学客員教授）

二〇一一年二月二十五日（金）開催



## チヨゴリときもの

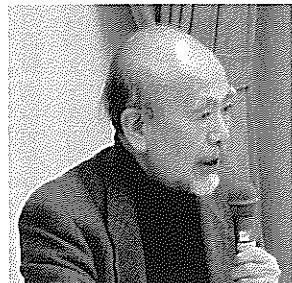
司会：ただいまより、連続フォーラム「チヨゴリときもの」を開催いたします。

このフォーラムも今年で一八回を迎えます。この間、在日社会では新たな世代も増え、同時に考え方や生き方が多様化してきました。また、昨今 学術研究や留学、仕事、婚姻その他様々な理由で来日するニューカマーも増加してきました。そこで今回は、同じコリアをルーツとする人々の視点を、二つの国の関係性と共にお話ししていただくこととしました。毎回のフォーラムから、在日コリアンの歴史を感じることもでき、また「自身が一世の立場となるニューカマーの視点からは今の韓国の様子も感じていただけるのではないかと思っています。

それでは、本日のパネリストとコーディネーターをご紹介させていただきます。

お一人目は、韓国語講師で、通訳や翻訳のお仕事をされています李裕淑（イ・ユスク）様です。現在京都大学 大学院博士課程に在籍されています。続きまして京都造形芸術大学准教授の李尚宰（リ・サンジュ）様です（注二）。李さんは元留学生で、後でご紹介いたします仲尾先生の教え子でもいらっしゃいます。三人目は市内で韓国語教室を運営されています平井美津子様です。そして、コーディネーターをお願いしておりますのは、京都造形芸術大学客員教授 仲尾宏先生です。今年最初は「韓流ブームと在日コリアン」と題し、三様のお話をしていた だきます。

第一部パネリストのお話終了後、皆様のご質問等をいただき第二部につなげてまいります。また、途中に事業記録のため、後ろから時々写真を取りせていただくことがあります。「理解賜ります様願い申し上げます。それでは、先生、よろしくお願ひいたします。



仲尾 宏氏

仲尾 宏…皆さん、こんにちは。今日はたくさんの人にお出で頂きました。今年の「チョゴリときもの」では、先ほど司会の岡村さんからもありましたように、オールドカマーとニューカマーという対比でいくつかの問題を取り上げ、そして「在日」の今日の在りようをみんなで考えたいと思います。

まず、言葉の定義ですが、この二つの言葉は英語をそのまま用いているので、必ずしも適切な用語とは言えません。特に「ニューカマー」については「新渡日」「新来住者」「新定住外国人」など様々に呼ばれていますが、いずれも適切な言葉ではないと思います。ただ、一つ言えることは、一九五二年を節として外国から日本へやってきて、労働し、学び、生活している人々をさしていること。これに対して、一九一〇年の「韓國併合」から自分の意思にかかわらず「大日本帝国」の臣民とされ、一九五二年にまた日本国籍を剥奪された人びと、すなわち「在日」をオールドカマーと便宜的に呼んでいます。その人口の変遷や地域的分布、ニューカマーの在留資格についてお配りした表をご参照ください。

さて、今日は「韓流ブーム」をテーマにお話しいただきますが、オールドカマー、ニューカマーのペネリストに加え、日本で起こった「韓流」をどのように受け止めたか、日本人のペネリストからもご意見を聞かせていただきましょう。では最初に、李裕淑さんからお願ひします。

李 裕淑…初めてまして、紹介していただいた李裕淑です。韓流ブームを在日コリアンがどう捉えたかということが、一九〇〇一年度に公開された南北分断をテーマにした映画「シユリ」、その後の「J.S.A」に始まり、二〇〇一年のワールドカップサッカーの日韓共催、そして一九〇四年の「冬のソナタ」で韓流ブームが起こったのですが、「冬のソナタ」がこんなにヒットして社会現象になり、ブームが今も続き、テレビをつけければ韓国ドラマ



李 裕淑氏

が見られて、韓国旅行案内や韓国料理グルメの番組がいつも流れている時代が来るとはだれも予想していなかつたのではないでしようか。

韓国・朝鮮は「近くで遠い国」と言われてきました。その言葉一つでいろんな問題も片付けられているように寂しくも思いました。また、ある意味でうまく表現しているとも思う反面、理解しがたい国、理解しようとしなくてよい国と言われているような気がしていました。しかし、今はドラマや韓国料理、観光に関しては私よりよく知っている日本人が多いです。

私が講師をしている講座の受講生の方たちから十年前には、韓国映画を見たいとか、韓国のCDを聞いてみたいとか、美味しい韓国料理のお店を紹介してください、とよく尋ねられたものです。映画は大阪の十三の第七劇場などでたまに上映するのを案内したり、大阪の今里や日本橋にある小さな店を紹介したり、ビデオを借りて来て貸して差し上げたりしていました。今は、「先生、「頑張れクムスン」見ましたか、まだでしたら貸してあげますよ。」「先生、ミヨンドンのロツテホテル前のスンドウブの店が美味しいですよ。」、とか、「今度、神戸でチャン・ドンゴンのベースティーパーティのファンミーティングがあります。」と、みんな反対に先生に教えてあげなくてはと思つているようです。また、お土産にロツテマートでキムチやスンドウブの素などを買ってきます。料理の仕方までメモしてくれるのですが、私はハンギル読めるのに、と苦笑するときもたまにあります。日本人からキムチを貰い、韓国料理を教わる日がくるとは思わなかつたです。

日本での漬物売上げナンバー1は沢庵やしば漬けでなくキムチと聞きました。キムチを置いていないラーメン屋が少ないぐらい若者たちが食べているようです。一世の方々の聞き取りの中でニンニク臭いと苛められた、キムチは食べないようにしていたという話とは隔絶の差です。

私は寝屋川市教育委員会が主催しているハングル講座に一九九五年頃から関わっています。その当時の受講生の方は日韓・日朝関係に興味のある方、在日韓国人・朝鮮人・仕事の関係で韓国とのかかわりがある方、人権運動に興味のある方、教師の方が多かつたのですが、今は主婦の方、会社員の方が主流になっています。「冬のソナタ」が放映されている頃はドラマだけに興味があつた人たちですが、講座で何年か学んでいくうちに歴史や文化、古代の日韓交流などに興味が広がつていて楽しく勉強なさっています。現在、講座は入門六〇人・初級一が三六人・初級二が二〇人と三クラスあるのですが、人気があり過ぎて抽選です。韓国語を勉強しようという方もまだまだ多いということです。

韓流ブームが起り、継続している理由はまず金大中大統領の日本文化開放政策によつて、一九九八年に四大国際映画祭受賞作品や日本漫画などが開放され、二〇〇〇年には「一八歳未満不可」の作品以外の全映画、パソコン用ゲームソフトなどが開放され、そして二〇〇四年一月から日本語のCD、テープなどが解禁されたために、お互いの交流が急激に深まつたこともありますが、長年にわたる在日韓国・朝鮮人と日本人の地道な交流や、韓国・朝鮮語講座や教室で学んだ人々の力もあると思います。その人々が吸着材のような役割をして、この韓流ブームが一举に広がつたと思います。

私の講座の受講生の一人も「冬のソナタ」の録画DVDを感激したから見てと、何人にも貸しまわしをしたと言っています。そして、それに続いた「チャングムの誓い」や歴史ドラマから韓国の文化や歴史に興味を持つて韓国語を学び始めた人が多いと言います。このように一過性のブームに終わらずに、今も人気が継続しているのは今日の「チョゴリときもの」フォーラムなどを地道にして「られた人々の力だと思つています。

まだ、韓流ブームなの?とおっしゃる方もいらっしゃいますか?

今年の四月からの「テレビでハングル講座」に超新星というK-POPアイドルグループのメンバーが毎回一人ずつ出るということでテキストを二二万部刷るらしく、最終的には三万部増刷すると聞きました。

N I K K E I プラス 1 という新聞の「裏読みコラム」に乗っていた数字ですが、N H K のハングル講座のテキストは二〇〇一年に八万部だったのが二〇〇八年に二二万部売れました。「冬のソナタ」と「大王四神紀」でのヨン様のセリフが出ていることが人気の理由だと思います。一番売れた月は二〇〇四年には二七万部と聞きました。さすがヨン様です。それを超新星が抜くか、楽しみです。

この N H K ハングル講座は昔からあるように思われているかも知れませんが、実は苦難の末に放送されるようになつたのです。一九七六年に「N H K に朝鮮語講座の開設を要望する会」が久野収氏、中野好夫氏、金達寿氏たちによつて発足しました。会は署名運動をして四万名を集めたそうです。その結果、四年後にソウルオリンピックなどを控えた一九八四年にやつと開設されたのです。

一九八八年ソウルオリンピックがあつて韓国に関心を持つ日本人が増えました。一九八九年には韓国から日本への渡航が完全に自由化され、交流が多くなり、お互いが知ることによつて、日本人の韓国イメージは少しずつ良くなつてきました。そして、「韓流ブーム」のお陰で韓国文化が理解され、人的交流がより活発になり親近感を持つて下さる方が増えました。その方々の中で歴史についても興味を持たれて在日コリアンについても向かいあう人たちが出ていることは嬉しいことです。

しかし半面、朝鮮半島は、「自分たちと似通い親近感が持ててカッコいい、ヨン様の国」、「核を放乗しないで何を考えているかわからない怖い将軍様の国」というイメージで、陽と陰でくつきり区分されたと感じています。

二〇〇二年九月一七日に小泉総理大臣と金正日国防委員長がピョンヤンで会談し、日朝の国交正常化交渉の再開や在日朝鮮人の地位に関する問題および文化財などの問題を織り込んだ日朝平壤宣言を行いました。しかし、去年（二〇一〇年）の八月一〇日に発表された菅総理大臣談話では日韓両国の絆を深くしようと述べられていますが、完全に北朝鮮を無視しています。

在日一世が日本に渡ってきたとき、半島は大韓民国・朝鮮民主主義人民共和国という「二つの祖国」ではありま

せんでした。その歴史的経緯からも韓国の影響も北朝鮮の影響も受けできました。在日コリアンは北朝鮮に帰国した親戚や友人、知り合いを持つている人がほとんどだからです。

一九七〇年代はまだマスコミなどの報道も北朝鮮へのイメージは良かつたのと、差別されて異国で働くより祖国で建設に身を捧げようと帰った人が多いからだと聞きました。ですから、特に一世・二世は祖国統一を願っている人が多いのです。在日コリアンは北朝鮮の体制は賛成でなくとも、北朝鮮に住む一般の人々は同じ民族だと思っている人が多いのです。

私は、韓国と北朝鮮とともに日本と友好的な国としてやつていけるようになる日を望んでいます。今の「韓流」が一過性のブームで終わらずに、韓国だけにとどまらず在日コリアンを理解していく機会となり、一緒に良い社会を作つて行ける契機になると嬉しいです。

仲尾 宏：ありがとうございました。「韓流」がきっかけで日本人が韓国や「在日」に向かい合い、理解と共に身近に感じるようになつてきただけをうれしく思う。同時に、もとは一つの国であった北朝鮮という地に対する反対のイメージ、はつきりとした区別を生みだしたのではないかという気持ちを一世の在日コリアンの気持ちや北朝鮮の一般の人々への思いをはせてお話を頂きました。では、続けて、ニューカマーである李尚宰さんにお話をいただきます。最初に少しご紹介いただきましたが、李尚宰さんは私の非常に優秀な教え子でした。ではお願ひします。

李 尚宰…（略）

仲尾 宏…ありがとうございました。では時間も押してきましたので、一部最後に平井美津子さんにお話しを

いただきます。



平井 美津子氏

平井 美津子：丹波橋で韓国語教室を開いています、平井と申します。よろしくお願ひ致します。一人の日本人として、韓国語学習者の一人として、韓流ブームに心から感謝しております。私は長い間韓国語を学習してきましたが、ずっと、韓国語を習つてどうするの？というかなり否定的な質問ばかりうんざりするほど受けできました。韓流ブームのおかげで、韓国語ができるいいですね、羨ましいですという声を聞けるようになりましたが、私はむしろ驚き、うろたえてすらおります。でも同時に、ずっと昔、韓国語を選択して良かった。選択が間違つていなかつた。と、本当に嬉しく思います。

韓國文化、韓國語、韓國映画などに關して気軽に話し合える場所がほしくて、二〇〇二年の春、ワールドカップ日韓共同開催の年に店を持ちました。

その頃は家族か友達しか来ませんでしたが、NHKで「冬のソナタ」の放映が始まり、放送番組中から、店の電話がよく鳴るようになりました。大半は年配の女性でした。

ドラマに関する質問が日々多くなつていきました。質問の内容は多様でしたが、多かつたのはやはりペ・ヨンジュンさんに關するものでした。どういう俳優さんですか？どんなドラマに出ているのですか？などです。次はドラマの内容で、その次は韓国語の台詞に関する様々な質問でした。時には答えるのが難しい韓国語の発音に関する質問も多くありました。

韓国語に関する質問が多いと言つことに非常に驚きました。ドラマの内容だけに关心を持つのではなく、韓国語の發音にまで関心を持つと言つことは信じられないことでした。

次第に電話やメールだけでなく、店に来られて衣類や雑貨を購入される方が多くなってきました。一時間でも二時間でも、お店で韓国ドラマのお話をされる方が増えてきました。皆様のお話で最も多かったのは、「ドラマのおかげで体調がよくなつた」ということでした。

ある五〇代の女性は、「更年期障害で数年間、ほとんど外出できずに苦しんでおられましたが、冬のソナタに出会つて、「更年期障害で苦しんでいた自分を忘れてしまつた」そうです。

また六〇代後半のある女性ですが、手術後に「冬ソナ」に出会つて、どうしても韓国語が習いたいと思われたそうです。初めて店に韓国語を習いに来られた時は杖をついておいででしたが、七〇歳を過ぎられた現在は杖をつらいらつしゃいません。現在も闘病中なのですが、「病人」としての毎日を送つていらつしゃらないように思います。

こういうお話が本当に多かつたのです。お店に来て韓国ドラマの話をしてることでストレスが解消される、ドラマのおかげでいやなことを忘れることができる、など、多くのお話を聞くことになりました。お客様よりほんの少し早く韓国ドラマに接していましたので、ほんの少しの知識を皆様にお話するだけで大変喜んでくださいました。「韓国ドラマは何よりのクスリです。」とおっしゃる方がたくさんいらっしゃいました。

一体、これは何だろう? これはどういうことだろう? と思いましたし、今もそう思います。韓国ドラマの何が「クスリ」になつているのだろう? という疑問です。

よく韓国語の生徒さんたちがお話をされるのは、「韓国ドラマの一途さ、ひたむきさ」です。善人であれ悪人であれ、とにかく一生懸命です。悪人はどこまでもひたむきに悪を重ねようとしています。また善人は、どんなに妨害されても最後まで努力をします。どのドラマも、「とことんやる」を貫いているように思います。あつさりあきらめないとなどないよう思います。「あきらめない」「とことんやる」上に感情表現が旺盛で振幅が激しいのですから、時には“しつこい”となることもあるでしょうが、このひたむきさがまた心地よくなるようです。

また、「韓ドラ」では、「皆が主人公！」です。主役だけではなく、周囲の家族、友人、敵方、などを丁寧に、皆の意見を平等に描くのが韓国ドラマの特徴のように思います。決して主役だけを中心には描くわけではありません。誰にも意見があり、誰にでも立場がある、皆が自分の人生の主人公で、誰でも言いたいことがあるのです。一人一人の人生を大切にしながら最終回まで熱く走っていく群像描写が韓国ドラマの本質だとわたくしは思っています。韓国ドラマのこののような特徴が私たちの心に届き、私たちを元気にしてくれるよう思います。ペ・ヨンジュンさんが出演された「愛の群像」というドラマの原題は「わたしたちは本当に愛したのだろうか?」というものでした。どなたかは知らないのですが、この原題を「愛の群像」と翻訳されたことに感動致しました。このドラマは、普通の人間が普通に生きることの難しさを真摯に描いた、優れた群像ドラマでした。

韓国に出かけるたびに、友人や知人と韓流の話をする機会があります。韓国の友人たちも日本における韓国ドラマの人気はよく知っていますが、なかなか実感できないようで、あれこれ質問攻めになることもよくあります。昨年一一月に韓国の原州という所にいきましたが、そこでまた数人の方と韓流の話になりました。韓国ドラマが日本でどのように受け止められているのか、やはり気になるようでしたので、「クスリとしての韓国ドラマ」という意味で今日はお話ししました。

「これから韓流がどうなっていくのか、それはとても楽しみです。」

司会：パネリストの皆さまありがとうございました。それでは第一部を終了致します。第二部の質疑応答に際し、「質問・意見等をお受けします。入口受付に意見箱を用意しておりますので、そちらにお願い致します。」

司会：大変おまたせ致しました。それでは、皆様からいただきました「質問・意見を基に、第一部の質疑応

答の時間に入りたいと思います。よろしくお願ひいたします。

仲尾 宏：それでは第二部に入ります。「感想も含め、十一名の方から質問・」意見を頂きました。お答え頂けるものについて、順に適宜お答え頂きます。まず最初の質問です。「イ・ユスクさんへ、『韓流ブーム』にもかかわらず今なお、「通名」の人が多い理由は何なのですか？」平井さんは日本人として、どう考えますか？」という質問です。では、イ・ユスクさんからお答え頂きます。

李 裕淑：名前はその人が慣れ親しんでいるとか、職業上その名前で通つていて変更すると大変な場合もあります。また、やはり差別も残つていて本名を使いにくいと考えている人もいるでしょう。私も通名ではあります。しかし、「リー」さんですか、「イ」さんとお呼びしますかと尋ねられた場合、単に漢字の日本語読みを使ふか韓国語読みで使つていいのか尋ねる人と、中国人か韓国人かどちらかなと思つてている人、私が在日と知つた上で、国籍が朝鮮のままの人が韓国籍の人か色分けするために聞いているな、と感じる三つのタイプの人と出会います。

実際に通名を長く使っていて本名に変えるとなると預金通帳やいろんなものを届け出て変更しなければならず、大変だと聞きます。

日本人女性研究者の中でも、女性の場合は先に出している論文と韓国人との結婚後の論文が名前は変わると検索などで繋がらなくて困るので国籍を変えないと、名前を変えると非常に困ると言ふ人もいます。

平井 美津子：わたくしには三人の在日韓国人の甥姪がいます。子どもには通名をつけないと妹夫婦は決めました。子どもたちが少しでも日本で生きて行きやすいように、わたしに何が出来るだらうとその時に考えました。韓

国語学習を始めた一つの理由にもなりますが、仮にそのとき妹夫婦が、子どもたちができるだけいじめられないようにはなっています。通名をつけると決めて、同じように思つたと思います。通名であるうと本名であるうと、まだ在日韓国人が生きにくい世の中だと思います。それに対して、自分に何が出来るだらうと考える」とが多いです。

仲尾 宏…はい、ありがとうございます。通名に関しては非常に深い歴史があり、「存知の方もいらっしゃると思いますが、昨年も「名前」をテーマにフォーラムを開催しました。今日は全体の時間もありますので先に進めたいと思います。

次の質問です。「単純な質問で申し訳ないのですが、「韓流ブーム」、韓流ドラマなど、韓流の意味は何ですか？韓国ブーム、韓国ドラマとかではないのは？」（五〇代）韓流ブームという言葉はやはり流行をさすのでしょうかね。とりわけ特別な意味が込められていくとは思いません。

次の質問です。「韓国ブームについて、次の点をお聞かせください。①在日コリアンへの日本人の差別（意識）の解消に役立っていると感じますか？ ②オールドカマーのコリアンとしてのアイデンティティの獲得に何らかの影響を与えていくと思しますか？」（四〇代）①番は平井さんに②番は李さんにお答え頂きましょう。

平井 美津子：役立っていると思います。韓国ドラマを愛している人々は家庭の主婦が中心です。お母さんが夢中になっている韓国ドラマを遠巻きに見ていた家族が徐々に一緒にテレビの前に座り、一緒に韓国へ行かれるようになつてきました。また、韓国の歴史ドラマがヒットして、「お父さんの韓流」という言葉を聞くようになりました。お母さんの影響は多大です。

李 裕淑：テレビ・ドラマなどで在日コリアン自身が韓国の文化を知ることができ、また、身近に感じる」と

ができました。昔は民族学校に通う一部の人以外はルーツである国について良く知らなかつたのです。もちろん、今でも韓国という国の中に距離や拒否感を持つ人も一部いらっしゃるでしょうが、「日本の人に自國の文化を理解してもらえるようになつた。」と感じる人は大勢います。韓流ブームは、在日コリアン自身が知る楽しさを得ると共に、日本での自國文化理解という解放感を生んだという点で、韓国人としてのアイデンティティ獲得に役立つていると思います。

仲尾 宏：次はご感想です。「近年のブームは若い人からお年寄りまで全年齢の方が興味を持つていてオバちゃんだけにとどまつていません。かくいう私もK-POPの大ファンです。特にKARAや少女時代は親子二代でファンの方がいらっしゃるようです。」（五〇代）

続いての方は二つの質問を書いてくださいました。「日本のアニメは最近よく流行っていますが、韓国ではアニメははやっていますでしょうか？日本のアニメで人気のあるのはどのようなものでしょうか？」「韓国では徵兵制があると聞きます。韓国の男性・若者は礼儀正しいそうですが、日本の男性と比べてどうですか？」（五〇代）これは李尚宰さんにお答え頂きましょう。

李 尚宰：（略）

仲尾 宏：次の質問に行きます。まず最初は、「李裕淑さん、韓流ブームに複雑な心境があるとおっしゃつていましたが、オールドカマーの在日コリアンはニューカマーの韓国人と違うと感じますか？」（私の周りにも外国人を嫌う在日コリアンはいます。）（三〇代）という質問です。では李裕淑さんからお願ひします。

李 裕淑：先ほども述べましたが、韓国・朝鮮の食文化などが理解されて、日本人の方からお土産にキムチや韓国料理のチゲスープの素を頂いたり、自分で作つたからとキムチなどをいただく日が来るとは考えもしていませんでした。私は一世や二世のハルモニ（おばあさん）たちの聞き取りを少ししているのですが、差別されてニンニク臭いと言われたとか、キムチは食べないようにしていたという話を聞いていました。そのハルモニたちのことを考えると時代も変わつたものだと思います。

韓国に親しみを感じ理解してくれる人が増えました。でも、その反面に北朝鮮は嫌いだと言う人が増えて、朝鮮学校に対する差別などは同じ在日として悲しいと思います。ブームに関する心境が微妙というものはそのような意味です。

「在日と韓国人と違うと感じますか？」という質問ですが、私はニューカマーの友人が多いです。また、専門学校で留学生に教えていましたし、私の属している研究室には韓国人、中国の朝鮮族、ロシアの高麗人（注二）の友人らがいます。一緒に食事にも行きますし、お互い気もあつて仲良くしています。もちろん親近感を感じています。向こうもきっと感じていると思っていましたが、聞いてみたことがないので本当のところは分かりませんが。今日も私がここで話すと聞いて、心配して韓国人の友人が一緒に来てくれました。しかし、私たちが違うと感じるか、と尋ねられますと違います。歴史的背景も違い、アイデンティティも違います。しかし、お互い認め合つて、文化の違いなどを理解しあい、違うことを楽しみながら仲良くしています。

仲尾 宏…この方はもう一つ質問を書いていらっしゃいます。「韓流の振り戻しなのか、日本社会の閉塞感に対するはけ口なのか、ネットを中心に嫌韓流的な言説や動きが多いことに対してどう感じていますか？」という質問です。

この質問には私からお答えします。確かに、そのような言説が存在しています。とりわけ「在特会」のような

過激な行動や韓国・朝鮮人に対する最大級の侮蔑的な言葉をまき散らす人もいます。しかし、これらの言動やグループは韓流ブームの前から日本社会の一部に根強く存在していました。だから私は「振り戻し」とは思っていません。

社会の閉塞感が強くなる時、どこでもあります。かつてのドイツにおけるユダヤ人に対するナチスの攻撃がそうでした。日本でも朝鮮人だけでなく障害のある人に対する強烈な差別や中学生の「ホームレス狩り」などもありました。身近な「敵」を作り出すことで、閉塞感を打ち消そうとする点が共通しています。また日本社会で少数者である「在日」に対しての攻撃や事実に反する歴史の偽造がそれです。

仲尾 宏：次は韓流の走りとなつた韓国ドラマの質問です。「韓国ドラマを見たことがないので一度見たいと思思います。おすすめのドラマを教えてください。」（三〇代）これは、平井さんにお答え頂きましょう。

平井 美津子：この質問が一番困ります（笑）。おすすめしたいドラマが最低一〇本ほどありますので。でも先ほど申し上げました「愛の群像」をおすすめいたします。ペ・ヨンジュンさんが出ているからというわけではなく、一般の庶民を丁寧に描いた群像ドラマです。

もし、歴史ドラマを見たいとおっしゃる方には「大祚榮（テ・ジョヨン）」という作品をおすすめ致します。高句麗が滅びたあと、渤海を建国するまでの長いドラマです。一時間ドラマが一三四回あるのですが、長いと感じませんでした。ドラマに熱中したおかげです。

仲尾 宏：ありがとうございました。次はご意見と質問です。「韓流ブームは文化面（映画・ドラマ・歌・食等）では、日本に大きな影響を及ぼし、今や一過性のブームから韓国文化として日本に定着してきていくと思

う。これが日韓の国民的レベルでの相互理解、親睦に繋がり、「近くで遠い国」から「近くで近い国」になって行くことを望む。質問は「一方、経済面では韓国企業・商品は欧米・中国のような成功を日本国内では收めていません。サムソン、LG、ヒュンダイなど、文化面では日本に受け入れ定着しつつあるのに、ビジネス面では日本にまだまだ受け入れられない原因は在日コリアンの立場からどう見ているか? 「文化→経済」の韓流ブームの流れは今後起ころのか?」(六〇代)以上です。では在日コリアンの立場からという希望ですので、李裕淑さんにお答え頂きましょう。

李 裕淑：電化製品、電子製品、自動車産業で日本は世界のトップを行くものを生産してきました。韓国はそれを学んで成長してきました。現実に今、サムスンは日本の大手の電機メーカーを一、三社合わせた以上に大きい会社になっています。韓流ブームの前ですが、大阪のある大病院が新しく建て直した後のコンピューターシステムはすべてサムスンを使っていました。でもサムスンはあまり日本で力を入れて売ろうと思っていないようです。しかし、ブラジルなどでは日本企業の広告も製品もあまり見なくて韓国製品が良く売れていると聞いています。

私は日本で韓国の電化製品が日本の製品を抜くほど売れなくても良いのではないかと思っています。文化の面で韓流ブームが起きたから観光など経済的効果もありました。しかし、何もかも韓国の方が入ればよいとは思っていません。

在日コリアン、特に二世やその後の世代は日本で生まれ育つて日本をとても大切に思っていると思います。日本が経済も発展し、みんなが住みよい国になることを望んでいます。私や在日の友人たちちはオリンピックやスポーツの応援でも日本も韓国も応援しています。

仲尾 宏：ありがとうございました。次は最後のご意見と質問です。「私は中学校の教員です。南区東九条という在日コリアンの集住地域で通算十五年ほど教壇に立っています。人権教育の中でも特に外国人教育を推進していく上で、私がしみじみ思うことは、「韓流ブーム」による効果が少ないということです。「韓流ブーム」によって、確かに隣の国・韓国は身近に感じられる国になったと思うのですが、もつと古くから実は日本に長く暮らしている在日コリアンに対する興味や関心は、というと日本人全般まだまだ薄いように思いました。正直、スポットが当たって然るべしの「在日」の存在はおいてけぼりにされているような・・・。その点を特に李裕淑さんはどう思われますか？」（四〇代）それでは李裕淑さんに統いてお答えいただきます。

李 裕淑：韓流ブームが起これり、ドラマを撮影した場所に行きたいと、韓国に行つたりして韓国に関心を持つ人や韓国語を学び始める人は増えました。その人たちがすぐに在日に関心を持つかというとそうではありません。すぐ近所の在日は当然ながら芸能人ではないので、ドラマの主人公のようにカッコいい人は少ないのでしょうし、自分たちと同じように日本語を話しているので興味も持たない人がほとんどだと思います。

しかし、韓流ブームがきっかけで韓国語を学び始めた人、歴史に興味を持つた人たちの中で、学ぶうちに植民地時代のことや在日の歴史的背景なども知るようになり、理解を深めたという人は何人か知っています。もちろん、ブームに乗つてドラマなどだけを楽しんでいる人もいます。

在日コリアンについて理解してもらえるには、時間と学ぶ場というか知る場が必要だと思います。在日コリアン問題だけでなく、何もしないでは社会は良くならないと思います。そのような意味でも今日の京都市国際交流会館のフォーラムはとても大切な場だと思います。

仲尾 宏：ありがとうございました。最後は「感想です。「NHKラジオでハングル講座が開始された時、

しばらく聞いていたのですが、かなりのブランクの後、ここ数年ＮＨＫラジオをほぼ毎日聞いて勉強しています。韓流ブームを経ても私の周りでは未だに「なぜハングルなんか」という空気があります。私は単純に「ハングルの響きが好きで、懐かしさを感じる。」もうそれだけで十分と思って勉強を続けています。大きさかもしれません、一人でも多くの日本人がハングルを勉強し始めれば世界は変わるぐらいに思っています。今日は本当にいいお話をありがとうございます。（ハングル）（五〇代）

さて、今日はさまざまな質問にお三方からお答えいただきました。本日のテーマである「韓流ブーム」については三人の方も聴衆の皆さんのご質問を見てもいずれも好ましい結果という評価であり、またそのような結果をもたらしたと思います。そしてもう一つのテーマである「在日」とのかかわりについてはさまざまな課題があるとも思います。

昨年は「韓国併合」一〇〇年の節目の年でした。そして「在日」の方はこの一〇〇年の間の日本と朝鮮半島の歴史の中で生まれた人々であり、また歴史に翻弄されてきた人々でありました。それは、在日の方々のそれぞれの家族の歴史に刻まれています。その方々の歴史を知ることによって私たちは今日の日本の社会と日本人の歴史に対する責任を考えていかねばなりません。未来をより豊かにしていくには、その作業をおろそかにしてはならない、と思います。

今日は三人三様のお立場で、その問い合わせをしていただいたように思います。また、「韓流ブーム」のもたらした好ましい結果を定着させる意味でも、未来に向けて日本と朝鮮半島、そして東アジアの歴史を振り返り、考える契機としたいと思います。どうもありがとうございました。

司会：パネリストの皆さま、仲尾先生ありがとうございました。次回三月四日は、「子供への期待と教育」をテーマにフォーラムを予定しております。皆さまのご参加をお待ちしております。本日は、ありがとうございました。

いました。

「ここからあとはフォーラム終了後届いた感想を紹介しておきます。

「韓流ブームが長く続いているからと言って在日に対する理解が深まるわけではないという在日の方のジレンマ。しかし、じわじわとお互いを理解していくけるベースにはなり得るとよくわかりました。私は日本人で、五六年前からブームに乗り韓国語を勉強しています。自分の中で単なるブームで終わらず続けて行けることは不思議でもあり、楽しく韓国に親しんでいます。本日はありがとうございました。」（五〇代）

「韓流」ブームでのグルメや芸能人に興味を持つた人が次に言葉に興味を持つということになるほどと思つた。言葉＝文化であり、ブームから十年経て、今から本当の理解が始まつていく時期なのでしょう。（三〇代）

「在日」・「ニューカマー」・「日本人」という立場によつてもつと様々な意見が出てくると思つたが、結果的に「よかつた」という話が多かつた。無論「在日」を取り巻く状況にすべてプラスかということは疑問であるが、「韓流」からは「北」「在日」が抜け落ちている、という指摘には考えさせられた。韓国人による日本に対する見る目が広がつてきた、という指摘はするどい。「これは良い傾向だ。」（四〇代）

「今日この連続フォーラムに参加しましたのは、在日（オールドカマー）の人たちのことについて知りたいと思つたからです。恥ずかしながら、私は何人くらいの人々が居て、どんな問題があるのかについて全く知らないまま今日に至ります。高校時代に在日の方が数人いて、友人でしたが、国籍や生活地の事などにはなるべく触れないようにしてきました。それは、区別することがタブーであると思っていたからです。それでも仲良く友達として触れあつてきたし、卒業式にチマ・チョゴリを着てくると、（母校は私服だったので日本人女子は袴や振り袖を着る子が多かつた。）「カワイイ」と声をかけたりしました。李裕淑さんはお話を中で韓流ブームは表面的なものであり、より深い文化を知るところまで行ってほしいと言つておられたと思いますが、本当にその通り

だと思いました。文化は楽しむもの、まさにそうありたいと思います。」（三〇代）

（注二）今回のフォーラムのうち、第一回につきましては当協会のミスにより収録が不完全なものになりました。直後、パネリスト、コーディネーターの方々には、メモ、レジュメ、記憶などにより、発言内容を可能な限り現場を思いだしながら再現していただき今回の「記録」とさせていただきました。なお、李尚宰様につきましては残念ながら多用のため、止むを得ずその発言を省略させていただきましたこととなりました。発言者、参加者、また、この「記録」をお読みいただいた皆様には心よりおわび申し上げます。

（注二）「ロシアの高麗人」とは一九三〇年代の国際関係悪化の時期にロシアの沿海州地方に在住していた朝鮮人約十数万人をスターリン時代のソビエト連邦政府がカザフスタン、ウズベキスタンなど中央アジアに強制移住させた人々の後裔たちである。ロシアではその人々のことを「カレイスキイ」とよんでいる。その詳細な人数や事実関係はなお不明なことが多い。その人たちは日本の朝鮮半島植民地下で生活悪化のため、日本に渡航した「在日」や旧満州に移った現在の中国の「朝鮮族」と同じ条件下にあつた人々である。（仲尾）

## 連続フォーラム「チョゴリときもの」No.18 ～在日コリアンの視点とニューカマーの視点～

「オールドカマー」と「ニューカマー」とは？

### □オールドカマー

戦前に日本へやってきた、あるいは強制的に連れてこられた人とその子孫  
(2~5世 総計により少しのばらつきあり。下記数字は概数)

#### 在日朝鮮人韓国人の数

1910年	「韓国併合」の年	約 2,500 人	(大日本帝国臣民となる)
1920年		約 30,000 人	
1930年		約 300,000 人	(40万人という説もある)
1940年		約 1,200,000 人	(中国侵略本格化の3年後) (この前後に「募集・官斡旋」などのなかば強制的な日本への渡航が開始)
1943年 国家総動員法 約 1,820,000 人			
1945年	「解放」の年	約 2,000,000 人	→ 帰国
1946年		約 600,000 人	→ 1947年登録令で「朝鮮」
1952年	日本国籍喪失	約 550,000 人	→ 戦後日本生まれの人も喪失
1965年	日韓基本条約	約 650,000 人	希望者は「韓国国籍者」 希望しない人は「朝鮮」
1991年	「特別在留資格」	約 600,000 人	→ 韓国・朝鮮問わず有する。
2009年		*約 405,571 人	→ 狹い意味での「在日」

\*この他に日本国籍取得者、20歳未満の二重国籍者など多数存在。

### □ニューカマー（新渡日、来日、新定住者などの呼び方がある。）

1965年	(日韓基本条約締結) 以降韓国から来た人。
その他の国・地域からは特定の在留資格(査証)を持った人が定住し始める。	
資格は各種の労働許可のある資格、留学・就学、そして日本人の配偶者等、	
家族滞在→定住者、永住者などの資格を一定期間後に許可される。	
2009年	韓国からの NC 概ね 172,924 人(留学・就学は内約 28,000 人)

## チョゴリときもの No.18

資料

## 在日外国人在留資格別内訳

	京都府総数	韓国・朝鮮	京都市総数	韓国・朝鮮
特別永住者	28,962	28,831	22,870	22,773
永住者	6,195	1,287	4,095	994
定住者	1,187	249	676	159
日本人の配偶者等	2,651	209	1,619	244
永住者の配偶者等	263	104	205	97
家族滞在	1,676	249	1,427	230
留学	5,160	863	4,971	833
就学	1,516	65	1,561	62
投資経営	58	24	39	7
人文知識・国際業務	901	70	787	57
その他	4,429	354	3,045	286
総数	52,998	32,305	41,295	25,742

\* データは2009年12月31日現在(入管協会調べ)

## 全国 外国人登録者数

韓国・朝鮮	578,495	前年比 △1.8%
(うち特別永住)	409,565	前年比 △2.6%
総数	2,186,121	前年比 △1.4%

## 外国人登録国籍別人員調査票

(京都府国際課調べ(抜粋))  
(2009年12月31日現在)  
(単位:人)

国籍	韓国・朝鮮	中国	ブラジル	その他	計
京都市	25,742	9,029	178	8,346	41,295
福知山市	396	222	63	320	1,001
舞鶴市	636	124	31	375	1,166
綾部市	93	183	7	92	375
宇治市	1,739	676	29	389	2,833
宮津市	85	12	1	62	160
亀岡市	519	129	1	148	797
城陽市	427	129	42	76	674
向日市	360	57	6	57	480
長岡京市	339	106	6	142	593
八幡市	288	172	43	208	711
京田辺市	234	141	6	136	517
京丹後市	119	59	0	195	373
南丹市	197	34	6	55	292
木津川市	181	116	16	185	498
市合計(京都市除く)	5,813	2,180	257	2,440	10,470
市合計(京都市含む)	31,355	11,189	435	8,786	51,765
大山崎町	85	10	0	20	115
久御山町	181	114	85	52	432
井戸町	49	8	9	6	72
宇治田原町	27	56	0	18	101
笠置町	0	1	0	1	2
和束町	6	2	0	4	12
精華町	97	51	0	78	226
南山城村	12	2	0	5	19
京丹波町	69	43	5	29	146
伊根町	0	0	2	2	4
与謝野町	62	78	0	44	184
町村計	588	365	101	259	1,313
府合計	31,943	11,554	536	9,045	53,078

## 外国人登録国籍別人員調査表

京都府府國際課調べ  
令和1年12月31日現在

(単位：人)

市町村	総数	韓国又は朝鮮	中国	フィリピン	米国	ブラジル	タイ	英國	フランス	インド	その他	の国籍	無国籍
平成11年	55,495	41,814	6,437	1,475	1,134	753	192	366	192	297	2,811	24	
平成12年	55,517	40,863	7,064	1,726	1,144	739	214	394	190	357	2,608	18	
平成13年	56,643	40,005	8,324	2,070	1,190	828	236	399	216	347	3,007	21	
平成14年	56,685	39,062	8,972	2,167	1,220	799	234	410	209	368	3,214	30	
平成15年	56,817	37,676	9,925	2,525	1,282	696	262	429	242	397	3,365	18	
平成16年	55,852	36,410	10,085	2,505	1,294	654	289	431	251	417	3,499	17	
平成17年	55,361	35,506	10,337	2,280	1,361	562	330	441	307	461	3,760	16	
平成18年	54,698	34,569	10,642	2,132	1,375	571	373	425	303	433	3,859	16	
平成19年	53,693	33,489	10,954	2,100	1,310	560	379	399	316	364	3,808	14	
平成20年	53,247	32,691	11,213	2,059	1,291	559	406	389	348	366	3,919	15	
平成21年													
京都市	41,295	25,742	9,029	1,005	1,026	178	324	330	335	232	3,082	12	
福知山市	1,001	396	222	232	14	63	4	4	0	8	58	0	
舞鶴市	1,166	636	124	258	11	31	5	5	0	5	91	0	
城陽市	375	93	183	36	3	7	3	1	0	1	48	0	
宇治市	2,833	1,739	676	71	30	29	18	13	8	47	202	0	
宮津市	160	85	12	50	4	1	1	0	0	1	6	0	
亀岡市	797	519	129	62	24	1	13	5	2	5	36	1	
城陽市	674	427	129	25	7	42	3	1	1	7	32	0	
向日市	480	360	57	10	14	6	2	1	0	3	27	0	
長岡京市	593	339	106	36	21	6	13	8	4	5	54	1	
八幡市	711	288	172	37	15	43	8	2	1	15	130	0	
京田辺市	517	234	141	10	47	6	18	5	3	2	51	0	
京丹後市	373	119	59	173	8	0	2	0	1	1	10	0	
南丹市	292	197	34	27	10	6	2	1	0	0	15	0	
木津川市	490	181	116	19	34	16	2	8	7	5	110	0	
大山崎町	115	85	10	2	2	0	1	2	0	2	11	0	
久御山町	432	181	114	15	2	85	4	0	1	2	28	0	
井手町	72	49	8	1	3	9	0	0	0	0	2	0	
牛久美原町	101	27	56	1	3	0	2	1	0	0	11	0	
笠置町	2	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	
印南町	12	6	2	1	2	0	0	0	0	0	1	0	
精華町	226	97	51	2	26	0	3	1	0	2	44	0	
南山城村	19	12	2	1	2	0	1	0	0	0	1	0	
京丹波町	146	69	43	17	2	5	2	1	0	2	5	0	
伊根町	4	0	0	1	1	2	0	0	0	0	0	0	
与謝野町	184	62	78	36	4	0	0	2	0	1	1	0	
合計	53,078	31,943	11,554	2,128	1,315	536	431	391	363	346	4,057	14	
											4,057		
対前年比	99.7%	97.7%	103.0%	103.4%	101.9%	95.9%	106.2%	102.9%	104.3%	94.5%	103.5%	93.3%	



## 第一回「子どもへの期待と教育」

パネリスト

コーディネーター

孫 美幸（ソン ミヘン）氏  
劉 仙姫（ユウ ソンヒ）氏  
仲尾 宏氏（京都造形芸術大学客員教授）

二〇一一年三月四日（金）開催



司会…それでは時間になりましたので、ただいまから第一回連続フォーラムチョゴリときもの、本日は第二回目ということで始めさせて頂きたいと思います。今年は在日コリアンの視点とニューカマーの視点をテーマにパネリストの方々からお話を伺いしております。本日は第二回目で、テーマは「子どもへの期待と教育です。」ご自身の子ども、そして社会における子ども達への願いや思い、子ども達を通じて得る経験、体験をそれぞれの立場でお話ををして頂きます。

それでは本日のパネリストをご紹介させて頂きます。お一人目は孫美幸（ソン・ミヘン）さんです。よろしくお願いいたします。孫さんは国籍条項撤廃後、だいぶ初期の頃に中学校の教員として採用されまして、教えてござられました。現在は京都大学の人文科学研究所で研究員として在籍されておられます。保育園に通う男の子のお子さんをお持ちですので、そういうところから色々な事に気づいて楽しんでおられるという事ですので、そのへんのお話も伺いたいと思っております。

お二人目は劉仙姫（ユウ・ソンヒ）さんです。よろしくお願ひいたします。劉さんも同じく京都大学で国際政治の研究員として在籍しておられます。帝塚山大学でも国際政治を教えておられます。劉さんは元留学生という事で、そういう立場からもお話を伺いたいと思っております。お二人の男の子のお子さんを育てておられますので、韓国の受験事情等に関してもお話を伺いたいと思っております。

そしてコーディネーターとして、いつものように京都造形芸術大学の客員教授、仲尾宏先生にお願いをしております。今日はよろしくお願ひいたします。

フォーラムは二部構成になつておりますので、第一部のパネリストのお話終了後に皆様からご意見、ご質問、またご感想を頂きまして、第二部につなげていきたいと思っております。また途中、事業の記録の為に後ろの方から時々写真を撮らせて頂きます。ご了承頂きますようお願いいたします。それでは仲尾先生よろしくお願ひいたします。

仲尾 宏：お寒いところよく来て頂きました。今日は第二回目です。戦前から日本に来てらっしゃった方とそのご子孫をオールドカマー、戦後、一九五一年以降に日本に来られた方をニユーカマーと言つておりますが、そのニユーカマーの人達のお立場からそれぞれ今日本の社会における在日、あるいは外国人の問題を見ていくこうという事で、子どもへの期待と教育というのが今日のテーマになつております。

オールドカマー、ニユーカマーについては前回、第一回目の時に資料をお配りして説明をさせて頂きました。今日初めてお越しの方にもお配りしてあると思いますが、韓国・朝鮮つまり朝鮮半島から来られた特別永住者、オールドカマーは全国で四〇万九千人。京都市内ではその内二万二千人。ニユーカマーは約三千人となつております。ニユーカマーと申し上げますけれども、ごく最近来られた方もおられるし、今日お話を頂く劉さんのように来てからもう一〇数年という方もおられます。その方には、どうして私がニユーカマーかと訝られるかもせんけども、戦前から来られた方々のご子孫ではない、植民地時代に日本の一端として併合されていて朝鮮半島出身の子孫ではないという意味でニユーカマーと一応区分けをしております。今日お配りしました新しい資料は、韓国・朝鮮籍者の年齢階層別の分布、これが五歳刻みで表されたものです。この韓国・朝鮮籍者は今申しましたオールドカマー、ニユーカマーを合わせた数字で、その区分はしておりません。全国総数では、五七万八千人、これが二〇〇九年末の数字です。京都府の総数が三万二千人、これを五歳刻みで分けますと、見て頂いたらわかるように驚くべき少子化傾向ですね。これは日本人の場合も同じ事で、それと同じ状況が韓国・朝鮮籍者のオールドカマー、ニユーカマーを含めて進行している事が今の日本社会の現実です。例えば、京都府総数で〇歳から四歳の子どもはたつた五二七人。五歳から九歳はもう少し多いですがそれでも六七三人。ですから、一五歳以上、つまり一〇年前に比べると半分以下に減つているという事になりますね。ただしこれはあくまで韓国・朝鮮籍として外国人登録されている子どもさん方として、韓国・朝鮮籍のご両親どちらかと、日本国籍者のご両親のどちらかが国際結婚されて生まれた子どもは、ご両親の話し合いの結

果日本籍者として二〇〇歳まで登録しておく。二〇〇歳から二二二歳の間に本人が決めるという事が可能ですが、例えば〇歳から四歳でも五二七人の他にそういった方々、つまりダブルの方が数百人おられるという事は想像がつきます。あるいは数百人よりもっと桁が多いかもしません。それは今統計的に把握できない状態ですので、とりあえずこの表を見て頂くと、日本社会の少子化傾向が韓国・朝鮮籍者の場合も非常に進行している事だけをおわかり頂きたい事と、総数としてはもう少し多いだろうという二点をご確認頂けたらと思います。

それでは早速お二人のお話に入っていきますが、まず孫美幸さんからお願ひいたします。孫美幸さんのところには在日二・五世と書いています。この二・五世の説明もご本人からして頂いたらいとthoughtしますので、それも含めて早速お願ひいたします。



11.

孫 美幸 氏

ども、父から数えると私は三世になりますし、母は釜山の出身でお見合いをして父に嫁いで来ましたので一世です。なので、何世ですか?という質問にとても困ります。二・五ぐらいですって言うんですが、最後はどうちでもいいや、という曖昧な感じです。それを今日はわざわざ書面に書いて頂きました。今日のテーマは子どもへの期待と教育という事なんですが、大きく二点について話したいと思っています。自分がどういう風に育つてきたかという点が一つ、二つ目は先ほども紹介があつたんですが中学校の教員として四年間働きました。その時の経験を話せたらと思います。三点目は今二人子どもがいるんですけども、育てながら感じた事をお伝えできればいいなと思っています。

それでは一点目から話していきます。自分が育つてきたなかで名前であつたり学校であつたり言語に関して、両親がいろんな選択肢を私にくれたなと思います。そのなかで最終的には自分の自由な選択のなかで育つてきた

という思いがあります。例えば、私はずっと日本の公立の地域の学校に通ってきたんですけども、進学する度に父が必ず民族学校の案内を持つてきました。中学校であつたり高校であつたり、こういう民族学校の案内も来ているけれども、お前はどうする？と聞かれました。私は地域の学校に行くよ、と言つて結局地域の学校を選んだんですけども、強制される事はなかつたです。言語も、母は一世で、今はペラペラなんですけども元々は全く日本語がわからない状態でしたが、私はずっと日本語で育つてきました。例えば高校の頃、民団の韓国語の講座や同志社大学で夜に無料の自主講座などがありました。今もずっと続いているではないかと思うんですけども、そういう講座があれば両親共に情報を持ってきてくれていました。こういった講座があるから韓国語学んでみたい、と言われると、どうしようかな、忙しくなかつたら行くわ、という感じで、高校生の時に一回自主講座に行きました。そうやって言語を学ぶ機会も与えてもらいました。

名前は孫美幸という名前を使っているんですけども、大学に入学して一年目ぐらいまで、ずっと通名で過ごしました。大阪外国语大学の朝鮮語学科に進んだんですけども、その時に韓国人の留学生や在日の友達であつたり、日本人であつても朝鮮半島の文化に興味がある子達が多かつたので、自然に本名にしようかなと本名を選択しました。その時両親は反対することもなく、好きにしなさいという感じでした。

普段の生活の中でも朝鮮半島と日本の自然な混ざり合いの中で自分が育つてきたと思います。一つだけ挙げる季節の行事でチエサ（祭祀）という、日本で言うところの法事を必ずしますが、女性はすごく忙しいんですね。前日の料理や買い物などの準備をするんですけども、私も小さい頃から家でお手伝いをしていました。お祖母ちゃんが机の横で仕切るんです。キッキンから机までお供えものをお供えするのが私の係りだつたんですが、お供えの中に季節の果物を必ず母は用意していました。バナナであつたりスイカであつたりチエサの机の上に並んでいたのを覚えてます。ある日私が桃を持つて並べようとしたんです。そしたらうちのお祖母ちゃんが駄目って言うんですね。なんでバナナがよくてスイカがよくて桃はあかんの？ってうちのお祖母ちゃんに聞いた

んですけど、お祖母ちゃんは知らんけど昔からあかんて言われてるとか言って全然教えてくれないんですね。それで気になつて調べてみると、桃は昔から邪氣をはらうといふのがあるみたいで、それをお祖母ちゃんは知つていたんですね。祖先が靈として帰つてくるのを邪氣としてはらつてしまふので、桃は駄目だという事らしいんです。興味が湧いてもうちょっと調べると中国でもそういう話があつて、中国の古典に不思議な桃の木の話があつたんです。どうやら中国から朝鮮半島に伝わつたんだなと思って、よく考えたら日本でも桃が鬼退治してるとか。伝わつてきたんやなと感じました。ものすごく後の話ですけどその話をインド人の友人にしたんです。どうも桃の話は中国、朝鮮半島、日本つて伝わつて来てるわ、という話をしているとインドでも桃太郎と似た話あるよ、と言われて。じゃあ元々はインドかつていう話になつて、でももしかしたら日本からインドへ輸出してるかもしれないし、その辺りの文化の流れは私はわからないんですけども、そういう自分の日常から異文化に自然に興味を持つようになったと思ひます。外国语大学に進んだのはそういう背景があつたからだと思います。

大学を卒業して二年間は一般企業で働いたんですけども、中学校の先生として四年間働きました。先生になつた大きなきっかけの一つは教育実習を行つた事です。教育実習は京都市内の公立の中学校へ行つたんですけども、英語の単元で外国から日本に入った文化を紹介する、といった主旨のものがありました。その授業をする時に自分は何をしようかなと思つて、思いついたのが、例えば嫉妬するつていう言葉を言う時に、日本ではやきもちを焼くと言いますけども、なんで餅を焼くのかよくわかりませんが日本ではそう言ひます。朝鮮半島では嫉妬するとお腹が痛くなるんですね。中国ではチーツー（吃醋）つて言つてお酢を飲む、食べるつて言うんですけども、酸っぱい感じが嫉妬する感情に表れるみたいなんですね。英語で考える<sup>to</sup>green with envyと書いて、嫉妬すると真っ青になるつていうのをグリーンで表すんですね。そういう感覚つてすいべねつていう話を教育実習の時に中学生にした覚えがあります。たまたまその地域が在日コリアンの子が多くつたんですが、一人の在日コリアンの男の子が、先生の授業は今まで受けた授業とは違いましたつていう感想文を書いてくれまし

た。それを読んだ時に自分も教育現場に行つて、何か違う事が自分だつたらできるんじやないかと思つたのが先生になつた直接のきっかけでした。それから四年間働いたんですけども、子ども達からいろんな言葉が出てきました。今日は四つだけ子ども達が必ず感想文を紹介しようと思います。人権学習つていう時間が中学校には多くあるので、その時に子ども達が必ず感想文を書きました。その感想文を紹介したいと思います。

一つ目の感想文です。「今日の人権学習で、日本に住んでいる外国の方の思つている事や大変さがわかりました。今日の人権までは在日の方でもジエスチャーなどで少しは話みたいなものができると思っていました。ですが実際はそうはうまくいかないなと思いました。今日の授業で日本に在日している方の気持ちがいろいろとわかりました。」一番わかつてもらえたなかった感想文の一つやと思うんですけども、在日の人やつたら日本語片言やろうとかいう先入観が強いみたいで、なかなか中学生に一時間話したぐらいではそこを乗り越えられないというのは実感としてありました。

二つ目の感想文を読みます。「孫さんの第一印象はもう日本人やんつを感じました。ずっと日本の京都にいたんですから当たり前ですね。初め日本の名前やつたのに後から中国の名前に戻すつていうのは興味深かつたです。」「私中国出身つて言つた覚えないんですけど、この「孫」つていう名前がキーポイントみたいで、孫つていう漢字を書くと子ども達は孫悟空とか、孫文までは思い出さへんかもしけんけど、中国のイメージがすごく強いみたいです。私が朝鮮半島にルーツがあるつてどれだけ話しても、先生中国語もできてすごいなあと。そういう先入観もなかなか乗り越えられない感じがしました。

三つ目の感想文を読みます。「在日韓国人の事や朝鮮半島の文化などについては小学校で習つっていたので少しは知つていましたが、実際は孫先生の曾祖父さんや曾祖母さんのように日本に来るのが大変な苦労だつたという事は全く知りませんでした。しかも朝鮮半島は日本によつて植民地化され名前まで変えさせられたのに、今日日本は僕達も含めてその事実をほとんど知らないというのはすごく残念だと思いました。」

もう一つ最後の感想を読みます。「小学校の歴史の時間では日本軍が朝鮮を攻めて併合したというぐらいしか聞いていませんでした。今まで全く攻められた朝鮮人の事を考えた事がなかつたのでとても驚きました。その後朝鮮の人がどんな思いだつたかを知りたかつたので、今日孫さんの話を聞けてよかったです。」というふうに歴史の授業の事を子ども達が書いてくれました。どうも大人の考へてゐる事を見透かされてゐるなと思います。入試の為の歴史、試験の為の歴史。子ども達には「韓国併合〇〇年」って書いてあつたら、「一九一〇」と書くように子ども達にはインプットされてゐるんです。しかし、実感として歴史がどうなかつていうのをなかなか感覚として覚えられないっていうのは、大人の教え方もあるかも知れないですが、子ども達になかなか伝わらないなど実感しました。子ども達の言葉にいろいろ出会えう内にもつと文化とか歴史の事を体感しながら学べる授業とかプログラムを作つていけたらいいなというのが次の自分のステップ、興味の対象になりました。

その後大学院に進学するんですが、それまでの経験から、平和教育であつたり、多文化共生教育つていうのをテーマに研究する事につながつていきました。大学院にいる間に子どもを一人出産しました。昨年九月に女の子を出産して、別のところで見せる機会があつたので写真を引き伸ばしたんです。今日ちょっと持つてきただんすけど、どんな子が見てもらおうかなと思つて。こんな感じの子が生まれました。今お祖母ちゃんのところに預けてお留守番しています。名前はすごく悩んだんです。何を悩んだかと言うと日本語でも韓国語でも読める名前がいいなと思つたんです。何でかというと、劉さんもお子さん育ててらつしやるんでわかると思うんですけど、私の体験がすごく大きいんですね。私は日本語の名前でミニキ（美幸）ですけども、両親は日本で育つだらうという事を考えて、日本の音だけを考えました。このミヘンっていう音がどれだけ変わつていうのは韓国語のネイティブの人だつたらすぐわかるんですね。私も、韓国に一年暮らしてたんですが、その時にこのミヘンっていう単語を見たのは、泥棒が逃げて行つて、後から探偵が追いかけていくんですね。私、字幕にミヘンハジヤつて出たのを見たんです。すごいショックで。ミヘンハジヤつてどういう事かというと尾行しようつて事ですね。ミヘンつ



りません。私自身もそれで学ぶというか、カタカナの名前を聞くとどこの国の人？って聞いてしまう親がナンセンスやなと思つて。二歳のユウマから親が学んでいるなという感じがします。また、保育園の行事に遠足があるて家族が皆ついていくんですけども、昨年五月に市内の動物園に行きました。いろんな文化背景を持つ子ども達もお母さんお父さん皆一緒に行つたんです。イスラム圏の方もおられたので、ヴェールを巻いた人とか、いろんな方がいらしたんですけども、うちの母も一緒に来ました。うちの母は一世なので沢山の外国の親御さんがおられるところになるとテンションが上がつたみたいで、たまたま横でお弁当を食べているお母さんが南アフリカ出身の方で、即座に話しかけてるんですね。どこの国の方ですか？南アフリカです。私も韓国から来ました。つてもう三六年前なんんですけど、母もすぐテンションが上がつて、いっぱい話をしていました。南アフリカのお母さんは実家が遠いので、南アフリカ行くだけでも大変やし、実家の手伝いとか望めないんですね。私に「You are lucky.」って言われたんです。実家のお母さんが側に住んでいるあなたはラッキーよ、日本での子育て大変だもんね。南アフリカのお母さんはそう言つていました。うちの母と孫である子どもと、そしてまた横のつながり、縦に横に保育園での経験を通して広がつてしていくのがまた自分にも勉強になるなと思っています。

そういうった面白い体験も沢山あるんですけど、最後に子育てしながらあれ？と思う事を二つ言つて終わりにしたいと思います。一つは私の苗字は孫なんですけど子どもは山田です。父親の性を名乗っています。例えば近くの児童館に行つたり、こどもみらい館であつたり、子育て講座なんかに行くと、私の苗字と子どもの苗字が違うんですね。受付の方がすぐ戸惑われます。なんか訛有りの家族なんやろかっていう感じで見られます。一度、ちょっとお年を召された女性の方が受付におられて、講座の申込書の葉書を見て一生懸命孫つていうのを探してはるんですけど、子どもは山田なので、わからへんなど思つて私が「山田佳連」って書いてあるこれがうちの娘ですって言つてもなかなか通じなくて、よくわからないという感じでした。もうちょっとと時間をかけてそれが娘なんですってやつとわかつてもらえたんですけど、そういう小さいストレスみたいな事がちよつとずつあ

るなと思います。同じ家庭でも国籍、名前の違う人が沢山いるので多文化化していく社会の中で現場レベルで対応になればいいなと思います。

もう一つは先日子どもが生まれて京都市からアンケート用紙が送られてきて、それを開けると「父子家庭のアンケートです」と書いてありました。びんとこられる方はわかるかもしれないですが、国籍が日本と韓国だと戸籍上私の名前は載らないんです。データベース上は一見父子家庭に見えてしまってます。京都市からアンケートなんかが送付されてくる時に、行政側の立場に立つたらわからないわけではないんですけども、何かチェックを入れるなり少し手間をかけてほしいと思います。やっぱり父子家庭のアンケートを受け取つてあんまりいい気分はしないんですね。そうじゃないのについて思うんです。社会の仕組みであつたり行政の枠組みを少しずつ変えていく事で皆が気分良く暮らせるんじやないかなと思つています。

以上です、ありがとうございました。

仲尾 宏：ありがとうございます。大変楽しく好ましいお話をいっぱい聞かせて頂きました。最後の二つはいろいろ考えねばならない事がありますね。最後の方です。なぜ父子家庭になつてているのか。今のお話ではピンとくる人、こない人という表現でしたけど、ピンときた人いらつしやいますか。はい、ありがとうございます。ピンとこない人の方が大部分、これはほとんどの日本人の常識だと思うんです。というのは、今の日本の戸籍、現代の戸籍法はいつできたかという事です。古代から連綿として日本社会に戸籍があつたわけではありません。飛鳥時代に一時作られましたけども、それはまもなく消えてしましました。明治政権になつてから一つは徴兵をする名簿作り、もう一つは税金を取り立てる材料作りで新たに戸籍法を作りました。戸主、これは必ず男性という事になつております。そういう男系中心の家族制度を作り出しました。そういう明治政権の下で今の戸籍法ができたんです。現在の戸籍法では戸主ではなくて世帯主となつて世帯主は女性でもいいという事になつています。しか

しこれはあくまでお父さんもお母さんも日本人からきている、つまり先代が日本人である、あるいはお母さんの方も先代が日本人であるという前提できているわけですね。ところが孫さんのお母さんはように韓国籍から入つてこられた方は、先代、つまりお母さんのお父さんは日本の戸籍に載っていないわけですから、だから入らないという事になります。それは韓国籍の方だけではなくて全ての外国籍の方がそうなるんです。ちなみに申し上げますと、京都市では現在本人の申出によつて但し書き条項で、何年何月何日に孫美幸さんのお母さんがお父さんである山田さんと結婚、婚姻をしたという申出があつたという場合に、但し書き条項の中にそれを加えるという事で、父子家庭、あるいは逆の母子家庭というような事が事実ではないという事がわかるようになりますが、そういう但書をしていない市町村ですと、父子家庭、母子家庭の今まで今のような事になるわけですね。そういう意味では戸籍というのは過去から未来永劫に渡つて本人の属性を表す貴重なものだと考えられますが、そのような欠陥も持つてゐるんです。（この項については第三回フォーラム（八七頁）参照）

ちなみに戸籍があるのは現在では台湾と日本だけです。韓国も戸籍がありました。韓国、台湾になぜ戸籍があつたかというと、一九一〇年に日本が植民地支配をしたあとで朝鮮戸籍令という命令を出して朝鮮戸籍を、あるいは台湾戸籍を作つたんです。それは日本の本土のものとほとんど瓜二つだったんです。それが戦後も受け継がれていたんです。ところが韓国では二年前にそういう戸籍は必要ないという事で廃止いたしました。台湾の事情は私はよく知らないんですけども、そもそも戸籍といふものは世界中どこの国でも作つてゐるものであるといふのは大変な誤解なんです。戸籍はそういう父系の、今だつたら両系ですけども、先祖探しには多少は役立つかもしれませんけども、逆に異常な差別性も生みます。父子家庭や母子家庭という事もあるかもしませんし、明治の時にはいわゆる身分が戸籍に記載されました。華族、士族、卒族、平民、あるいは新平民という形で被差別民の血筋がわかるようになつてしまつてゐる。そういう戸籍でもあつたわけですね。そんな意味から戸籍というものはいらない、というように韓国では大胆な決定をして、現在はありません。おそらく北の朝鮮民主主義

人民共和国も戦前は大日本帝国の一部でしたから、戸籍令が施行されたんですが、今は国民をすべて朝鮮公民と称しております。戸籍はおそらく廃止されていると思います。そういう事を先ほどの孫さんのお話を聞きながら、これは少し皆さんに知つておいて頂いたらいいと思ってご説明させて頂きました。それではもう一人の今日のパネリスト劉仙姫さんにお願いいたします。



劉 仙姫

劉 仙姫：私は子どもへの期待と教育という事をニューヨークマナーの視点から皆さんにお話したいと思います。大きなテーマは三つあります。韓国の大学の受験事情と、レジュースを皆さんに配つていると思うんですけども、二つ目が日本社会における教育事情、三つ目が子どもへの期待と教育というテーマです。まずは自分の経験について、韓国でどのような経験をしたかという説明をします。

私が大学に入ったのが一九九〇年なので、その後にゆとり教育が始まって、今は親も本人も大変な思いをすると思うんですけど、韓国もそれに劣らないかもっとひどい状況で、中学校に入つた時から、一日三時間寝ると自分が希望する大学に受かる。四時間寝たら落ちるということわざと言いますか、そういうお話があります。一日睡眠は三時間という感じで勉強をしました。高校に入りますと、朝六時に学校に行くんんですけど、帰つてくるのは夜中の一時なので、お家で過ごす時間が五、六時間ぐらいしかないんです。親に対して行つてきます、ただいまではなくて、担任の先生に行つてきます、ただいまを言うような感じになります。学校での勉強の時間が朝六時から夜中の一時までとこどんやるというような体制で、昼のお弁当はもちろん朝も時間がないので、朝ごはん、昼ごはん、夕ごはんとお弁当を三つ込んで行つて、おかげも持つて行つて、学校で食事を全て済みます。日本では一般的でなくて限られた人達がやるような受験経験を、韓国で

はほとんど全般的にやらざるという違いがあります。日本では私立とか国立とかそういう高校生がやるような経験を、今は変わっていますけど、私の時はほとんど全般的に子ども達は朝六時に行つて夜一一時に帰つてくるという繰り返しの生活でした。いじめというのは学校では経験しないんですね。いじめをやるような余裕があるか、という事で。それぐらい気持ちの余裕がないですね。勉強以外はほとんど余裕がないです。思春期つていう事で、いろんな小説とか読む子もいるんですけど、そういうのを読める段階でも、有り得ないとなります。日本では今はどうかわからないんですけど、高校生ならガールフレンドとかボーイフレンドとかがいる場合があると思うんですけど、韓国の場合は高校の時にそういう付き合いがあつたりすれば退学処分、という事で、有り得ない事なんです。日本ではシングルマザーとかが多くて、韓国でも増えているんですけど、そういう事が有り得ない状況、勉強しかやることがないという状況でした。

今の韓国の教育の現状なんですが、英語に非常に力を入れています。やはり資源もない、国土も狭い、人口は多いという条件の中で、生き残る為には先進国の技術を取り入れる事しかないんで、その為には、今は中国語も多いんですけど、英語は基本。追加的に日本語がわからないと就職ができないというのがありますて、これは理系も文系も共通する事です。そもそも外国語教育に力は入れていたんですけど、今もつとひどいのが、高校、大学以前に小学生の時から英語に力をいれています。どれぐらいかと言いますと、韓國のお父さんは、一人で暮らすお父さんが多いんですね。お母さんと子ども達はどうするかというと外国へ出ます。例えばフィリピン、シンガポール、カナダ、それからオーストラリア、アメリカという事で、お父さんは韓国で一生懸命働いてお金を送金する。海外に送金すればそのお金で母親と子どもはそこで一生懸命外国语の勉強をするという状況で、韓国国内の学生の人数も自然と減ってきますし、小学校の時から外国へ行つて言語を学んで帰つてくると、二年とか三年とかいた事が経験になつて、中学、高校に入った時に、英語の力がもうついて他の科目に集中すればいいわけですから、英語ができるという事はすごく力になるという事ですね。親が英語で苦労した経験があるの

で、子どもが英語をマスターするのに苦労しないように、一二三年は小学校を辞めさせて、外国に行つて過ごす。帰つてくると同時に韓国の中学校に入学する。システム的にそうなつてゐるところがあります。それも限られた人数ではなく地方もそのような状況で、私の友達でも子どもと外国で過ごしてゐる人が多いです。幼稚園児から始まる教育とレジュメに書いてあるんですけども、これも限られた私立を目指す層だけではなく、地方の田舎でも幼稚園から帰つてくると塾に行きます。その塾というのは日本と違いまして総合塾なんですね。国語、英語、ピアノ、テコンドー、格闘技ですね。それも含めまして五項目から六項目ありますと、幼稚園が終わると、親がわざわざ連れて行かなくとも、塾から出でている送り迎えのバスに乗つて塾に行つて一日を過ごします。夕方の七時、八時くらいになると親が迎えにくるというような事が今行われています。小さい時から塾に慣れるようになりますといふもので、あまり親が学校教育に信頼を置かないところがあります。学校というのは人間教育だと。それ以外の勉強というのは塾でやるんだとほとんどの韓国人は思つてゐるようです。

大体どれぐらいのお金がかかるかといいますと、幼稚園児から塾に行かせますと、一人当たり少なくとも一月日本のお金で五万円はかかります。二人だと十万円かかるわけですね、服やその他は別で。韓国では物価が上がつてきてはいますが基本的に安いんです。それを目的に観光する人も多いんですけども、食料、税金、交通費が安い代わりに最も高いのが教育費なんです。お父さんの給料の半分以上が教育費として使われます。

三番目に、ソウル集中型大学受験と書いてあるんですけども、日本では私立なんかはどちらかというと高いので、とにかく国立を目指すという傾向があり、不景気の時は余計に強いと思うんですけども、韓国では地方の国立なんか出ても、例えば韓国の三星とか現代とかに入ろうとしても、私の時は書類を受け付けてくれませんでした。地方の国立大学、釜山大学とか出ても意味がありません。ソウルの三流大学でもいいからソウルに行く事。有名な大学の先生方が地方に行きたがらないんですね。したがつて地方の国立大学で先生方の人材確保ができないんです。「三流大学」でもソウルに行かないと、情報量がかなり違います。今でも韓国では、「地方の国立

大学受かりました。ソウルの「三流大学」受かりました。どちらを選びますか」というとソウルの「三流大学」に行くという学生が多い。それが日本と違うところです。

次に暗記中心の注入式教育と書いてあるんですけども、とにかく韓国は覚えさせます。学校で先生が教えるというのがこれがこうなつてこうなります、というのではなく、私の経験上、科学の時間で実験を行つた覚えが全くありません。「とにかくこれがこうだから覚える。原因は聞くな、これはこうだから覚えるしかない」というような教育を私も受けましたし、経済的な問題もあると思うんですけども、原因がこうであつて結果がこうであるという科学中心の教育システムが成り立つていません。今でも日本と比べるとかなりひどいと思います。

それから出世第一主義の蔓延と書いてあるんですけども、韓国人口の四分の一がソウルに住んでおりまして、出世第一主義というのはなにかと言いますと、方法や過程も重要だが結果がもつと大事だと。日本でもいろんな受験問題があるんですけども、携帯電話を利用した不正入学を試みたのは韓国が先で、それが先であったのは良い事ではないんですけども、二〇〇五年頃になりました。韓国の場合は組織的に行われました。塾の先生が情報、問題を解いた答えをその塾出身の子ども達に配信するというように組織ぐるみで行われていたので、日本よりもっと問題になりました。過程がどうであれ結果が良ければいいという出世第一主義的なところがあります。そういう面では日本に学ぶべきところがあると思います。

第二のテーマにあります日本社会の教育事情なんですけども、これは皆さんもご存知だと思いますが、団体中心教育で「出る杭は打たれる。」それから赤裸々な性教育の問題。私の子どもが小学校三年と一年なんですが、韓国では「知らないのが薬」ということわざがあります。以前にテレビでも見たんですけども、知らないからこそいろんな問題が起きると。だから教え込まないと、性教育を通じて早く教えないと弊害が後に出てくるというような考え方が日本であるようなんんですけども、韓国では「知らないのが薬」だと。知つてしま

うと好奇心が出てしまった。知らなければ何もわからなかつた事を知つてしまつたが故に好奇心を持つて子どもが更に注意を向けてしまう。という考え方がありますので、性教育なんかを積極的に行うというのは韓国ではあまりないです。儒教思想が強いという理由もあると思います。

それから、子ども本位の社会風潮問題。日本ではお父さんがどう思おうが、子どもが選んだものに優先的に従うというのが多いと思うんですけども、それによつて親、お父さんの権威というのが地に落ちていると。私が最初に日本に来た時は日本のお父さん達は本当にかわいそだなと思いました。韓国ではお父さんに対する尊敬が非常にあります。お父さんがどのような事をしようが、どのような人であろうがあなたを生んでくれたお父さんに対する尊敬というのが、教育の基本の本質なんです。それから始まるんですね。子ども達に「一番尊敬する人は誰ですか」と聞いたら一番最初に出てくるのはほとんど親です。日本ではどうかわからないくらいすけども、親を基本的に尊敬する。それから先生等が出てくるんですけども、そのような事は日本ではどれくらいあるか。尊敬はすると思うんですけども、行動として出でているのを見ますと、親に対する言葉使いとか韓国では考えにくいところがあります。

次に公立学校の標準化、教育問題なんですが、比較しないで同じようにまとめていくというのはいい事ではあるかもしませんが、その結果リーダーシップが欠如したり、国際的競争力が低下するということです。今勉強に力を入れるところは、インド、中国では特に上海、アメリカ等は以前から力を入れていますね。韓国は力を入れるといつても方向が違うと思うんですけども、今のままだと日本でリーダーシップを持つている子ども達がどれくらいいるかという事が問題になりますし、できれば皆の中で自然と一つにまとまる。社会性つていうんですけど、ちなみにうちの子どもの小学校では学校教育の目標として第一に掲げられているのが「社会性を育てる事」でした。もちろんそれは重要です。しかし社会性を重視する事と子どもの個性とのバランスを取る事が非常に難しくて、社会性を重視するが故に子どもの個性とかがほとんど否定されてしまうとどうか

なと思います。日本社会における教育事情として、私は大学で国際政治を教えていたんですけども、中国の留学生もいますし、ほとんど日本の大学生なんですけども、プライドを持てない学生が非常に多いんですね。自分が日本人である事にプライドを持てない。自分が今の大學生に在籍している事にプライドを持てない。とにかくプライドというのが、謙虚でなくなるという事になると問題なんですけども、ある程度自分自身のアイデンティティに対するプライドというのを持たない限り、自分の人生における未来を考えるという事がなかなか進まない。そういう学生さんが非常に多くて、学校ではマニュアルとして、うちの大学を他の大学と比較して言わないでくださいというのがあるんですね。他の大学ではこうなのになんであなた達はこうなんだとそういう発言は絶対してはいけないと。多分それはそういう先生がいらっしゃって、アンケート調査でそういう風に比較されているのが嫌だという学生さんが多かったからそうなってるんだと思うんですね。私は「あなた達はあなた達が在籍する大学にプライドを持たないといけない」と言います。先生達は一生懸命最高の教育をしてるわけですから、それに対してプライドを持ってないっていうのはちょっと問題だという事です。中国の留学生は非常に中国に対するプライドが高いですね。共産主義であつて独裁政権であつていろんな問題があるんですけども、しかし自分が中国人だという事に非常にプライドを持つっています。私が中国の留学生と日本の学生達の間で考えると日本の未来のためにも自分のアイデンティティに対するプライドを持つていらない日本の学生が増えているのはどうなんだろうかっていう事で非常にその点に力を入れて講義を進めています。特に韓国では徴兵制度がありまして、男子学生はだいたい大学に一年通うと休学して二年間軍隊に行くんです。その二年を済ますと復学して大学二回生から勉強を進めるわけです。これは日本はないですね。ないが故にいいところもありますね。四年間勉強に専念できます。ですが、やはり韓国で軍隊は国民の義務であるんですけども、個人のレベルで考えますと、自分が今まで歩んできた十八、九歳まで歩んで来た人生というのがどういうものだったのか、今後どういうふうに生きてゆくべきなのかという事を二年間で考えさせられるような時期なんです

ね。国家の次元でも重要な二年なんですけども、個人の次元でも非常に重要な時期です。それが日本の学生ではない。だからと言つてただ単に一回生、二回生、次は三回生だから就職しなければいけません。というように流されて自分の人生を生きていかないで欲しい。私は常にそう思っています。

三つのテーマであります「子どもへの期待と教育」という問題については、一番に書いてありますように私は自分が韓国人だからといって韓国が素晴らしい、という事だけを主張するのではなくて、やはり日本にも素晴らしいところはすごくあると考へています。日本と韓国の素晴らしいところをいつも強調しています。日本のこういうところはすごいよ、こういうところは韓国のすごいところだね、と言つていて、子どもも父親は日本人で母親は韓国人という事を非常にプライドを持つて、学校に行つても家のお母さんは韓国人やし、私はハーフやし、みたいな事を言つてゐます。それはちょっと違うかなと思つて注意するんですけども。子どもは、お母さんが日本人でないが故に感じる寂しさつていうのももちろんあると思います。それを乗り越えられるよう、韓国人の母だからこそ僕は、こうだ、というものを持てるように心がけて家庭で教育をしています。二に国際的感覚の養成と書いてありますが、私が国際政治を専門にしているからでもありますけども、正義感というものが日本の学生には足りないんじゃないかと思うんですね。正義感というのが急に心中で湧くんじやなくて、小さい頃からの教育が重要だと思います。例えば、電車の中で子どもが騒ぐと日本のお母さんは人に迷惑だからやめなさいと言うんですね。そうではなく、人様とは関係なく、あなたがこういうふうにしてた時にどうなるかなという事で、人様がそう言うから駄目だよという言い方ではなく、電車の座席の上に靴を履いたまま上がつたりすると、その後に座る人はどうなるかなという事を言う事によって、子どもにこれはやつてはいけないと自覚させるような言い方が大事だと思います。未来のお子様はどのようになつていて欲しいですか、というインタビューがありまして、人様に迷惑をかけないようになつて欲しい、これが大体日本人の考え方だと思うんですけども、それだけでは今後の世の中にはついていけないと思います。私としては迷惑をかけない

じゃなくて、それを超えて、世界の人々に役に立てるような人になつて欲しいです。迷惑をかけないというのは日本においては非常に重要な事だと思うかも知れないですけども、マイナスではなくプラスに、役に立てるような人になつて欲しいという事を考えて子どもにもいつも言つてゐるつもりなんですけども、それによつて日本人というアイデンティティも子どもとして素晴らしい事だと認識するようになると私は思います。

三番目に書いてあります、「理解中心の考え方させる教育」とあるんですけども、「これは日本の教育の素晴らしいところで、先ほども申し上げましたように韓国ではほとんど科学で実験を行つた経験がないので、日本のノーベル賞をもらう人を見ていて理数系のレベルが非常に高いので、こういうところに力を入れるというのは素晴らしいと思います。私の場合は主人が日本人で私は韓国人なんですけども、自分が国際政治をやつておりますので、子どもは外交官等になつて欲しいという思いがありました。調べてみると、お母さんが外国人の場合には外交官になれないらしいんです。何故かと言いますと、国家機密がばれる可能性が高いですね。例えばですよ、アメリカだとソ連のスパイであるとか、私がそういう目的をもつて日本に潜入してきて、国際結婚をして子どもを育てて、その子が例えばアメリカ等の大企業に行つて、日本の機密がわかるわけです。それが私が韓国の為に利用するんじやないかという事があるみたいですね。とにかく外交官とか国家機密を担当するところには子どもは就職できないという事がわかつたので、そうすると他には理数系しかないんだろうと思うんですが、これは私の願いであつて、子どもは今は違う事を考えてるらしいです。

それから「本と遊べる子ども」と書いているんですが、日本ではゲームとかをやらせている親も結構いらっしゃいますね。私の場合は、子どもが産まれた時から勉強していましたので、常に母親というのは机に座つている人、料理をする人、その二つしかありません。子どもが例えば保育園から帰つてきてもママは僕らと遊んでくれる以外は本を読んでいるという事で、本というのは彼らにとつて特別なものではなく遊びの延長として、「お母さんが本を読んでいるから僕も本を読んでいるよ」となつていろいろがあるんですけども、これ

は私が勉強したが故のいい影響だなと思ひます。両親がテレビを見ながらいろんな面白いものを見て、子どもにはテレビは見ないで、ゲームはしないで、となつてしまふと問題があると思うんです。やはり親の姿を見て子どもは育つわけですから、親が率先してそういう事はやらないというところを見せた方がいいと思って、実践しております。

最後に、男の子であつても私が推奨する事は、音楽、芸術、美術に興味を持たせることです。韓国の中学、高校では音楽、美術、体育、と時間割表には書いてありますがそれは表向きであつて、実際は他の教科の先生が代わりに入つてきて今日は英語です、今日は数学です、となりまして音楽と美術と体育をあまり経験した事がないという現実がありますので、子どもにはそういう思いをさせたくないので、小さい時から男の子でありますながらもピアノをやらせたり、絵を見る機会を増やしてあげたりしています。

ニヨーカマーの視点から、子どもへの期待と教育という事でお話させて頂きました。

仲尾 宏：ありがとうございました。限られた時間でとても中身の濃いお話を頂きました。厳しい教育事情、あるいは子育ての中から日本と韓国の比較文化といいますか、そういう視点を語つて頂きました。皆さんもつと知りたいという事がいろいろありましたから、それは質問、ご意見の中でお示しください。

先ほど、戸籍の話をしましたが、たまたま私が今日持つてきたチラシなんですが、一日から立命館大学の平和ミュージアム「巨大な監獄、植民地朝鮮に生きる」という大変ショッキングなタイトルの展覧会が行われております。私も初日に見に行つたんですが、非常にショッキングな内容でした。この裏に、創氏改名の記録されている戸籍というものが載つております。実物が会場にありました。元々の劉家であるとか孫家であるとか日本の総督府が作つた戸籍ですね。それに家族の名前が全部入つているんですが、その劉家や孫家の姓を消して、日本式の名前に変えさせた。一九四一年の戸籍の写しがそこにありました。日本が作つた朝鮮戸籍という

のはどういう事だったのかという事もこれでおわかり頂けるかと思います。興味・関心のある方は「一瞥ください。それでは前半のセッションはこれで終わります。

司会：それでは三時一五分まで休憩とさせて頂きます。皆様のお手元にお配りしております「意見を書いて頂く用紙ですけれども、そちらの方に」記入頂きまして、後ろの方に箱を用意しておりますのでそちらに入れ頂いてから「休憩をとつて頂ければと思います。その「質問を元に第二部を行わせて頂きますのでよろしくお願ひします。

司会：大変お待たせしております。非常に沢山の「質問、「感想を頂きましたので、ペネリストの方もお答えするのに準備をしておりましたので時間がかかりましたけれども、ただいまから第二部を始めたいと思います。よろしくお願ひいたします。

仲尾 宏：長らくお待たせいたしました。今日はいつもよりもっと沢山の質問を頂きました。全部で一九人の方から質問と感想書いて頂いております。時間の関係もありますので、まず質問を中心にして、感想は時間がある限り紹介させて頂くという形になりますので、「了承ください。

早速始めます。「日本の戦後教育は、G H Qの強力な方針の影響を受け、嫌戦と平和、第二次世界大戦時の指導者や教育は悪というスタンスに立つて行われてきた事は事実だと思います。現在の反省として、これらが愛国心、他人を思いやる道徳観の欠如に結びついていると思います。お二人は、愛国心を育てる教育は戦中の日本に引き戻すようなよくない事だと思いますか。」「これはお二人の考え方聞いておられるんですが、非常

に長い答えになるおそれもありますが、時間の関係上絞つてお答え頂けますか。孫さんから。

孫 美幸：控え室でこのアンケートを見ていたんですけども、ほとんど読んだだけという感じで考える時間がなかったんですが、何を愛国心と言うかがすごく難しいと思うんです。形式的な事を言うのか、倫理とか道徳とかいろんな事が絡んでくるので、この文章だけではなんとも言えません。ただこの愛国心という言葉、愛と國と心というものが個人的にあまり好きではないんですけど、一つ一つの漢字をとつてみてもすごく深く考えさせられるので、この文章からは私には答えにくいと感じます。今NHKの特集で海が世界をつなぐというような歴史番組をやっているんですけども、国境と言われるものをどう乗り越えていくかという時に、隔てているのが海ではなくて繋げているのが海だと思っているので、そういうたら愛国心について考えられたらと自分としては思っています。ちょっと答えにはなっていませんけども、短時間では難しいです。すみません。

仲尾 宏：はい、ありがとうございます。

劉 仙姫：私も愛国心という言葉が曖昧なんですが、私は愛国心という言葉は使わずに、自分のアイデンティティに対するプライドと申し上げましたけども、愛国心というのは、私が韓国人として韓国という国を愛する気持ちというならば、愛国心教育というのは大事だと思います。自分が韓国人であるのに韓国は嫌いと考えている方もいるかもしれませんけど、それは自分が生まれた国に対する愛というのは非常に大事だと思いますが、そこで終わってしまうと問題だと思うんですね。愛国心というのは、やはり私が国際政治を勉強しているからこう言うのかもしませんけども、世界を前提にした国、世界があつて、次に自分が生まれた国があつ

て自分の存在があると私は思うんですね。中国人にしろ韓国人にしろ日本人にしろ国際平和に対する義務というのを前提に、自分の国に対するアイデンティティに関してはプライドを持つという事が大事だと私は思います。

仲尾 宏：ありがとうございます。

次は孫さんへの質問です。「在日として日本の京都市の公立小中学校に望まれる事はなんですか。具体的に本音で。」とあります。

孫 美幸：言葉って難しいですね。在日として、って私は代表者じやないので。かぎ括弧で書いてあるんですけども。少し思っているのは学びの中のプログラムはもちろんんですけども、教える側に関してです。自分が公立の教員に採用された年が二〇〇〇年でした。今から一一年前ですよね。その前年度に小学校でも一人韓国籍の教員が採用されて、今十数年経つて、この間伺つたら、十数名正規採用されている外国籍の先生がおられる。ただその先生方はお名前が日本名であつたり本名であつたり様々で、自分のルーツをオープンにされている方であつたり、隠しておられる方であつたりいろいろなんですね。外国にルーツを持つ教員っていう人達が増えてきている中で、情報共有したりとか、先ほど休憩室でも仲尾先生と話をしていましたけども、国籍条項の壁っていうのは、教員には撤廃されておりますけども、管理職にはなれないっていう壁が次に出てくると思うんですね。今後十年で今の採用されている教員の人達が年齢を重ねて、主任であつたりいろいろな役職に仕事として就いていくと思うんですけども、その時にぶつかる壁に対して情報を共有する場は必要なんじゃないかと。教える側が増えてきたので、そういう事を思っています。

仲尾 宏：お二人ともそれぞれ在日、あるいはニューカマーなわけですが、その代表者ではありませんの

で、大変お答えにくい事もあるかと思いますがとりあえず本音をお聞かせ頂きましてありがとうございます。

次「改正住民基本台帳法がもうすぐ施行され、特別永住者の住民基本台帳への登録が始まるそうですが、孫さんのお話の父子家庭の事はそれにより変わるのでしようか。」「これはご存知の方もあるかと思いますが、外国人登録法が廃止されまして、ここで書いておられるように住民基本台帳へ登録される事になります。これはあくまで基本台帳法の事であって、戸籍法の問題ではないので、戸籍上の問題は今まで通り残ります。「子どもの国籍選択について思われる事はありますか。」これも大変複雑な思いがあり簡単に答えられない事だと思いますが一言ずつお願ひします。

孫 美幸：現在一人の子どもは日本国籍を取得していく韓国には出生届を出していません。韓国に出生届を出そうとした時に、子どもは日本で生まれたんだから、お父さんの日本国籍でいいんじゃないかと私の両親は言いました。それは私の世代とまた違つて、父は父なりに、二世ですのでやっぱり差別を受けてきた経験がすごくあって、日本国籍が取れるのになぜわざわざ韓国の国籍も取るのかという事で反対にありました。そういう訳で子ども達は日本国籍を持っているので、その後どうしていくかというのは子ども達に任せたいです。どこか外国で暮らして永住権を取るなり、全部子ども達の自由な選択と思っています。

劉 仙姫：私も主人が日本人なので子どもの国籍は日本にしています。国際結婚をして子どもが二重国籍になり、二十歳になると子ども本人が選択できるんですけども、その時に迷うという事もあると思いますし、例えば韓国を選択するにてもいろいろ問題があると思いますので、今は私の子どもは日本国籍としています。特に問題点がありませんので、今までいくと思います。

仲尾 宏：はい。「孫さんの子どもへの期待と教育について具体的に答えて頂きたいです。」。

孫 美幸：子ども達に期待というのはどうなんだろうと休憩室でのディスカッションで出ていたんですけども、自分はあまり期待しそうないという立場と思つております。教育の過程でいろんな種は蒔いておきたいです。絵本の読み聞かせであつたりとか。今日も赤ちゃんはうちのお祖母ちゃんに預けて、母は家でチヂミを焼いて食べさせていたんですけども、そういうた自然な中での体験を大事にした教育を考えています。私は教育てるつていうのは驕りのような気がしていますが、十分に種を蒔いた上で、学校なり名前なり国籍なり最終的に子どもが選べるような手立てを自分がしていけばいいと思っています。具体的ではないかもしませんけど。

仲尾 宏：はい。「劉さんの子どもさんがこれから中学、高校へ進まれるにあたつて留意されたい教育について伺いたいです。」。

劉 仙姫：先ほども公立学校の話を申し上げまして、それについての意見があつたんですけども、自分自身が韓国で私立学校を受けたという事もありまして、公立学校に対する考え方というのは、必ずしも日本だけではなく韓国ではそういう傾向が強いです。公立学校に行かせて一生懸命頑張れるお子さんだったら一番だと思ふんですけども、どちらかと言うと私の場合は競争する中で挫折する子どもであればそこに行かせない方がいいんですけども、競争の中で生き残れるような素質を持つている子どもの場合はそこに行かせたいと思うんですね。うちの長男の場合は非常に負けず嫌いなので、その子に関しては一応本人が行きたがる場合は私立を考えているんですけども、次男の場合はのびのびとやるタイプで、そこで自分の結果を出したいというタイプなので、その子に関しては、自分が選択するという事は大事なんですけども、無理矢理競争が厳しいところに行

かせたくないないです。公立とか私立とか決めているわけではないんですけど、子どもの個性をもう少し見守つてから決めたいと思います。

仲尾 宏：「コーディネーターの方は戸籍に関する事だけでなく今回の主旨にあつた話をして頂きたいです。」

それはしたいんですが、とりあえず質問というか戸籍の問題が出ましたのでその説明だけさせて頂いております。

「大変わかりやすいお話をありがとうございました。劉さんにお聞きしたいのですが、なぜ日本に来られたのか、またその中でも京都を選ばれたのは。」。

劉 仙姫：私が日本に来たのは留学のためです。私は韓国外国语大学を出まして、そこで専門にしたのはロシア語なんですね。ロシアに留学しようとしていたんですけど、その当時ソ連が崩壊した事もありまして、非常に厳しかったので、元々大学院で国際政治を勉強したいというのがありますて、アメリカよりは日本に行つて勉強した方がいいだろうという事で日本に来て、日米韓関係を研究しているんですけども、京都に来た理由というのは、京都にある大学の先生を韓国で調べて、その先生の下で勉強したいなという事で、その先生がたまたま京都にいらっしゃったので、という経緯で來ました。

仲尾 宏：「韓国の子どもはテコンドーをやっている人が多いと聞きましたが、日本と比べて格闘技が強いのでしょうか。女性でも強い方が多いのでしょうか。」。

劉 仙姫：韓国は幼稚園の時からテコンドーをやります。テコンドーをわざわざ学ばせるために行かせるんじやなくて、塾の総合教育の一環としてテコンドーが組み込まれているので、そこでカリキュラムとして勉強

するという事なので、日本に比べて格闘技が強いかどうかはわからないんですけども、危ない状況の中で自分の身を守るというのを親が大事に考えておりまして、せめて何かがあつた時に自分を防衛する方法を身につけるために格闘技というのを小さい時から女の子でも学ばせるような傾向があると 思います。

仲尾 宏：「お子さんが外交官になれないのでしたら、日本国籍を取られないのでしょうか。制度上取得できないのでしょうか。」

劉 仙姫：先ほども申し上げましたように、うちの場合は主人が日本人なので子どもは日本国籍になっています。もし私が子どもの生まれた時に出生届を韓国に出したならば二重国籍になるわけで、今は完璧に日本国籍なんですが、例えば外交官になるためには外務省等にテストを受けに行くと、面接の時にいろんな事が調べられて、お母さんが韓国人という事になってしまいますと、結果的には面接で落ちたという事になるんですけども、裏ではやはり外国のお母さんを持つているという事で無理に不採用にするという事があると私は聞いたので、これは子どもの国籍とは関係ない話なんですね。

仲尾 宏：日本では国家公務員は日本国籍を持つて いるという事が資格の条件になつております。地方公務員はそうではないんですね。国家公務員でも今は民間会社になりましたけど、かつての郵政省の郵便配達を職務とする人だけは国籍条項が外れておりました。今は民間会社になりましたからそれはないです。

次 「韓国では現在教育に対してかなり力が入れられているようですが、このような教育事情の結果として何かよかつた事はありますか。」 これは先ほどもお話を中で出ていたと思いますが、追加する事があればどうぞ。

劉 仙姫：国際協力という事で、英語教育に力を入れるが故に小さい時からアメリカに留学する子が多くて、そのまま留まつてアメリカで教育を受けるお子さんが増える。そういうお子さんの中には、アメリカで就職して活動している人も結構多いんですけど、そういう子がまた帰国子女として戻ってきて韓国の大学に入つてくる場合もあります。国際競争力という観点からは英語を小さい時に学ばせる事によつてよかつた面はあると思います。しかし、その子がアメリカで定着してアメリカで生活するならば別の問題として、そういう子が韓国に戻つてきて帰国子女として大学に入つていつた時に、適応能力がよっぽどない限り、自分の頭の中にアメリカで生活した事が残つてしまつて、韓国での教育環境、なぜこのように勉強しなければいけないのかといふ事で反発した人も多くいるので、プラスの面もあるしマイナスの面もあると思うんですけども、全体的に見てみますと、国際競争力が高まつたという事ではいい点があると言えます。

仲尾 宏：「孫さんへ。日本の学校に通われていたので、通称名なら在日である事に気付いていない方も多かつたと思いますが、本名にした時の周囲の反応はどうでしたか。」これは大学行かれてからの事ですね。

孫 美幸：大学が外国语大学の朝鮮語科なので大変特殊な状況にいたというのがあると思います。一、二年大学で過ごすと、朝鮮語科は二十数名ぐらいのクラスだつたんですけども、日本名だつた人が徐々に韓国名になつていくケースが何人もいたんですね。それは一般的の学校だつたら考えられないぐらいの割合だつたと思います。それは本当に特殊な状況でした。私が孫美幸っていうふうにした時も、周りの先輩なり友人なり、やつとしたかというような感じでした。氣負いがあつて本名にしたわけではないので、他の在日の方に比べて参考にならないかもしないです。

仲尾 宏：朝鮮語科だけではなくて、他の大学でも大学生になつて本名に切り替えたという人は少なくないですね。これはやはり自分がこれから在日としてどう生きていくのかという事を自分で考えなきやいけない時期に来ているというのが一つあると思います。卒業後の就職、進路、結婚、いずれにしても自分で決めて切り開いていかなければならない。そういうところから本名でいこう、自分らしく生きようというように思う人も少くないというのが今までの私の経験上の感想です。

次、劉先生への質問。「韓国では大学卒業後の進路について性別による差別はありますか。日本では同じ大学出身でも男子学生だけに資料が届いたり、面接のチャンスが巡ってきたりと女子学生が不利な立場に立たされるケースもあります。韓国では同じ現象はありますか。教えて頂ければ嬉しいです。」

劉 仙姫：これは韓国でもあります。特に韓国は儒教的なところがありまして、男性の方を優先するというのがあります。特に女性の場合は整形をしないと評価が低いというのがありまして、女性の場合は能力よりは体型だと。例えば秘書になるにしても、不細工では駄目だという事で、大学に入つてくる時に皆で写真を撮りますね。卒業の時に写真を撮るんですけど全く別人になつているんですね。四年の間に。それを一度にすると駄目なので夏休み冬休みで八回あるわけです。それを分けて分けて、徐々にだとわからないんですけども一生の時の写真と四回生の時の写真と比べますと、全然別人だという事が結構あります。これはほとんどと言つてもいい事だと思います。それから女性の場合は結婚して子どもができてしまふと、もう仕事は辞めた方がいいんじやないっていうのが当たり前のように言われてますので、私も日本に留学して留学中に子どもが出来て休学して復学したんですけども、こういうのは韓国では難しいケースなんですね。育児しながらそういう事はできないっていうのがありますし、勉強するんだつたら結婚しない。結婚したいんだつたら結婚生活に専念する。みたいな形で、女性が両立するっていう事は非常に難しい事だと思います。

仲尾 宏：私もソウルの街を韓国の若い人と歩いている時に、その若い韓国の人々が「皆女性きれいに見えるけどあれ皆本当の顔じゃないよ。」と言った事を覚えております。韓国の女性の立場とか地位がそれなりに厳しいという事の反映なんでしょうね。と、考えていいでしようか。

次「毎日毎日朝から晩まで勉強していくそれにしていく事ができない子どもはどうしているんですか。日本ではいじめがありますが韓国ではどうですか。」いじめをしている暇がないという先ほどのお話をしたけども、ついていけない子どもはどうしているんですか。劉さんいかがでしよう。

劉 仙姫：今はゆとり教育の影響もありまして私の時と違っていて、勉強が好きじゃない子は高校を卒業して社会進出できるような学校ができてまして、そういう学校に行く子が多いですね。私が大学に入ったのが九十年なのでその時はそういう学校があまりなかつたものですから、ほとんど全体的に四年生の大学に行くのが当たり前だというようなのが前提だったんですけども、今は勉強が嫌いな子は高校に入る時に料理だったり料理の専門学校に行くという事が増えてると思います。

仲尾 宏：次は大変微笑ましい質問です。「子どもの頃お祖母さんに食べてすぐ横になると牛になる、や夜爪を切ると親の死に目にあえない、など言い伝えやことわざなど様々な事を教わりましたが、お二人ともそのような言い伝えを子どもの頃に考えられた事はありますか。」という質問です。

孫 美幸：桃の話をしたのでこういう質問が出たのかなと思うんですけど、小学生ぐらいだったと思うんですけど、いろんな色のリボンが売つていて、私は白いリボンを買いました。それをつけようとした時に、うちの母がものすごい剣幕で怒った事があります。日本では可愛らしい色の一つなんですけど、韓国では白はお葬

式の色なので、一世の母は白は日本でも駄目、と怒っていました。

劉 仙姫：私はお父さんに関する事が多いんですけども、お父さんが家で横になつていたりしますね。その時に子どもがお父さんの頭の上を通つたりしてはいけない。それからお父さんを見下しているような行動をしてはいけないという事で、ご飯を食べる時も、お父さんが先にスプーンを持ち始めてから子ども達が持つというような事がありまして、なんでもお父さんが優先という事が小さい時から教わった内容ですね。

仲尾 宏：次へ進みます。「どこの国、言語でも使える名前、良い発想ですね。最近は片仮名で表記した方が似合いそうな名前、つまりヨーロッパ、アメリカ由来の名前の子どもが多いですが、孫さんのお話を伺つているとそういう発想があるのかと思いました。男の子ならジョウジとか国際的な名前ですね。うちの子は和平といいますが、中国や韓国でも普通でしようか。そうならよいのですが。日本と韓国の教育事情の差が興味深かつたです。お互いのよいところを認めるというお話や、プライドを持つ事の大切さは大切だと思うのですが、なかなか自分でできていません。日本人の特質なのでしょうか。」という自分への反問を書いておられますが、この全体の「質問についてお二人が感じるところがあつたら、一言ずつお願ひします。

孫 美幸：お名前ですが、これは平和っていう意味で和平君をつけられたのかなと思つたんですけど中国は確かに平和はこの順番だったと思うんですけど、韓国は平和はそのままなので、どうでしよう劉さん、ファアピヨンていう言葉ありますか。

劉 仙姫：ありますけどあまり使いませんね。戦争が終わった後の和平条約という条約を結ぶんですけど

も、名前ではあまりアピヨンというのは使わないですね。

孫 美幸：…という事ですね。私の子どもの名前もカリヨンとカヨンだなって言っていたんですけど、カリヨンっていうのは、劉さんからそれも微妙だ、というご指摘があつたのでカヨンにしたいなと思つていたんですけども、なかなか在日の名前で韓国語の音も考えて、というのは難しいと改めて感じました。

劉 仙姫：私はひとつコメントをしたいと思うんですけども、プライドを持てないっていうのは日本人の特質なのでしょうかと書いておられますぐ、日本ではでしゃばりよりは控えめな方がいいっていうのがあるんですね。どちらかというと謙虚が美德であると思われがちなので、本人がプライドを持つていてもそれを表だつて言わないというのもあると思うんですが、日本人の特質だからこそプライドを持てないとなるわけではなく人それぞれの性格だと思います。日本の方でもプライドを持つている方はいらっしゃいますし、それは人それぞれだと思います。

仲尾 宏：私も在日の方から他に名前の考え方を聞いた事があります。それは大阪の在日の弁護士さんですが、まずは読みですね。日本語読みでも韓国・朝鮮語読みでも同じ発音にしたいという事をまず考えた。その次に意味を考えた。その方はアジアで一番美しい名前という事で、亜美さん。アジアの亜と美しいですね。読みも一緒だし意味も非常にいい、とそのように女の子に名づけたとおっしゃっていました。そのような事を考えながら子どもの名前、あるいはその子どもがダブルであつたとしても同じような思いでつけられてる方が少くないようです。

——から後は感想になりますので、ご紹介させて頂きます。「劉仙姫様へ、意見として念のため申し添えま

す。レジュメ二の四に公立中学校の平準化教育問題との事でしたが、京都市内では、公立高校の付属中学として府立では左京区の洛北高校付属中学（旧京都一中）、市立では西京高校附属中学があり、中高一貫教育として公私それぞれが互いに競い合っており、それによりその他の中学、高校との比較で予算、教員等の格差が生じている次第であります。もう少し逆に京都においては学校間の格差を平準化してもらいたい。底上げ、レベルアップを願っております。」こういう現状を紹介して頂いております。こういう変化はここ十年の間ぐらいに急速に出てまいりましたね。そういう事もあるというお知らせです。

次、「韓国の中学生にはなりたくないが、韓國のお父さんにはなりたい。」どういう意味でしょうかね。「私は今年中学校に入学する娘がいますが、はじめや男女交際などの心配ばかりです。ちょっと安心するようなお話をお願ひします。」安心したいところですが、今の日本の教育事情、社会状況はそれほど安心させてくれないような世の中になつております。「孫さんが最後に提起された二点について、私自身いろいろと思う事があります。子育てされる上でがっかりする出来事というのは子どもが学齢期に達した頃にもっと増えてくるのではないかという気がします。孫さん自身公立中学校の教員をされていたので、想定の範囲かという気がしますが。私は現在京都教育大で、外国にルーツを持つとか、ニューカマーの子ども達の教育保障について研究をしています。先日私立中学校で上記のような子どもを担任される先生方にアンケートをお願いした時に、返つてきた回答を読み大変がっかりしました。教員の視点として他の文化を大切にするとか国際理解を深めるという事が全く欠落しているのです。子どもは周囲の子どもと馴染んでいるので問題なしとか、日本語には不自由せず普通に生活している等と、子どもの背景まで考えた時に、では日本語を喋らない、喋れない親と子どもがどうコミュニケーションを取るのか等さまざまな困難な事情など想像できないのだろうか、と怒りを感じました。」こういう感想がござります。これはオールドカマー、ニューカマー、それぞれ子どもが抱えている問題ですね。オールドカマーの場合は見たところ、言葉は日本人と変わらない。ところが自分は韓国・朝鮮

籍、あるいはその血を引いて生まれているという事についてどのように自己確認していくのか、その中で日本人の子どもとのトラブルがあるのかないのか、そういう事がほとんどのアンケートの時には教員の視点として欠けているという事への指摘だと思います。逆にニューカマーの方については最近はブラジル、ペルーの方が増えている、中国の方も増えていく時に彼らが持っている言葉のハンディキャップ、あるいは文化の違いについて、日本の子どもだけでなく、日本の先生方がどこまでわかつていているんだろうか、そこが欠落しているんじゃないかという事でこの方はがっかりされているという事だと思います。そういう方もこういうフォーラムにどんどん来て欲しいですね。

次、「孫さんの教育実習でのお話について。中学生が在日コリアンについてあまり知らないという事。今の子ども達だけでなく私達の世代でさえも戦争時代の日本とアジアの国々との関わりについて知らない人は多いと思います。学校教育あまり教わらない事による事も多いのですが、大人から子どもへ伝えるべき事が伝えられていない事も大きな要因の一つだと思います。田舎育ちの私は事ある毎に親戚が集まり、宴席が設けられ、その中で実際にいろいろ身近な人達の話題ばかりですが、話を耳にしてきたと思います。年配の方達から戦争中の話も聞きました。振り返って今の生活はとすると、各家庭で日常的に昔の話をしてくれる年配者が側にはいません。親から受け継いだ話をどれだけ娘に伝えているかかなり疑問です。大人として親として伝えなければならぬ事を見きちんと伝えていく責任を改めて感じました。」こういう非常にご丁寧な感想を頂いております。

最後、「在日コリアン三・五世です。孫さんの話で、子どもの名前の部分、我が家もいろいろ悩みました。いろいろな思いを込めて名づけましたが、そのように育つてくれるかどうか、こればっかりはわかりませんね。ただいっぱい種を蒔いておきたいというところは大いに共感する事ができました。今の日本の子ども達が置かれている環境はあまりにも種が蒔かれていいなさすぎるようと思われます。保育園や小学校では既にいろいろな文化的、社会的背景を持つた子ども達が沢山いるのに、昨今の風潮を見ていると、お互によい育ちができる

きる状況にあるとはとても思えません。よくなる事を願つて日々過ごしています。」こういいう感想を頂いております。

大麥沢山頂いたんですがお二人に非常に要領よく答えて頂いたのでほぼ時間内でおさまりました。ありがとうございます。今日の皆さん方のご感想を聞いてみると、子育てと教育と似たところも違う側面もあり、さらに日本と韓国の教育状況や社会状況の違いもありまして非常に範囲が広かつたんですけども、それこれから学ぶ事はいろいろあると思います。特に教育の制度とか現状についての皆さん方のお考え、お二人のペネリストの方のお考えがある程度つきあわされたという事が今日の一つの成果ではないかと思います。このテーマは今まで何回かやってきましたけれども、ニューカマーの方に入つて頂く事によつてまた一段と深まつたような気がいたしました。それでは今日のフォーラムはこれで終わらせて頂きます。どうも皆さんありがとうございました。

司会：孫さん劉さん、コーディネーターの仲尾先生ありがとうございました。次回も来週の金曜日に第三回目「女性像の移り変わり」というテーマで行いますので皆様のご参加をお待ちしております。本日はありがとうございました。

2011年3月4日（金）

連続フォーラム「チョゴリときもの」 No.18  
－在日コリアンの視点とニューカマーの視点－

子供への期待と教育　－ニューカマーの視点から－

1. 韓国の大大学受験事情

- 1) 個人的経験について
- 2) 韓国の教育の現状
  - ①英語教育
  - ②幼稚園児から始まる塾教育—私教育費の問題
  - ③ソウル集中型大学受験
  - ④暗記中心の注入式教育
  - ⑤出世第一主義の蔓延

2. 日本社会における教育事情

- 1) 団体重視教育一出る杭は打たれる。
- 2) 赤裸々な性教育—儒教思想に反する側面
- 3) 子供本位の社会風潮問題—親や先生に対する礼儀問題の軽視
- 4) 公立学校の平準化教育問題—リーダーシップの欠如と国際的競争力低下

3. 子供への期待と教育

- 1) 子供が日本と韓国を共に誇りに思えるような環境づくり  
(両国の問題点を指摘するよりは「ここが日本の素晴らしいところだね」「ここが韓国の素晴らしいところだね」)
- 2) 国際的感覚の養成—正義感  
(「人様に迷惑をかけないような大人になってほしい」ではなく「世界の人々に役に立てるような大人になってほしい」)
- 3) 理解中心の「考え方させる教育」に力を入れる(日本における教育の長点をさらに活かす。)
- 4) 本と遊べる子供(ゲームをやらせない)
- 5) 男子でも音楽や美術などの芸術への関心を促す(何でも好奇心を持って挑戦する気持ちを大切にする)。

劉 仙姫

## 連続フォーラム「チョゴリときもの」No. 18

～在日コリアンの視点とニューカマーの視点～

「子どもへの期待と教育」

## 若年の韓国・朝鮮籍者の年齢階層的分布

年齢	総数	全国総数	京都府総数
		578,495	32,305
0～ 4歳		10,999	527
5～ 9歳		13,175	673
10～14歳		16,262	917
15～19歳		21,561	1,278

\*データは2009年12月31日現在（入管協会調べ）

\*この人口値はオールドカマーとニューカマーの区別をしていない。



## 第三回 「女性像の移り変わり」

パネリスト

黄エステル（ファン エステル）氏  
梁京姫（ヤン キヨンヒ）氏  
仲尾宏氏（京都造形芸術大学客員教授）

コーディネーター

二〇一一年三月一日（金）開催



司会：皆さんこんにちは。第一八回チョゴリときもの三週目を開始いたします。今年は在日コリアンの視点とニヨーカマーの視点というテーマでお話を伺っています。本日は女性像をキーワードにお二人の方からお話を伺う予定でございます。まずお一人目は在日三世の黄エステル（ファン・エステル）様です。黄さんはキリスト教の信者でいらっしゃいますので、エステルというのは洗礼名です。後ほどお話にも出てくると思いますが、上京区にあります韓国系教会の事務をされておりまして、留学生の世話やイベント等を担当されております。茶道、華道、着物の着付け等の日本文化にも造詣が深く、留学生にとっては日本のお母さんとでも言うべき方です。

お二人目は一二年前に来日されました梁京姫（ヤン・キョンヒ）さんです。梁さんは元々韓国のジェンダーについての研究をされています。ジェンダーとは皆さんご存知のことだと思いますが、生物学的に言う男女差に対する、社会的に性別を示したもので。例えば、簡単に言いますと社会的な男女の差別や偏見、固定観念、役割固定などを扱つたものです。そういう意味で本日はお二人から在日コリアンの社会を中心にいろいろな角度でお話を聞いていただけると思います。

コーディネートをお願いしておりますのは京都造形芸術大学客員教授の仲尾宏先生です。第一部のパネリストのお話終了後皆様のご質問を元に第二部に続けてまいります。第一部のお話につきまして、ご感想、ご質問がおありの場合はメモでまとめておいていただけましたらありがたく思います。では先生よろしくお願ひいたします。

仲尾 宏：皆さんこんにちは。今日は司会の岡村さんのお話にありましたように、在日社会における女性像の移り変わりということがテーマです。今年はニヨーカマーの方も一回ごとに加わっていただいて、ニヨーカマーの目から見た在日ということも焦点になつております。いわゆるオールドカマーである黄エステルさんからほんの家族、ご自身のご体験の中でも在日社会での女性の役割、地位がどのように変わってきて、どんなことを感じているかというお話がお聞きすることができます。梁京姫さんは、女性問題、あるいは人権問題

についても大変ご造詣が深い方でして、大阪市立大学の経済学部の助教をなさっておられます。そういう立場から、ご専門の立場を含めて、在日社会を韓国人の研究者としてどのように見るか、その中でも女性問題をどのように整理して考えていいらしいのか、そういうお話を聞いていただけると思います。ですから、必ずしも在日社会、あるいは日本社会と韓国社会、その三つを比べることではなくて、在日社会における女性像の移り変わりを見ていくこうということがテーマであります。もちろん韓国の現在の状況についても触れていくことは有り得ると思うんですけども、主題としては、在日社会で女性がどういう地位、役割を占めてきたのかということを今日は中心にお話いただこうと思います。それでは黄エステルさんからよろしくお願ひします。

黄 エステル：アニヨンハセヨ、こんにちは。黄エステルと申します。私は現在、同志社大学の近くにある韓国、中国、中国朝鮮族の留学生が集う教会に籍を置いております。もちろん日本の方もいらっしゃいます。そこで留学生達が一生懸命アルバイトをしながら勉強に励んでいるところと共に生活しております。相国寺の近くに般若林という塔頭がありまして、そこで年一回秋に、「長田塾の町かどの藝能」という催しがあります。そこでは京都の物売りの天秤を担いで物を売り歩く姿など、様々に江戸時代を再現した催しがあります。その催しの講演が終わつた後に烏丸通を歩いていましたら、小さなステンドグラスの教会らしきものが目に入りました。その横に貼り紙でキムチ教室参加者募集というのを見つけました。

早速電話をして後日その場に足を一步踏み入れますと、そこでは韓国の留学生の女学生がキムチづくりの準備をしていました。私はそこで自分が遠ざけていたもの忘れていたものが記憶の名から甦った気がしました。なぜなら、小学生のころいつも私はいじめの対象であり、泣いて帰ると母が慰めてくれる訳ではなく、狭い部屋で仕立物を広げて、仕事をしていました。私は泣き止んだ後にそつと母の顔を見ると、母が泣いているようでした。それからお母さんの前では泣いてはいけないんだと思い、外で朝鮮人と言つていじめられても、泣い

て帰ることはありませんでした。その後に帰国事業が始まりました。お祖父さんとお祖母さんにもう会えなくなる思いから、学校の先生に今日は早退させて下さいと言いました。先生は早く帰りなさいと言つて、走つて家に帰ると、真っ白いチマチョゴリ姿のお祖母さんが眩しく立つていました。駅のホームにざわざわついていて、その時お祖母さんが私の手を引っ張り電車に乗せようとした。この子を連れて行つたらお前たちもすぐ北朝鮮に帰るからということで、私はその時怖かつたんですけども、母が私の手をホームの方に引っ張り、こうして今私が生きていると思います。八人兄妹の長男の嫁だつた母は、その時初めて親に逆らうようなことをしたんだと思います。

私は着物関係の仕事をしていましたので、普段はあまりキムチを口にすることはありませんでした。京都府のイベントでキムチ教室を「丹後あじわいの郷」で開催しました。その時驚いたのは予想を上回る人数が集まつたことと、三分の一が男性であつたということです。皆さん持ち帰る容器を準備していただき、そこで前日に塩をした白菜をキムチに仕上げて、持つて帰つてもらいました。その地方でとれた白菜でキムチをつくること、それとあんなにも沢山の人にキムチを召し上がるだけしたことを通して、少しづつ時代が変わったんだ、と一人で思いました。その後に様々な料理教室、キムチ教室等を通して、食文化を通して、韓国の留学生を通して韓国を知ることになります。

私は、ある時期まで韓国に行つたことがありませんでした。韓国に行くのが少し怖いようなそんな気がしていました。友達に誘われて、その友達が私にパスポートを預けて、手続きをお願いするからということでました。私は長年の付き合いの彼女に自分が韓国人であることをまだ言つていなかつたので、彼女にはどうしても打ち明けなければならぬ思いに駆られて、電車の中で、実はパスポートの色が違うんだけど、と言いました。彼女は何色に変わつたの、ということで、そうじやなくて、あなたのパスポートは赤色で、私のパスポートはグリーンなのと言うと、彼女はそんなことは関係ない、と言つてくれて私は彼女にすこし救われた気がしました。二人で韓国に行き、私は始めて韓国の方を踏んで大きな川の漢江を見ながら、お祖父さんとお祖母さ

んもこの川を見た、今そこに自分が立っている不思議さと、韓国に来ても私は観光客でしかないという思いと不安がありました。

私の母はチマチョゴリをつくる仕事をしていました。毎日毎日仕立物をする母に、私が私も習いたいから教えてと言うと、覚えなくてもいいという返事でした。なぜならそれは覚えたら作らなきやいけない。知らなかつたらできませんと言えるという母なりの持論でした。針仕事で徹夜をし、家族のために精一杯働いてきた母が多くの在日の女性像と重なると思います。私の母は一度も韓國の地を踏んだことがありません。父も母も日本で生まれ、日本で亡くなりました。お祖父さん、お祖母さんも帰国事業で北朝鮮に渡り、生まれ故郷に帰ることはできませんでした。私が着物の着付けの仕事をしながら留学生の人達に着物を着せてあげたり、様々なことを教えたりします。彼らがここから旅立つて行つた時に、数年後に、日本の京都での思い出になると思つてゐるからです。

私は在日として中間的な、中間的と言うとどつちつかずととられるかもしませんが、両方のいいところをそれぞれ違いを違ひと認め、生きていくことが大切だと思つてゐます。私は着物の着付けを通して日本文化がとても好きですし、女性が美しく立膝で座つているチマチョゴリの姿もとても好きです。その中でこうしていられる自分の立場を教会という場を借りて精一杯發揮できたらいいと思つてゐます。以上です。

仲尾 宏：ありがとうございました。在日三世として日本社会に生まれ、成人されてからですね、韓国に行かれたのは。そういうご体験の中で、今お母さんのお話が出てきました。この辺りについては追つてご質問の中で詳しく触れていただきことになると思うんですが、朝から晩まで針仕事をしておられたお母さんの姿が目に浮かぶようですね。またその辺りは後ほどいろいろお聞かせ下さい。

次はニューカマーである梁京姫さんからお話を伺います。お手元に梁さんが準備なさつた資料がありますので、それを元にお話いただくことになると思います。よろしくお願ひします。



京姫氏

梁 京姫：アニヨンハセヨ、梁京姫と申します。先ほどご紹介いただきましたように、私は一二年前日本に来ました。かなり日本語が詰まることがあると思いますので、よろしくお願ひします。風邪を引いてしまって声の状態がよくないんですけれどその点もご了承下さい。

梁 私の報告に入りますけれども、皆さんは韓国・朝鮮と言つたらどんなイメージでしようか。最近私がよく聞かれるのは、韓国の女性と言つたら成形とか、肌が綺麗とか、そこまでは結構いいんですね。その後についてくるのが韓国の女性は強いとかパワーがあるとかこのようなことをよく聞きます。皆さんも同じですかね。

皆さんの手元にあるこの写真は、二〇〇七年韓國の大手流通企業の女性労働者がストライキを起こした写真なんですね。そのストライキはなぜ起こったかと言うと、二〇〇七年七月一日に韓国では非正規職保護法が実施されるんです。この保護法が実施されるのになぜストライキをしたかと言うと、この保護法の一一番決め手の内容は、非正社員が二年続いて採用されると、その後は正社員になれることなんですね。正社員になれたらいことなのにストライキを起こしたのは、企業側が法の実行前に採用した人を解雇してしまったんですね。二年経つと正社員にしないといけないんで、その前に解雇してしまったんです。この女性達が解雇の撤回を求めてストライキを起こしたんです。最初は何日かすれば済むだろうと思ったのが、経営者と対立し続けて、自分の仕事場であるスーパーで寝泊りしながら五一〇日も闘つたんです。それが長引いて一年半以上になると韓国の社会問題になつていつたんです。韓国の国民が皆このストライキに注目して支援したりしていたんですけども、これが韓国では女性労働者の強さの一つの象徴になつていつたんですね。これをある女性映画監督が五一〇日も一緒に寝泊りしながらドキュメンタリーを作つて映画化したんです。山形映画祭でそれが最初に上映されて、その後東京、大阪、京都、京都では一回ぐらい上映されましたけれども、この中でご覧に

なつた方がいらつしやるかもしませんね。この映画を見た後、在日の女性も日本の女性もその映画を見に来たほとんどの人はなんだかわからないけれども、女性運動家の人とか女性研究者とかそういう方ばかりでした。男性はあまり見あたらなかつたです。その映画が終わつた後は、韓国の女性はどこからそんなパワーが出るのか、とか、怖い、といった感想が多かつたんです。

二〇〇八年に日本で派遣切というものが流行りました。東京の派遣村の年越し等が話題になりました。マスコミで大々的に取り上げて、社会問題にはなつたんですけども、私はその時日本の方がどう対処したのか、それが見えませんでした。製造業が主になつてるので男性が多くつたと思うんですけども、裁判に訴えるとか、工場の前でピケットをもつてストライキを何人かがちょこちょこやっておりましたけれども、団体で動いているのを私は見つけることができませんでした。両者を見ながら考えたことは日本と韓国において、非正規社員から解雇されて職を失つたという条件は同じでありますながら、この闘い方は正反対だなということでした。韓国の女性が一生懸命闘いましたけれども、「こうした女性達の闘いは七〇年代に遡ります。

韓国の女性は七〇年代から闘つてきました。あまりにも劣悪な労働条件で、低賃金で、その時の男性と女性の差があまりにもひどくて、韓国の女性が子どもまで自分の職場に連れて行つて闘つてきているんですね。その結果今は法律上では韓国の女性と男性は全く平等なんですね。法律上ではですね。日本もそうだと思いますが、このように七〇年代の労働運動といつたら女性だと誰もがまず思うぐらい、男性より女性が闘つてきているんですね。こうした女性の闘いによって法律では全く同じ労働条件になつたんですけども、これは国際女性地位に関する国連で発表したものなんですけれども、これを見ると、HGIとGEMとGGIがあるんですね。けれどもこれに対応する内容が何かというのは下に書かれています。HGIは人間らしい生活水準を測つたもので、GEMは女性が政治及び経済活動に参加し、意思決定に参加できるかどうかということを測る数値なんですね。GGIは男女間の格差を数値化したものなんですね。これを見ると人間開発指数で日本が八位で韓国

が二五位。まあまあいい数字ですね。なのに女性の政治や経済活動への参加度を測る数値ではなんと日本は五八位、韓国の場合は六〇位の中にも入れず、探してみると、六四位になつていきました。H G I はこんなに高くなつてきているのにG E M は六〇位の中にも入つてませんね。更にジェンダーギャップの場合は日本の場合は九八位なんですね。韓国は見当たりませんね。多分韓国はG E M が六四位なんで一〇〇位以下になつていますね。韓国の女性が闘つてもまだまだジェンダーギャップはこんなに大きいですね。

今日は在日コリアンがテーマなんで在日コリアンがどうだつたかということをお話したいんですが、残念ながら在日コリアンの統計が全くないんですね。日本の入国管理局に行つたら、コリアンの統計はありますけども、彼女のようなオールドカマーと私のようなニューカマーが混ざつた統計なんですね。だからオールドカマーの事情とかは全然わからないんです。全然わからないので、研究者達が一人一人インタビューしながら調べるしかないのが日本の現状なんですね。アメリカだと、政府がエスニック・マイノリティに対して数値を出しているんですけども、日本の政府が出しているのは一つにまとめた統計しかないです。統計のない在日コリアンの移り変わる女性像を話して下さいと言われて、統計もないし、どこから女性像を見ればいいかなということで悩みました。私の周りの在日の女性を見ても、皆ばらばらです。性格もばらばら、考え方もばらばらでした。なぜこういうふうになつたんだろうと調べたところ、福岡安則さんが一九九三年『在日コリアンのアイデンティティ』という本を出しているんですけども、この本によると在日は多様化している。彼は五つのアイデンティティがあるとして説明するんですね。まず共生志向型、この人達は日本社会と共に生きようとする。そして祖国志向型、在外公民として生きようとする。これは朝鮮総連系がそうなんですが、私のようなニューカマーはほとんどそうなんですね。外国人として生きるのは当たり前だと思うんです。これが祖国志向型ですね。そして個人志向型は自己実現主義なんですけれども、エリート集団によく見られる傾向であつて、自分の努力で何か自分で得るものを探む、という志向型ですね。次に帰化志向なんですが、日本人と

同じになるという考え方を持てる人が帰化志向なんですね。五つ目が同胞志向なんですけども、在日同胞のため権益擁護や待遇改善をする。このような五つのグループは、それぞれの問題において、それぞれの対応が皆異なるので一つにまとまらない。だから在日像を掴もうとしてもそれぞれのグループが皆答えが違っています。

私にとって、在日女性像が見えにくかったので、在日女性達は今まで何をしながら生きている人なんだろう。在日コリアン女性は主体的な存在になり得たのか? などと疑問を持ちました。いろんな論文を読んでみたら、ある在日の方の論文にこう書いていました。在日コリアン女性は在日社会における民族運動を支え、日本における女性運動にも参加してきた。しかしどちらにおいても「主体となり得ず」、「主体となり得ず」ということが大事なんですね。一方は男性を支えるシャドウワーク。つまり影の労働ですね。もう一方は、没民族として女性運動の周辺的な役割を担ってきたことに気付きました。つまり、在日女性の場合、主体になり得なかつたので見えなかつたと思います。

もう一つ私が注目したのは、在日コリアン社会において女性解放の叫びは無視され続けてきたことです。日本社会との対峙の故に共同体を批判することは許されなかつた。なるほど、女性達は共同体での葛藤をさけるため声を出さなかつたのではないかと私は思いました。それで在日コリアンの女性像が見えなかつたのではないかと 思います。私は昨日まで東京にいましたけれども、在日のシンポジウムとか在日と関連する研究会をやっていたんですね。その時研究会を在日韓人歴史館の中でやつていました。行つたついでに、ここにある図書館には在日女性に関する一般書と研究書がどのくらいあるか調べました。そこには在日一世のお母さんの生活史とか苦労話はちょこちょこ見えましたけれども、一世、二世、三世、四世のものは全く見えませんでしたね。普通の日本人が在日に關してよく知らないように、韓国でも在日に対しよく知りません。私も日本に来る前は在日の存在すら知らなかつたです。皆さんと同じです。だから一世二世三世がもうちょっと自分の話を語らないと、韓国人も日本人もわからないんじゃないかな? などを韓人歴史館に行つて新たに感じさせられました。

在日の女性像をどこから掴むんだろうと考えました。二〇〇九年から少しづつ在日一世と二世三世のインタビューをしていましたけれども、これで何かが見えるかなと思つてまとめてみました。二〇〇九年夏は在日一世のお母さん達をインタビューしていましたね。このインタビューはかなりの偏りがあります。なぜかと言ふとこれは地域が生野区の今里で、在日共同体に住む九人の女性なんですね。日本の社会に住む女性と共同体に住む女性とまた考え方方が違うんですよ。これは共同体に住む一世のお母さん達のインタビューですから、かなりの偏りがあると知りつつあえて言えば、この人達は植民地時代にあの土地に移り住んだんですね。話を聞くと、祖国の生活様式は守り続け、故郷を思うことで、自分は朝鮮人であるという自信を持ちアイデンティティを確立している世代なんですね。必死に生活基盤を築きながら祖国への望郷の念を抱きつつ生きてきたということを話しました。韓国人であるという民族志向が強い。この女性達を一つの女性像としてまとめたら、耐える、とか、黄さんのお母さんのように家族のために一生懸命に働く。だけどこんなに自分は苦労して働いたよということを言わない。私がインタビューした人の中ではかなり成功した方もいらっしゃったんですね。話を聞くと、かなり苦労しましたね。私が「お母さんがあってこの会社がありましたね」と言うと、「そうではない、私の主人と息子が頑張ったよ」と言うんですね。でも話を聞いたらお母さんが朝から晩まで頑張ってきたんじゃないですか」と言うと、「私は当たり前、うちの主人と息子が頑張ったよ、自分は当たり前」という話をしましたね。それが一世のお母さん達の女性像だと私は思いました。一言で言えば家族のための犠牲ですね。

去年の夏は在日二世と三世、年齢的には四〇代と六〇代の女性を六人インタビューしました。その人達は住むところがばらばらだったんです。その時私は、福岡安則さんの枠組みの多様化世代にあたるのではないかと思つたんですね。その人達は日本で生まれ、日本語を母語とするんですけども、自分の母国語である韓国語が外国語のようになる。自分が韓国語を喋れないことを恥ずかしく思う世代なんですね。日本からいろんな影

響を受けてそれを吸収しながら生活する。差別の体験もする。就職差別とか、キムチ臭いとかににく臭いとか朝鮮人とか言われたりいろんな体験をする。だから民族や共同体にすごく悩んでアイデンティティの葛藤がある。元々アイデンティティの確立が難しいとされる世代が、二・三世じゃないかと思うんですね。この世代の人には会うとよく「第三世界論」について話をされました。「第三世界論」とは何かと言うと、私は韓国人でも日本人でもないと。否定するんですね。じゃあなんなの、と聞いたら「第三世界人」と言うんですね。私は、在日同胞志向型ではないかと思うんですが。共同体に住む女性達は日本社会は批判できても、共同体の批判はしませんでしたね。しかしこの共同体から離脱した女性達は、共同体の批判をしていました。離脱というのは何かと言うと離婚したとか、最近在日の方々の離婚率はかなり高いです。日本も同じだし韓国も同じだし、先進国に行けば行くほど女性の意識が高くなるので離婚率が高くなるのは当たり前なんですけれども、それに比べても在日の離婚率がかなり高いということはよく聞くんです。でも数字、統計はないんです。日本の離婚率とか韓国の離婚率は数字と統計を政府がちゃんと出しているんですけども、在日の離婚率というのはどこにも統計がないんです。でも周りで聞いてみると離婚率が高いということは在日の特徴の一つでした。

次は四世、若者の世代なんですけれども、今の三〇歳未満の世代でしようかね。この人達はインタビューしたことがないんです。でも私の周りは自由な考えを持つ在日の学生が集まっています。この人達からある程度抽出したものなんですが、この人達も日本で生まれて、日本語を母語にして、母国語である韓国語を外国語として感じる世代なんですね。だけどころの人達は前の世代と違つて韓国語を喋れないことを恥ずかしく思わない。当たり前だと受け止める世代なんですね。差別もあまり受けていない。だからさほど問題を感じられずに日本社会で適応していく世代なんですね。代わりに民族の歴史や文化に対する感情も薄く、韓国人としての自己意識が薄い世代なんですね。民族とか共同体とかの帰属意識がほとんどなくなつていく世代なんですね。日本への同化傾向が強い世代なんですけれども、若い世代は日本人と結婚する人が多いですね。毎年在日コリ

アンが一万人ぐらい日本に帰化するんですが、結婚して帰化したり、二世三世でも自分の子どもが結婚する時に一緒に帰化する傾向もあるのではないかと思います。この世代も自分の親の世代と同じように多様なアイデアティティを確立しているんですね。しかしながらこの世代は、日本と韓国の両方の文化を理解して、時と場合によって日本側にも韓国側にも自らを帰属させる「」ことができる世代なんですね。この世代もよく「第三世界論」を言うと思います。だけど自分のお父さんお母さん世代のようにマイナス思考ではなくて、つまり、私は日本人でもない、韓国人でもない、そのような考え方ではなくて、私は韓国人でもあり、日本人でもあるというポジティブな考え方を持てるんじやないかなと思うんです。この世代になると、在日コリアンの女性が初めて共同体に認められる世代になるんじゃないかなと思うんですね。共同体に対しても同等に発信できる世代。この世代が四〇代、五〇代になつたら、日本と韓国の架け橋の役割を担う世代として友好関係において大事な役割を果たしてゆくのではないか、だから在日のこれからは明るくなるのではないかと思うんです。在日一世、二・三世の話をする少し暗いです。だけど四世の話になつたら明るくなるんですね。サッカー選手の李忠成、彼の話でも、苗字はそのまま韓国語で下の名前は日本読みで帰化してんですね。このように自分の出自を明らかにして日本でも韓国でも活躍する人が増えるのではないかと思うんです。

ちょっとと時間がこえましたけれども以上です。

仲尾 宏：ありがとうございました。在日へのインタビューを通じて韓国人から見た在日像、その中でも女性的地位というお話をだつたと思います。おっしゃるように、統計的に在日とその家族について国レベルでも地方レベルでも統計的な資料は全くないんですね。ただ聞き取りはできます。私もかつて京都市が企画された在京コリアンへの聞き取り調査に参加したことがあります。それで年配の方を含めてかなりの在日の方に聞き取りをさせていただいたんですけども、今から考えると男性が多かつたように思います。つまり、お祖母さん、

お母さん、ハルモニやオモニの聞き取りは数が少ないですね。だからあまり本音は出ていなかつたと思うんです。そういうことをまたご報告いただきたいんですけども、黄さんに皆さんからの質問を導き出す意味で予めお聞きしたいんですが、さつき梁さんは今里、生野という集住地区は共同体と表現されましたね。黄さんは育されたところはそういう在日の集住地区だつたんでしょうか。

黄 エステル：違います。

仲尾 宏：日本社会の中でぼつんとというか、そういう形で育つてこられたんですね。

それからお母さんは長男のお嫁さんとおっしゃいましたよね。家でチエサのことを全部面倒みられたんですか。

黄 エステル：そうです。

仲尾 宏：チエサというのは韓国・朝鮮社会の伝統的な家庭での先祖祭りですね。私が聞いたところでは準備は全部女性がやる。けれどもお祭りの行事には男性だけということで、女性は参加できないと。それは在日の社会でもずっと続いていると。

黄 エステル：ある意味で、とても封建的なものをしつかり受け継いだ世代だと思いますし、私が小さいころに大人が法事だと言って集まってお酒を飲んでは喧嘩するというパターンが多かつたようです。子供心に嫌でした。

仲尾 宏：とすると、ここで梁さんが一世のところで結論的に話しておられるように、女性は旧習に従順で

耐える、家族のために一生懸命働く。お祖母さんやお母さんはそのようにして生きてこられた訳でしょうか。

黄 エステル：はい、そういう後姿ばかりを見てきたように思います。

仲尾 宏：ありがとうございました。二、三世の終わりのほうですけども、在日の社会から女性が離脱することができるかどうか。結婚とか離婚とか、国際結婚とかあるんですが、その辺りは黄さんどのようにしてこられたのでしょうか。

黄 エステル：母は、弟の彼女が日本人の人だったんですけども、それを最後まで反対しました。なぜかと言うと、彼女はとってもいい子なんんですけど、日本人っていうことが自分には受け入れられない、だから自分の目の黒い内は韓国人の人と結婚してほしいという思いがありました。

仲尾 宏：それは私もわかるような気がします。私の教え子の一人の女性が在日二世だったんですけども、日本人と結婚するという決意をしました。夫の日本人の両親は猛反対、女性の両親、中でも特にお父さんが猛反対だったんですね。私は意外でしたけども、その理由は結局、今黄さんがおっしゃったように、俺の目の黒い内は日本人とは絶対結婚させん。という強い意志があつたんです。その背景は皆さんお考えいただきたいんですけども、その結婚式は結局両方の親が出てきませんでした。私が形の上での仲人になつたんですけども、兄妹は出てきましたけども、お父さんお母さんは結局出てこない。彼女のお母さんはまあ仕方がない、と思ってらしたんだけども、お父さんが絶対許さないと言うもんだから結婚式にも行かなかつたと。こんなことのようですね。似たような状況と考えていいんでしょうか。

黄 エステル：そうだと思います。

仲尾 宏：そういうことを二三挙げると在日社会における女性のありよう、姿というものが少し浮かんでくるような気がいたします。それは皆さん方のご質問に応じていろいろ追加をしていただきたいんですが、今日新しい資料を準備しておりますので、今日の本題から離れますけども、ご紹介だけさせていただきます。連続フォーラム・チョゴリときものNo.一八「女性像の移り変わり」というこの一枚ものの資料がありますが、この上の方が、この前少し触れました韓国のことです。韓国の新しい家族関係登録法における女性の地位が改善されると。つまり戸籍法が廃止されて家族登録法に二〇〇八年一月からなりました。そうすると入籍、復籍、分家などの制度が廃止されます。父系承継強制、お父さんの家系を受け継ぐということが、戸籍が廃止されましめたので、文化としては残るとしても、いわゆる族譜、チョツボの影響を持つということの意味あいが変わつてくる。

それから家族の場合は登録基準地制度が入るんですけども、家族全員が同一地での登録は不要である。例えれば新婚旅行に行つてその地で二人が登録する。お父さんお母さんは住んでいたソウルで登録するということでも構わないとなる。登録事項は一から六項目だけでして、兄妹が出てこないんですね。兄妹は戸籍がなくなつてしまいましたからこれは出てこない。子の嫡出、非嫡出の区別も記載しない。特別養子、親養子制度が導入されます。今までの韓国社会だと父系の承継ということになりますから、特別養子という形で再婚した妻の連れ子は元夫の同意なく姓の変更ができなかつたんですがそれができると。それから再婚した夫がその子を特別養子として入籍することも可能だという制度もできました。それから名前については婚姻時の申請によつて子の姓は父母どちらの姓でも名乗ることが可能になつたということがあります。そういう訳で、労働や社会における女性差別と同時にこういった民法上、私法上も女性の地位が飛躍的に高まるということになりまし

た。それはちょっと紹介だけに留めておきます。

訂正がございます。前回父子家庭、母子家庭のお話が出ました。このフォーラムが始まる前に控え室でお話していた時にあの時の出席者の方が、私は日本の戸籍に入っていないから父子家庭と間違えられて、私がどこにいるのかわからんと言われましたので、そうだという話をここでしたんですけども、そこは間違いました。外国籍者が記載されないのは現行の住民基本台帳です。住民基本台帳には外国籍は記入されません。外国人は外国人登録法に基づいて外国人登録を行いますので、日本人の住民台帳には入らない。戸籍については外国籍者との婚姻も記載は可能である。本人の申出によって、韓国人誰々を妻として迎えたというのは可能であるということであります。二〇一二年七月から施行される新しい住民基本台帳法は、外国籍者や配偶者も所帯構成員として記載することになりますので、今までの住民基本台帳の父子家庭、母子家庭扱いは消えるということになります。市町村によつて複数国籍所帯として証明書の発行が可能になるようなことが考えられているということです。これについては司法書士さんが現在把握しておられる状況に基づいて聞いてきましたので、これまで間違いないと思います。以上前回の私の発言の訂正を含めてご紹介いたしました。

それでは今から休憩をして皆さん方のご質問を受け付けることになります。

司会：では第一部終了いたします。皆様のご意見ご感想ございましたらこちらのほうへお持ちいただきますて第二部につなげさせていただきます。よろしくお願ひいたします。第二部の開始は三時五分といたします。それまで休憩とさせていただきます。

司会：お待たせいたしました。第二部を開催いたします。予定が五分ということでだいぶ遅れてしまいまし

て申し訳ございません。今回もご意見とご質問を一一いただきました。その中でご質問に関してはお二人からお話を伺うということで、第二部を進めさせていただきます。

仲尾 宏：一二のご感想ご質問がありました。今日はご意見、ご感想が非常に多かつたです。質問という形のものは比較的少ないんですけども、それはそれで逆に時間がありますからお二人からゆづくりご意見をお聞かせいただいたらいかと思います。

まず第一番目の方。「韓国の家族関係登録法は素晴らしい法だと思います。日本でもこの制度に早くなればいいと思います。外国人の差別ののみならず同和問題にも一石を投じることだと思います。」私もいろいろこのことを知るにつけ、日本は血族、血のつながりということを非常に重視してきた社会です。ところが今のようなグローバル時代になると国際結婚というのはごく普通にこれからもなつてゆくでしょうし、そういう意味で韓国の家族関係登録法というのはそういう時代を先取りしているようにも思います。そんな意味で今日ご紹介したわけですが、またご关心があればお互いに勉強してまいりましょう。

二番目、これは梁さんにお答えいただきたいと思います。「共同体というのはどういう意味なんでしょうか。ある一定の地域のようなものを指すんでしょうか。」これは梁さんの研究報告の中に出でてきた言葉ですね。では梁さんお願ひします。

梁 京姫：共同体というのはある地域を決めて使っているわけではなく、例えば生野区とか鶴橋とか韓国人の集住地域に住む人々ですね。このような地域に住む人々の集団という概念で共同体という言葉を使いました。

仲尾 宏：次にまいります。「前回住民基本台帳法の改正について質問させていただいた者として今回きち

んと調べていただいたいて訂正していただいて感謝します。行政サービスの基礎となるデータベースとして住民基本台帳が使われているので、表面的には改正によつて変わることはあると思いますが。戸籍のこととも含め変わらない問題についてまた掘り下げてお話を聞く機会があればと思います、今回のテーマとは少しずれてしまいますが、感想に留めさせていただきます。」こういう「意見」いただきました。私が象徴的だと思うのは、今まで外国人は外国人登録法の範囲であつて住民登録に入つていません。これは言葉としても非常に象徴的だと思うんですね。住民でないながら住民でないというのが法律の意味から考えられましたけども、今日は住民基本台帳に外国人籍の人を全部入れるということで、かなり意味合いが変わつてきます。これは大変よいことだと思いました。

次「仲尾先生を始めペネリストの大変貴重な体験、」この意見は何かを窺えて勉強しました。

在日コリアンは在日の方々の生活環境によって語られることが全く異なり大変興味深いことでもあります、梁先生の研究が更に進められることで統計的な在日コリアンがわかる」とを期待しております。」こういう「感想」です。

次は梁先生への質問。「第二世代の方の離婚が増加する傾向にあるとのことです、子どもがある場合、親権や看護権についてどのような取り決めが行われる場合が多いか、ご存知でしたら教えて下さい。また離婚後子を引き取つてシングルマザーとして生きている在日コリアン女性の現状や問題点についても教えていただけたら幸いです。」まず梁先生に答えていただいて、後半の離婚してシングルマザーである在日コリアンの女性の現状などについては、黄さんもご存知であれば付け加えて下さい。梁さんからお願ひします。

梁　京姫：先ほどもお話ししましたように、在日の離婚の現状は本当に見えないんですね。それがすごく問題になつて、科学的研究費をとつて来週の火曜日から在日のシングルマザーの調査を始めようとしているところなんですね。三人の研究者がこの問題に取り組んで、一年ぐらい、五〇人ぐらいの名簿を作成しているところなんですが、けれども、在日シングルマザーの経済状況はどうかということと、子どもにどんな影響があるか、どうい

う意識の状況にあるかということが全く見えないんです。今回、初めて在日の離婚者に対する調査が始まるのではないかと思います。今のところは全体像はどうなっているかはわからないです。

私の周りにも在日の友達がいて、三人ぐらいが離婚してるんですね。私の周りの在日と言つてもかなり高学歴者なので、ある程度経済的なことは解決できる人なんですね。二人が日本人と結婚して離婚しましたけれども、一人の場合は日本人の元夫が再婚しているんです。子どもが会いたいと言つても向こうが会つてくれません。今は子どもが高校生と二〇歳ぐらいの男の子が一人いますけれども、離婚してから一〇年ちょっと過ぎていますね。最初には何回か会つてくれましたけれども、まもなく会えなくなつて、今は子ども達が成長して、お父さんに会いたいって言つたみたいでそれとも、向こうが自分の家族があるということで会つてくれませんでした。それで彼女が怒ったのが二週間前のことだつたんですね。彼女は今ある研究所の研究員なので経済的にはなんとかできるんですね。子ども達が、上の子が学校を高校で辞めてしまつていて二番目の子も今年高校三年生になるんですけども、学校を辞めてしまつてるんです。上の子が最初引きこもりになつてそれですごく悩んで、今はそのままの子どもを自分が受け入れるしかないということで、心を開いて、子どもが学校に行きたくないのであればそれでいいよということを素直にそのままにしているようです。以前はお母さんとも話すのを拒否して、それで何年か友達が悩んでましたけども、今は話すようになって、一月ぐらいに運転免許を取りたいと言つた上で、私の友達はそれが嬉しくて嬉しくて本当に喜んでいました。このような状況に置かれています。友達は経済的にはそんなに苦労はしないんだけど、子どもの精神的な支えに関してすごく悩んでいて、男の子なのでお父さんと話ができるたら精神的な支えになるんじやないかと思つて連絡したら断られて子どもが落ち込んでしまつてている状況の友達が一人います。もう一人は元々高校の先生だったのが一人とも高校の先生で、結婚したんですね。娘が一人いるんですけども、離婚する時は娘を私の後輩である彼女が引き取つたんですね。彼女は経済的にはよいので小学校二年生になる子どもを元気よく

育つてます。お父さんが日本人だけれども再婚していないし、独身だからわからないけれども、養育費もちゃんと払つて、子どももすごく会いたがるという状況です。だから離婚状況は個人的にそれぞれ違うのではないかと思うんですね。もう一人の友達は在日同士で結婚したんです。姑がかなりきつい方だつたみたいで、それに耐えられず離婚して、子どもが四人いたんですけども、娘と息子を一人ずつ引き取つて二人はお父さんと住んでいるみたいです。一番上の娘が精神的によくないみたいで、それですごく悩んでいます。私の周りにいる人は高学歴だしある程度経済的に支えることはできるんだけど、子どもの悩みを持つて、それが問題になることが多いですね。これからは、経済的に困難な人がどうなっているかを私は知りたいので、今年はこの研究に取り組んで、離婚しているシングルマザーとか、離婚して一人で住んでいる女性、そういう人がどうやって経済的に自分を支えているかを調べていきたいと思つています。

仲尾 宏：ちょうどいいタイミングのお話でしたね。では黄さんお願ひいたします。

黄 エステル：統計的なことは梁先生にお任せしたいと思います。シングルマザーに関しては在日コリアンに限らず日本では離婚率が高いと思いますが、現在は女性の働く場が広がりまわりの人々の記憶の中にも離婚に対する考えが変わったのではないかと思います。実家には泣いて帰ることが出来ない！そんな思いも薄れていつたのではないかと思います。

仲尾 宏：私も在日の離婚した人を二、三知つておりますけども、先ほど梁さんは高学歴の方とおっしゃいましたが、例えば二世で高学歴じゃない方ですね。そうした場合どういうことになるかというと、一人で生きていかなければならぬ、あるいは子どもを育てなければならぬ、けれども、いろんな日本の社会の仕組み

をよくご存知ではない方が多いですね。例えば税金はなぜ督促状が来るのかとかね。国民年金に入るにはどうしたらいいかとか。あるいは介護保険はどうだとか、あるいはこういう問題はどこの役所に相談に行けば乗つてくれるのかということの知識が十分じゃなくて、うろうろされているという方が多いですね。それはやはり在日の方の離婚したシングルマザーはかなりのハンディキャップがあるような気がいたします。そういう方も含めて事例研究をしていただければありがたいと思います。

次に参ります。「韓国女性のイメージ」というと、良妻賢母といったイメージが強いです。韓国本国の女性にしても在日の女性にしても今を生きている韓国女性にとって、韓国社会は女性が生きやすいように変容しているとは思うのですが、封建的な因習から脱しきれず、良妻賢母にならざるを得ない状況になつていてる気がします。在日の女性については封建的な家族制度からより脱出できないで、家を背負つてもがいたり、仕方がないという感覚の中に埋もれていたり、あるいは家を背負うこと嫌つて離脱するというパターンのいずれかという気がします。結局目の前に今までいたロールモデルが家に縛られたオモニばかりで、そうならざるを得ない状況だったのではないかと思います。」こういうご感想ですが、このご感想に対し、黄さんと梁さんから一言ずつご感想を下さい。

梁 京姫：良妻賢母と言つてますけれども韓国では賢母良妻です。日本とちょっと言葉の違いがあるんですね。日本は良妻賢母、韓国は賢母良妻、子どもが先、妻という立場がその後でしようかね、日本の場合はもつとよい妻、賢いお母さんですけれどもね。

韓国ではさつきもチエサの話がちょっと出ましたけども、私は日本に来た当初に韓国語を教えていたんです。韓国語を教える時、その時は学生時代でしたけれども、在日の方（主婦）に韓国語を教えたらその人が忙しいと言つているんですね。なぜそんなに忙しいですかと言つたら、チエサが多いと。韓国でも多いところ

は毎月チエサがある家庭があるんですね。食べ物をたくさん準備して、男達が用意できた食べ物の前であいさつすると女性がそれを見守るというような行事なんですけれども、在日の世界に来たら、在日もそのようにすると。その方はほとんど毎月あると言つていきましたね。それでびっくりしたことがあるんですけれども。韓国では今本当に簡素化しているんですね。お盆とかお正月になつたらその次の日は裁判所が忙しくなるという新聞記事も出るほどですからね。お正月に女性が夫の実家に行つて一生懸命働いてもうむかつく、となつて裁判所に離婚届を出す、というパターンですね。それがたまにあるみたいで、簡素にせざるを得ない。今は法事といつても一つの膳にいくらというように営業としてやつているところもあって、電話一本で料理が解決できるようになっています。でもまだ在日の世界はそれがないですね。だから韓国ではまず簡素化して女性が住みやすいほうへ流れいくんですけども、在日の世界は旧習に縛られてるところが多いんです。自分の国を離れたから、自分が離れた時の時代を祖国だと思うことが多いですね。ニューカマーとオールドカマーを割つてみたら、考え方が植民地時代に來ている人は、植民地時代の旧習に縛られている。七〇年代に來た人は七〇年代に縛られている。九〇年代に來た人は、九〇年代の韓国が自分の祖国なんですね。私も九〇年代の末に來ましたけれども、今一二年目です。韓国にたまに帰つたら、私が変わつたという話を友達からよく聞きます。しかし私が見ると友達は韓国社会でどんどん変わつているのに、私のイメージとしては九八年より前の韓国に対してのイメージなんです。韓国は変わつてゐる。私もチエサとかを見るとびっくりするんですけれども、簡素化しつつあるのが韓国社会なんですね。東京に行つた時、『在日コリアン辞典』という本が出版されて、それをどう読むかというシンポジウムだつたんですけども、在日研究者とか在日の方が集まつたんですね。そこで法事に関して質問をしていました。あなたの家はどうか、という質問をしたら、済州島の人の場合はだいぶ簡素化してるんですね。ここは簡素化しているので離婚率がちょっと少ないのではないかという話をしました。慶尚道というところ、黄さんのお母さんも慶尚道と聞きましたけれども、釜山の辺りですがその辺りは

まだまだ簡素化ができるいないみたいなんですね。だから噂で慶尚道の人の離婚率が高いという話があります。このように旧習に縛られて変わらないところのほうが離婚率が高いという笑い話のようにしましたけれども、良妻賢母というイメージも韓国では変わっているんですね。在日の世界でも地域によって変わらないところがあるって、やはり旧習に縛られているところは女性が生活しにくいくらいやないかと感想として持ちました。

黄 エステル：私自身は韓国の簡素化がいち早く在日の古い習慣を持つている人達に伝わればいいと思います。封建的な因習というのは、本人達は封建的だとは思っていないと思います。それを守ることこそが自分達の使命とか役割だというふうに解釈していると思います。在日だからではなく日本にいても古い習慣その他のことは引き継がれていくつて解釈しているので、一言でそれをよい、悪いという判断は私にはできませんが、法事に関しては、一ヶ月に一度とおつしやいましたが、本当にたくさんある家は誰が一番大変な思いをするかと言つたらその家の女性達なので、そういうことが早くなくなればいいと思つています。

仲尾 宏：毎月というのはなぜかといいますと、五代前に遡つてすべての故人に對してお祭りをしなければいけない。五代前というと曾祖父さんのもう一つ前の世代ですよね。すると顔も見たことのない人ばかりです。曾祖父さん夫婦も顔は見たことはないですね、ほとんど。ところがお祭りを長男の家ではやらなきやいけない。長男の妻が一番大変なることになるということのようです。

次へ参ります。「黄さんには在日三世の女性として梁さんには外国の女性としてどうすれば同じような立場の女性の地位がこの日本でもっと改善されると思ひますか。」と書いてあります。これも一言ずつお二人に答えていただきましょうか。

黄 エステル：私の名前が先にありましたので、私がお話をさせていただきます。女性の地位っていうのはとても難しい課題だと思います。男性の地位に近づくことが女性の地位が向上したことかとも思えませんし、小さなことから始めていくことだと思います。小さい声を上げる。小さいことから、小さい共同体であるとか、家族ももちろんそうですし、今までのことから見ても一度にたくさんのが改善されたことはないと思います。改善されると信じて一つずつのこと根気よく続けていくしかないと思います。

仲尾 宏…小さなことでもとおっしゃいましたけども、一つの例をあげていただけますか。

黄 エステル：私は韓国の食文化として薬膳のような韓国料理を知りましたし、辛いだけではないキムチの味も知りましたし、家庭での食生活とか家族に目を向けることが大事だと思っております。

仲尾 宏…はい、ありがとうございました。それでは梁さんお願ひします。

梁 京姫…これは難しい問題ですね。日本も韓国もこのように今まで七〇年代、八〇年代で変わっていっているのは、国連の政策の影響が大きかったと思うんですね。国連が、さつきご覧になつたように、指標を毎年発表して、日本と韓国の政府がそれを取り組まないといけないような圧力をかけてきました。それによつて韓国でもエンパワーメントが大四位になつたのも九六年ぐらいですかね、その前は九〇位ぐらいだったのが。どうやつて急に三〇位ぐらい上がつたかと言うと、積極的措置というか、日本ではそのように使われているんですけども、女性の割り当て制ですね。例えば大学教員は三〇%まで女性にしないといけないとか、公務員も三〇%まで女性にしないといけないとか、それは国連が決めていたんですね。ある程度男女のバランスをとらない

といけない。それをとれるように日本の政府とか韓国の政府に圧力をかけたんです。それで経済的エンパワーメントもここまで上がつてきているんですね。トップダウンで圧力をかけるとエンパワーメントは変わると思うんです。私がまた感じることは女性自身の問題だと思います。

インタビューした女性の中でも多いんですけども、インタビューしていたら、女性自身が自分を縛つているのを見るんですね。さつき私が報告する時ストライキする写真も見せましたけれども、ストライキが終わつてから映画になつて、その後感想として映画に出ている人達が話し合いを行つていました。これが終わつたら何が一番しんどかっただか、という話を監督さんとインタビューをしていたんですね。その時この女性達が言つていたのは、自分達は一年半ぐらいお母さんとして、女性としてではなく労働者として闘つていた。広く言えば人間として闘つているのに、家に帰つたらすぐにお母さんの役割をしないといけない。妻としての役割をしないといけない。これはもちろん自分はするのはするんですけども、自分は意識が変わつている。なのに自分を見る目は一年半前と全く同じ。夫の意識が変わつてくれない。夫に、私は今はここまで変わつているよ、私はあなたの妻であるだけではなく、今は労働者でありお母さんである。あなたは私を労働者として見てくれないといけないよ、ということをずっと話し合うそうですね。日本でも女性が五〇%ぐらい労働者として働いているんですけども、三つの役をしないといけないんですね。労働者として、妻として、お母さんとして。スーパーワーマンにならないといけないんですね。それを男性に譲つてあげる。この役割分担の話を、夫と話し合い続けないといけないんじやないかなと。自分が全部背負つて頑張ついたら、人生面白くないじやないですか。私は労働者だから、ここまであなたが手伝つて、助けてという話をして、各家庭が意識改革を行わないと女性の人生つて面白くないんじやないかと思うんです。

仲尾 宏：ありがとうございました。国連のことをおつしやいましたけども、女性差別撤廃条約ができまし

たね。そして日本も批准しました。その結果としてある程度の女性の雇用問題についての解決のめどもついてきました。男女雇用機会均等法がそうですね。そんなわけで少しずつ日本社会も変わりつつあると思うし、韓国もそうだと思います。そういうことも含めて家庭の中、自分達の家族の協力、あるいは社会全体の仕組みを変えていく。そういうことがいくつも重なって本当の意味でのジェンダー問題が解決していくような気がいたします。

次に参ります。「在日コリアンにも世代交代の波が押し寄せて一世が次々と亡くなつていく中、新しい考えを持つた二世、三世の世代にならうとしていると思う。頑なに韓国の風習やチエサを守ろうとしているのはむしろ在日の方の意識が強いのではないでしようか。差別は依然として根強いものであり、特に結婚はなかなか厳しいと思います。共生していると感じられる人はそれなりの地位、就職、学歴等をある種手に入れた人ではないでしようか。犯罪率も高いし貧富の差もなかなか縮まらないですね。公務員の中にも帰化して職員になっている人が何人もいることを忘れないで欲しいと思う言動があるのにはびっくりします。」これは、差別的な言動がまだあるということなんでしょうね。「研修の意味すら疑いたくなるような。人の心の中まで変えることはもつと年月がかかるのでは」こういう感想です。

次は「在日の一世から四世の世代の意識の変化がよくわかりました。二、四世代の方はポジティブ志向と言われていましたが、学生を見ておられて、日本人と考え方等に違いがありますか。」これは梁さんですかね。

梁 京姫：今の日本の学生は内向き化していくという言葉をよく聞きますね。それは学校によって違うと思うんですねけれども、私は大阪市立大学で教えているので、自分の主張ができる子達が多いんですね。その意味で在日の三世、四世もよくしゃべるし、日本人と同じように自分の考えをしゃべっています。日本の学生がどうか、在日の学生がどうかという区別というのがほとんどなくなつたと。在日の三世、四世が日本人であり、韓国人であるという考え方を持つようになつたということではないでしょうか。

仲尾 宏：ありがとうございました。

次、黄さんへの質問です。「友人の誘いで韓国へ行かれた際、行く前にイメージしていた韓国と行った後に感じる韓国は同じようなものでしたでしようか。それとも異なつておられましたか。再度行きたいと感じられますか。在日二世の義母で家族のために尽くしてきたという方で、旅行に行つたことがほとんどなく、韓国へいつたことがない様子なのですが、どのように思つているのだろうかと思うことがあります。」ということですが、韓国へ行かれたご感想ですね。

黄 エステル：初めて行つた時は留学生の人達と一緒にしたので心強いこともありました。私の中での韓国といふのはテレビで見たり映画で見たり人の話を聞いたりとその程度でした。しかしその土地に住む人達とは違う戸惑いがありました。私が近づく事が出来ない、越えることが出来ない時空を感じました。自分のルーツを感じたのも事実です。今でも韓国は何度も行つております。未だに韓国に行くことができないという方のお話ですが、行つてみなければわからないというか、できれば一日も早く韓国の土地を踏んでいただきたいと思います。

仲尾 宏：ありがとうございました。次に梁さんへと書いていますが、「質問ではなさそうですね。」紹介だけさせていただきます。「家庭内で長男を大切にしてこられた方が身近におります。私の友人は大切にされてきていた兄に對してよい感情を抱いていない面が多く感じられることがあります。耐える女性像に對してネガティブな思考を持つた方です。兄妹関係がよくないのも残念だと思いますが世代により女性像が変化しているということをお聞きでき、意識の変化もあると聞いて、大変よかったです。」こういう趣旨です。長男が特に大事にされるという問題ですね。

次は大きな問題で本筋からはずれますが紹介します。「中国人は老いも若きも日本人を目の敵にしている

ように思われるが、コリアンの方々は日本人に対してもどのように思つておられるか。世代間による違いがあることはわかりましたが、在日の方とそうでない方で、日本に対する見方に違いがあるのでしようか。今の日本の若い世代は中国よりコリアンの方に好意的なように感じますが、コリアンの若い世代の方も日本を好意的に思つてているのでしようか。韓国には中国のような反日教育のようなことは行われているのでしょうか。」こういう質問です。大きな問題で答えにくいこともあるかと思いますが、この質問に対するお答えなり、「感想を一言ずつお二人からいただきたいと思います。黄さんよろしいですか。

黄 エステル：今の若い人達が好意的か好意的でないかという基準が何かよくわからないのですが、一般的に、私のいる教会でも、中国の人も韓国の人もどの国の人も、何かを飛び越えてそこに共存していこうという思いがあつて、皆さん自分の国を離れてこの日本でつながって生きているんだという思いがあつて、私自身が知る限りは、コリアンのほうに好意的だとかはあまり感じておりませんし、反日教育に関しても、私は在日として日本で育ちましたが、自分が韓国人であることを改めて認識し、母がちょうど亡くなつたころに母の枕元に小さい文庫本で朝鮮総督府という本がありました。それを読んでみて、こういう時代を経てきて、私達がいるんだということを改めて知りました。それが即、反日感情につながるかといったら、私の場合はそれはありませんでした。歴史上のことはそれとして、私達は憎しみを引き継いでいくものではないと思っておりますので、答えにならないかもしませんが、私の知る限りでは、若い人のほうが仲良くやつてているように思います。

梁 京姫：二〇〇六年に竹島（独島）問題が日本で報道されていましたね。その時竹島問題でマスコミが韓国での抗議とかデモの映像を流していました。男の人が全部服を脱いで叫ぶような映像をずっと流していました。その時知り合いからも、今韓国に行つても大丈夫かなっていう話をよく聞きましたね。私がなぜと聞く

と、テレビを観ていたら怖い、韓国人は日本人嫌いでしよう、ということでした。だつたら試しにあなたが行つてみたらどうかと私はいつていきました。韓国に行つたことがない人がこの質問をよくするんですね。一回でも韓国に行つた人はこうした質問を全然しないですね。なぜかというと、世代別に考えは違うと思うんですね。けれども、休憩の時間にも話が出ていましたが、七〇年代までは反日教育が行なわれたでしよう、という質問をされましたけれども、これが反日教育かどうかということを議論しました。そのとき日本が行つたことに対して教科書に記述はしています。ですが、本当に自分の親戚とかお祖父さんとかが日本にて、差別的に扱わされた人ではないと、本は本で、漫画は漫画で、映画は映画という感覚に近いのではないでしようか。私は日本に来る前に日本人の知り合いがいましたけれども、彼が私の家に来たとき、私のお母さんは植民地時代の生まれなんですかれども、喜んで歓迎しました。それが韓国人なんです。日本という国に対してはどう思うかわかりませんよ。個人個人によつて日本という国に対するひどいことをしたとか、わだかまりを持っている人は多いかもしれません。でも皆さん一人一人が日本人として、私日本人だよ、といつたら、若い人も歳上の人も皆歓迎すると思います。たまに学校で、日本人の学生が語学研修でアメリカとかイギリスとかカナダとかよく行くんですね。帰つてきたら先生、私韓国人の友達できたよ、と言ふんです。どこで会つたと聞くと、カナダで出会つた、すごくいい友達になりましたという話をします。他の国にいたら必ず日本人と韓国人は友達になるんですね。そこでは中国人もいて他の國の人もいるだけれど、一番仲の良かつた人は誰、というと韓国人なんです。考え方がそれぐらい近いんです。特に韓国の若い人は日本の漫画とかを見て育つた世代なので、日本のことによく知つてますね。歴史は歴史として認識はするんですけども、日本人に対しての好意は大きいのではないかと思います。心配しないで韓国に旅行に行つて下さい。歓迎されると思います。

仲尾 宏：ありがとうございました。そのことについて少しだけ付け加えますと、明石書店という出版社から、韓国で使っている教科書の日本語訳が何通りか過去一〇年ぐらいの間に出ています。それをご覧になつて下さい。反日教育であるとは私は思いません。中国のものは見たことがありますけれども、いずれにしても、どこの教科書でもマスコミの報道のしかたでも、ある程度その国のバイアスがかかるのは仕方がない面があると思うんですね。けれどもそれが反日教育かというと、逆に日本の教科書やマスコミは反韓教育か反中國教育をやつているんじゃないかというふうに言つてしまふことになる。これはやつぱり不毛な争いでして、国としては利害が対立することもありますが、もつと対立しない方法、あるいは和解する道をどうしたら見つけていけるか、ということに我々の思いを切り替えていく必要があると思うんです。その一つの例は、今から数年前ですが、日本の教職員組合と韓国の教職員組合が共通教科書を作ろうということをやつたんですね。一年程度かけられながら思われていたのが三年近くかかりました。それでもできました。そういう努力を、政府の考えていくことや思惑は別として、民間でもやろうと思えばできるんです。今梁さんがおつしやったようにまず行ってみると、知つてみると、友達をつくること、そういう中で反日とか反韓とか反中とかそういう見方で物事を見るのはやっぱりよくないんじやないかという考え方生まれてくるような気がします。この辺はいろいろお考え下さい。

最後に感想をいただいております。「黄様、梁様、お二人とも、まず黄様についてはお母様の人生などを通じて在日二世の女性の生活、生涯について教えていただきました。また梁様についてはニューカマーとして日本に来られ、研究、講義をされる中での在日共同体に住む女性へのインタビューを通じて調査の結果をまとめられたことを発表していただき、特に三、四世の世代を日韓の架け橋の役割を担う世代ということで希望の持てる今後の展望をお聞かせいただき、ありがとうございました。」こういう謝辞がついておりました。私もそのように思います。この方のご感想を今日の全体のまとめとさせていただいて、今日のフォーラムを終わりた

いと思います。どうもお一人ありがとうございました。

梁 京姫：最後に一言いいですか。もしもこの中で韓国人の友達がいない方は私に連絡して下さい。もうちょっと韓国を知ることができます、ありがとうございました。

司会：ありがとうございました。チョゴリときもの第三回を終了いたします。先ほどお話にありました在日コリアン事典というのは、こちら協会のほうでもございます。ご興味のある方はお帰りの際にご覧下さい。この中には仲尾先生も梁先生も書かれている部分があります。

それでは第四週、最終になりますが、来週の金曜日午後一時からこの場所で実施いたします。皆様お待ちしております。ありがとうございました。

## 連続フォーラム「チョゴリときもの」No.18 ～在日コリアンの視点とニューカマーの視点～ 「女性像の移り変わり」

## □韓国的新しい家族関係登録法における女性の地位改善

2008年1月 戸籍法廃止。 家族登録法施行。関連して民法改正

- ①入籍・復籍・分家などの制度廃止
  - ②父系承繼強制の廃止（「族譜」は文化として任意に存続）
  - ③登録基準地を導入。家族の同一地登録は不要。（本籍地廃止）
  - ④登録事項は、1) 姓名

- ④登録事項は  
1) 姓氏  
2) 本貫(出身地)  
3) 性別  
4) 出生年月日  
5) 住民登録番号  
6) 父母・配偶者・子

以上6項 のみ登録

#### ⑤子の嫡子・非嫡子の区別 非記載

#### ⑥特別養子(親養子)制度の導入

(再婚した妻の連れ子(元夫との間に生まれていた子)は元夫の同意なく姓の変更審判の請求可能。また、再婚した夫がその子を特別養子として入籍可能。但し15歳未満の子)

⑦婚姻時の申請により、子の姓は父母どちらの姓でも名乗ることが可能

⑧家族関係証明書記載事項は④のみ。兄弟姉妹は父母の証明書により確認

(家族関係証明書、婚姻関係証明書、養子縁組関係証明書、特別養子関係証明書の5種類  
が個別に発行される。)

### 訂正：「父子家庭」「母子家庭」扱いについて

- 1) 外国籍者が記載されないのは現行の「住民基本台帳」
  - 2) 戸籍は外国籍者との婚姻も記載可能。
  - 3) 新しい「住民基本台帳法」は外国籍者や配偶者も世帯構成員として記載。  
「複数国籍世帯」として証明書の発行が可能（市町村により検討中）

女性像の移り変わり

—ニューカマーからみる日本社会での女性（在日コリアン・日本人）の立ち位置は—

大阪市立大学大学院  
特任助教 梁 京姫

1) 韓国女性のイメージは？

①2007年の闇い

・ドキュメント映画『外泊』

→510日間続いたイーランドグループ女性労働者たちの闇いを映画化

2007年6月30日夜12時、500人の女性労働者がソウルワールドカップ競技場にあるホームエバー・マーケットのカウンターを占拠。同マーケットを経営する大手流通企業イーランドグループは翌7月1日の「非正規職保護法」施行を向かえレジ系の非正規職女性労働者を解雇し、外注化を図った。



②日本の派遣きり（2008年年越しの派遣村）

→日韓の異なる対応

⇒日本の女性は何をした？闇い？／裁判？

## II. HDI、GEM、GGIにおける日本の順位（女性の地位国際比較）

① HDI (人間開発指数)	② GEM (ジェンダー・エンパワーメント指数)	③ GGI (ジェンダー・ギャップ指数)	順位		
			国名	GDI順位	国名
1 アイスランド	0.968	1 スウェーデン	0.925	1 ノルウェー	0.824
2 ノルウェー	0.968	2 ノルウェー	0.915	2 フィンランド	0.820
3 カナダ	0.967	3 フィンランド	0.892	3 スウェーデン	0.814
4 オーストラリア	0.965	4 デンマーク	0.887	4 アイスランド	0.800
5 アイルランド	0.960	5 アイスランド	0.881	5 ニュージーランド	0.786
6 オランダ	0.956	6 オランダ	0.872	6 フィリピン	0.754
7 スウェーデン	0.956	7 オーストラリア	0.866	7 デンマーク	0.754
8 ドイツ	0.956	8 ドイツ	0.852	8 アイルランド	0.753
9 ルクセンブルク	0.956	9 ベルギー	0.841	9 オランダ	0.740
10 スイス	0.955	10 スイス	0.829	10 ラトビア	0.740
11 フランス	0.955	11 カナダ	0.829	11 ドイツ	0.735
12 フィンランド	0.954	12 スペイン	0.825	12 スリランカ	0.733
13 デンマーク	0.952	13 ニュージーランド	0.823	13 英国	0.731
14 オーストリア	0.951	14 英国	0.786	14 スイス	0.730
15 波蘭	0.950	15 シンガポール	0.782	15 フランス	0.734
16 スペイン	0.946	16 ドミニガード・トバゴ	0.760	16 レソト	0.732
17 ベルギー	0.946	17 フランス	0.760	17 スペイン	0.728
18 ギリシャ	0.947	18 馬来西	0.769	18 モザンビーク	0.727
19 イタリア	0.945	19 オーストリア	0.746	19 ドミニガード・トバゴ	0.714
20 ニュージーランド	0.944	20 ポルトガル	0.741	20 モルドバ	0.724
21 英国	0.942	21 イタリア	0.734	21 オーストリア	0.724
22 香港(中国)	0.942	22 バハマ	0.730	22 南アフリカ	0.723
23 ドイツ	0.940	23 アイルランド	0.721	23 リトアニア	0.723
24 イスラエル	0.930	24 アラブ首長国連邦	0.698	24 アルゼンチン	0.721
25 韓国	0.928	25 アルゼンチン	0.692	25 キューバ	0.720
26 ブルボニー	0.923	26 ギリシャ	0.691	26 バハマ	0.719
27 ブルボニー	0.919	27 コスティリカ	0.690	27 マダガスカル	0.710
28 シングガボル	0.916	28 キューバ	0.674	28 ベルギー	0.716
29 クエート	0.912	29 イスラエル	0.662	29 オーストリア	0.715
30 キプロス	0.912	30 エストニア	0.655	30 ナミビア	0.714
31 アラブ首長国連邦	0.903	31 チェコ	0.650	31 カナダ	0.714
32 バーレーン	0.902	32 マケドニア(ヨーロッパ)	0.644	32 コスタリカ	0.711
33 ボルトガル	0.900	33 ドトビア	0.644	33 ベラルーシ	0.710
34 カダール	0.892	34 スロバキア	0.638	34 パラマ	0.710
35 テュニ	0.897	35 バーレーン	0.627	35 エクアドル	0.709
36 マルタ	0.894	36 ベル	0.627	36 ブルガリア	0.708
37 ハレバードス	0.889	37 スロベニア	0.625	37 エストニア	0.708
38 ハンガリー	0.877	38 クロアチア	0.622	38 グンザニア	0.707
39 ボーランド	0.875	39 ボーランド	0.618	39 ポルトガル	0.708
40 テリ	0.874	40 ナミビア	0.616	40 モンゴル	0.705
41 スロバキア	0.872	41 キプロス	0.615	41 キルギス	0.705
42 エストニア	0.870	42 リトアニア	0.614	42 ロシア	0.699
43 リアニア	0.869	43 バルバドス	0.614	43 ウガンダ	0.698
44 ラトアニア	0.863	44 ブルガリア	0.605	44 ジャマイカ	0.698
45 クロアチア	0.862	45 エクアドル	0.605	45 カザフスタン	0.698
46 アルゼンチン	0.860	46 スリナム	0.604	46 クロアチア	0.697
47 ワルグアイ	0.859	47 キャンシャ	0.603	47 ホンジュラス	0.698
48 キューバ	0.855	48 タンザニア	0.604	48 ベル	0.697
49 ハバナ	0.854	49 ハバナ	0.597	49 ポーランド	0.695
50 コスタリカ	0.847	50 ホンジュラス	0.590	50 コロンビア	0.691
51 メキシコ	0.842	51 ウガンダ	0.590	51 スロベニア	0.691
52 リビア	0.840	52 セントルシア	0.590	52 タイ	0.692
53 オランダ	0.839	53 レント	0.589	53 マケドニア	0.691
54 セーシェル	0.838	54 ハンガリー	0.586	54 ウルグアイ	0.691
55 サクソラビア	0.835	55 ガイアナ	0.586	55 ウズベキスタン	0.691
56 ブルガリア	0.834	56 ヘルビア	0.584	56 イスラエル	0.690
57 ドミニガード・トバゴ	0.833	57 ベネズエラ	0.577	57 中華人民共和国	0.688
58 ハバナ	0.832	58 日本	0.576	58 エルサルバドル	0.688
59 アンティグア・バーブーダ	0.830	59 キルギス	0.573	59	：
60 レンタリバーナ・オーヴィス	0.830	60 ドミニカ共和国	0.561	60 日本	0.683

(出所) ① 国別経済発展指標(HDI) (Human Development Index) 2008及び世界経済フォーラム(The Global Gender Gap Report 2008)による。注記: ② 期初実績を用いた。HDI: UNDP, GGI: WEF, GEM: UN Women.

\*HDI: 1位は国際連合(UN)による指標で、「能力を有する個体の生活質」、「教育及び個人活動の生活水準」をもつて測定される指標である。具体的には、平均年齢、教育水準(成人識字率)及び国内生産総積計(購買力平価)によって算出される。

\*GGI: 国別開発指標による指標で、女性の政治的及社会的機会に及ぶ影響、意望実現率を算出するもう一つの指標である。川井が人間開発の達成度に焦点を当てている。GDIは、他の指標と組み合わせて用いられる。具体的には、社会公職に占める女性割合、当面職・技術職に占める女性割合、管理職に占める女性割合、男女の地位不平等指数等を算出している。

\*GEM: 世界経済フォーラムが、各国の男女間の機会の均等化ランク付けたもので、経済分野、社会分野、政治分野及び教育分野のデータに基づいて算出される。GEMは、国別開発指標の影響を受け、必ずしも男女間格差を示すわけではないが、日本は1位となる結果を得てきている。

資料出典: ①国連開発計画(UNDP)による指標で、「能力を有する個体の生活質」、「教育及び個人活動の生活水準」をもつて測定される指標である。具体的には、平均年齢、教育水準(成人識字率)及び国内生産総積計(購買力平価)によって算出される。

③1970年代の闇いの連續性

- ・開発独裁政治
- ・先成長・後分配経済政策
- 低賃金労働政策と過酷な労働
- ・生存権の闇い（1975年製造業における女性労働者37.8%）
- 労働条件の改善を求めて立ち上がった。

1979年YH貿易の女性労働者ストライキ / 1978年東纺紡績の女性労働者ストライキ



2. 国連開発計画（UNDP）による女性地位に対する日韓比較（2007年度の表参照）

- ①人間開発指数（HDI）
- ②ジェンダー・エンパワーメント指数（1995年から調査始まり）
- ③ジェンダー・キャップ指数

3. 総計のない在日コリアン

- ①在日コリアンのアイデンティティ構築の分類枠組（福岡安則、1993）
  - 在日の多様化（五つの在日像）
  - ・共生志向：日本社会でともに生きる

- ・ 祖國志向：在外公民として生きる（朝鮮総連系）
  - ・ 個人志向：自己実現主義、エリート集団から見られる
  - ・ 帰化志向：日本人と同じになる
  - ・ 同胞志向：在日同胞のための權益擁護、処理改善
- それぞれのタイプの間で、在日をめぐる諸問題の対応が異なる。

## ②見えにくい在日女性像

→在日コリアン女性は主体的な存在になりえたのか。

- ・ 在日コリアン女性は在日社会における民族運動を支え、日本における女性運動にも参加してきた。しかし、どちらにおいても主体となりえず、一方は男性を支えるシャドウワーカー（陰の労働、無賃金）であり、もう一方は没民族として女性の一体化による周辺の運動であった【皇甫康子（ファンボ・カンヂャ）、1997】。
- ・ 在日コリアン社会において、女性解放の叫びは無視され続けていた。日本社会との対峙ゆえ、共同体を批判することは許されなかった【皇甫康子「在日女性運動から」国際在日韓国・朝鮮人研究会『21世紀へのビジョン－在日韓国・朝鮮人社会』1997、27頁】

→女性たちは共同体での葛藤を避けるため声を出さなかつた？

## 4. インタビュー調査

→偏りの対象

### ①一世オモニたちのインタビュー（2009年）

→生野区、今里（在日共同体に住む9人の女性）

- ・ 殖民地時代に渡日
  - ・ 祖国の生活様式や習慣を強く守り続け、故郷を思うことで、自分は朝鮮人であるという自信を持ちアイデンティティを確立
  - ・ 必死に生活基盤を築きながら祖国への望郷の念を抱きつつ生きてきた
  - ・ 韓国人である：民族志向型（主張）
- 女性は旧習に従順、耐える、家族のために一生懸命に働く

### ②-3世へのインタビュー（2010年）：6人

→多様化世代（福岡安則の枠組）

- ・ 日本生まれ（40-60代）
- ・ 日本語を母語と母国語の外國語の感受
- ・ 日本から諸影響を受け、それを吸収し生活
- 差別の体験
- ・ 民族や共同体について悩み、アイデンティティの葛藤が起こる

- 最もアイデンティティの確立が難しいとされる世代
- ・第3世界論：韓国人でもない日本人でもない
- 在日同胞志向型？
- ・女性の内向化
- 日本社会への批判はできても共同体への批判はできない  
⇒女性の共同体からの離脱増加？

### ③ 3～4世代

- ・日本生まれ（30代未満？）
- ・日本語を母語と母国語の外國語の感受
- ・日本から諸影響を受け、それを吸収し生活
- さほどどの問題を感じられず日本社会への適応を果たしている
- ・民族の歴史や文化に対する感情を日々希薄し、韓国人としての自己意識をさせる基盤そのものの喪失
- 民族や共同体への帰属意識なし
- 日本への同化か、同化傾向↑（毎年10000人ほどの帰化）
- ・多様なアイデンティティの確立
- 日本と韓国の両方の文化を理解し、時と場合によって日本側にも韓国側にもとつく事が出来る世代
- ・第3世界論
- 韓国人でもあり、日本人でもある（ポジティブ思考）。
- ・在日コリアン女性が初めて共同体の男性と平等に認められる世代
- 共同体に堂々と発言できる  
⇒日韓の架け橋の役割を担う世代

## 第四回 「高齢者福祉をめぐって」

パネリスト

金 周萬（キム ジュマン）氏 氏

申 湘昊（シン サンホ）氏

コーディネーター

仲尾 宏氏（京都造形芸術大学客員教授）

二〇一一年三月一八日（金）開催



司会：それでは時間になりましたので、開始させていただきたいと思います。本日は皆様お越し戴きました  
ありがとうございます。ただいまから第十八回連続フォーラムチョゴリときもの第四回目を開始いたします。

今年は在日コリアンの視点とニューカマーの視点をテーマに在日コリアンの方とニューカマーの方からお話を伺っております。本日は第四回目ですけれども、ちょうど先週の第三回目のこのフォーラムの時間に、大変残念な東北地方太平洋沖地震が起つてしましました。そこで被災された方々のお見舞いとお亡くなりになられた方への黙祷を、ここで皆様のお時間を頂戴いたしまして、少しさせて戴きたいと思います。二十秒程度、ご協力のほうをよろしくお願ひしたいと思います。それではご起立いただきまして、黙祷。

お直り下さい。ありがとうございます。着席下さい。こちらの会館の一階の受付のほうで募金のほうもお願いしておりますので、またお帰りの際にご協力いただければ幸いかと思います。それでは、第四回目のテーマ「高齢者福祉をめぐって」ということで開始させていただきます。

京都市南区は東九条にあります特別養護老人ホーム故郷の家・京都からお二人のパネリストをお迎えしております。故郷の家は大阪、堺、生野区、そして神戸、京都にあります特別養護老人ホーム、そしてデイサービスセンターです。故郷の家の利用者とのかかわりを通して、在日コリアンとニューカマーの職員の方の視点から、それぞれのお立場で在日コリアンと韓国の中高齢者福祉についてお話を戴きたいと思います。

それでは本日のパネリストのご紹介をいたします。お一人目は金周萬（キム・ジュマン）様です。よろしくお願いいたします。

金周萬さんは故郷の家・京都の企画広報部長をなさつておられます。そしてお二人目は申湘昊（シン・サンホ）様です。よろしくお願ひいたします。申湘昊さんも同じく故郷の家・京都で生活文化支援のご担当をされて活躍されておられます。そして本日もコーディネーターをお願いしておりますのは、京都造形芸術大学客員教授の仲尾宏先生です。よろしくお願ひいたします。それでは先生、本日もよろしくお願ひいたします。

仲尾 宏：皆さんこんにちは。先週誠に残念なことが起こりました。あれは二時四六分ですから、ちょうどここでパネリストの方がお話をされていて、その終盤にかかるころにあのように大きな災難が起こつてしまいました。全く予期せぬことは言いながら、自分の生のある間にあのように一挙に多くの方々が命を失い、家も財産も家族も失うという災厄に見舞われたこと。阪神大震災と二つだけ勘定しましても恐らく今回は二万人ぐらいの犠牲者が出るでしょうし、阪神大震災が約六千人ですから、亡くなつた方だけを見ても相当な人数になります。そのことの痛ましさというのは、想像を絶するわけでありますけれども。外国から見れば、これは日本での災厄ということになります。しかし、この東北地方にも日本人以外の方が住んでおられる。とりわけこのテーマと関係のある韓国朝鮮籍の方がどれほどいらっしゃるだろうか。ちょっと気になつたことがあります。一つは私の現役のときの教え子で、仙台にありました東北朝鮮学校の卒業生が私のゼミに来ておりました。彼女は、「私はパチンコ屋さんの二階で生まれたんや」と言つていました。四年間、私の大学で勉強したあとまた國へ帰つて、國というのは仙台ですが、そこで仕事をするんだと言つていましたけれども。今どういうことになつてゐるのか、ちょっと想像も付きません。

それからもう一つは、いわゆる従軍慰安婦、韓国では挺身隊と言つていますが、それに引っ張られた女性達がたくさんおられますね。その内の一人で戦後、日本に戻つてきて日本人と結婚した人がいます。お連れ合いさんが亡くなつたあとその人は自分がそういうことをさせられたんだということを自ら述べられて、そして裁判闘争を起こした人がいます。その方がたしか塩釜があの辺り、仙台の近くの方でした。ソウ・シント（宋神道）さんと言います。この人の発言集は本にもなつておりますけれども、もう八〇歳後半ですから、この地震でどのようなことに今なつてらつしやるか想像も付きませんけれども、そういう方も被災者の中にはおられるということが、まず私の頭をよぎりました。

それで早速、今日は皆さんにプリントを一枚用意してまいりました。この東北太平洋沖大地震について、甚

大な被害のある東北六県と茨城県、これの中の韓国朝鮮籍の方の人数を調べてみました。ただし、これは二〇〇九年末ですから、多少今とは変動があると思いますが。要するに東北六県と茨城、これ以外にも千葉や東京、栃木にも犠牲者がおられるわけですが、この七県だけで約一万五六〇四人が住んでおられます。その内の特別永住者つまり在日の方は七七六二人。この差が、つまり総数と特別永住在留許可者との差が新定住者、ニューカマーということになります。大体、一対一で拮抗している数字になりますね。都市化が進んでいる宮城なんかは特別永住者が多い。あるいは福島でもそうです。ところがもつと農村地帯である青森や岩手、山形等はニューカマーが少ない。こんな数字も見られます。いずれにしてもこの方々も、亡くなられたり、あるいは家を失つたり、あるいは今も避難所で生活しておられる方が少なくない。そういうことを少し考えてみた上で、今日のお話を聞きたいと思います。

今日は社会福祉法人故郷の家のスタッフに来ていただきました。本来ならば、高齢者福祉ですから当人の高齢者もご出席いただきてお話を聞かせていただきながらいいんですが、やはり高齢者の方ですからそうはいかない。それで今から三年前に開館いたしました「故郷の家・京都」、東九条にありますけれども、そのスタッフの方に来ていただきました。在日の高齢者の福祉のことをめぐって今までエルファアという別のNPO法人、デイセンターを中心に関連させていたるところからも来ていただいて、お話をこのフォーラムで聞かせていただいたことがあります。今回はその故郷の家のスタッフの方をお招きして、そして故郷の家での在日高齢者のいろんな問題をお聞きするということにしております。映像も準備されておりますので、よろしくお願ひいたします。それではまず金周萬さんからよろしくおねがいします。

金 周萬：皆さんこんにちは。さきほど紹介をいただきました金周萬と申します。ちょっと皆さん画面のほうを一覧になつて下さい。今日は私どもの施設であります「故郷の家」にかかるお話をと、そこにお住まいの

在日高齢者のお話をさせていただきたいと思っております。

まず私の自己紹介ですけれども、金周萬というのは「こういう字を書きます。在日の二世、皆さんにお配りしている資料には三世というふうにありますけれども、正確にいうと一・五世です。ですからどちらも間違いではないと思います。職業は「故郷の家・京都」の職員をしております。それ以外に社会活動としまして、京都外国人高齢者・障がい者生活支援ネットワーク・モアというのがあります。これはお話の最後のほうにちょっと出てまいります。それと在日本大韓民国民団京都府地方本部、長つたらしいですけれども韓国民団というふうに皆さん呼ばれていますね。そちらの福祉事業推進委員長という役職も行っています。それともう一つ、京都・東九条CANフォーラムという市民活動団体がありまして、そちらの事務局長というのもさせていただいています。皆さんにお配りしている資料の中に「CANフォーラム」の『ニュースレター』第六号というのがお手元にあるかと思うんですけども。この資料をお配りしたのは、実はホルモンの写真のある面じやなくてその裏の面を見ていただくためなんですねけれども、今東九条地域で外国人多住地域での高齢者の生活実態調査というのをすすめでおります。それの中身をわかつていただくためにその資料を準備しました。

それで本題の方に入らせていただきますけれども、まず「故郷の家」というのは、先ほどご紹介がありましたけれども、大阪府堺市、それとその次が大阪の生野区、在日コリアンの非常に多い生野区ですが、その生野区でデイサービスセンターをやっております。それと二〇〇一年には神戸の長田区、この長田区もケミカルシユーズが地場産業で在日の多い地域です。そちらで特別養護老人ホームをしております。それと三年前、二〇〇九年、特別養護老人ホーム「故郷の家・京都」というのができました。この故郷の家・京都の運営主体は「社会福祉法人こころの家族」といいます。

事業内容につきましては、特別養護老人ホームは一〇〇人が定員です。これはユニットケアといいまして、

二〇〇七年度から新しくできる特別養護老人ホームは全部ユニットケアといい、病院のような多床型ではなくて、一〇人ないし九人くらいの小さな家を連続してつくるような感じの施設の形をつくるようになります。そのユニットケアという形を取ったものが一〇〇人の定員です。それとそれ以外にケアハウス四〇。ただしその内の二〇は介護付きケアハウスということになつております。

これは若干説明させていただきますと、特別養護老人ホームの新型養護老人ホーム、新型特養と呼ぶんですけども、新型特養の推進と同時に、実は老人ホームに対する国からの補助金というのが実質なくなつてしまいまして。地方公共団体からの補助金が二五ペーセント、それ以外に五〇ペーセントあつた国からの補助金というのがなくなつてしましました。小泉改革の余波なんですけれどもね。それと同時に施設がユニットになつたということで、建築費も単価が上がります。ですから利用者からお金をもらえという方針に変わります。利用者からお金をもらうと生活保護の方は利用できないということになりました。結果的に新型特養に関しては生活保護の方は利用できない状態になりました。

我々の方針は一番最初にありましたように、キムチと梅干しのある老人ホーム。在日コリアンの方も日本人の方も共に安心して暮らしていただける施設ということを目標にしていますので、在日コリアンの方の生活保護の話は後ほど出でますけれども、在日コリアンの生活保護の方を排除してしまふと目的の半分も達成できるかなということがはじめから条件付けられるということで知恵をひねつたのがケアハウスです。

制度的なことをいいますと特別養護老人ホームは介護保険法、ケアハウスは老人福祉法という法律が適用されます。老人福祉法で運営されるものは生活保護を受給されている方でも利用できます。ですから、ケアハウス内の二〇床を介護付きという形にして、ほぼ特養と同じような内容のものにしてそこに生活保護の方に利用していただくという苦肉の策をとりました。

現実問題として、ケアハウスの利用者の内の九〇パーセントは生活保護の方という結果になっています。それ以外に短期入所生活介護（ショートステイ）が一〇室あります。それとデイサービスは来月始まるという段階です。ホームヘルパーの派遣、ケアプランセンターいろいろやつております。

「故郷の家」の特徴は沢山あるんですけれども、一つ、ほかにはまずないだらうというのが、「故郷の家」は市民運動によつて集められた募金でできました。「故郷の家・京都」の場合なんですけれども、二〇〇六年から故郷の家を京都につくりましようという市民運動を起こして二〇一〇年までの間に二億一三五三万一八四円という募金ができました。これがどういう金額かといいますと、皆さん京都にお住いの方でしたらライトハウスってご存知だと思います。あのライトハウスが何年か前にリニューアルして新築しましたよね。あのとき京都市も京都府も社協もいろんな団体が募金を呼びかけて集まつた金額が三千万円台だったというふうにきいています。それに比較するとこの金額がいかに大きいかということがわかると思います。しかし、これは残念ながら京都だけで集めた募金ではないです。日本全国、それと韓国からの募金も入っています。そのような、募金活動を通じて我々が目標としていますのは、今関東に在日コリアンのための老人ホームが一つもないんですね。なんとか関東につくりたいということで募金活動は継続してやつております。

すこしだけ申し上げますと一九八五年に在日韓国人の老人の孤独死、最近のはやり言葉で言うと無縁死というのかもわかりませんね。孤独死をして何十日目かに匂いがして発見された。誰も知つている人がいないといふようなことが新聞で報道されます。それをきっかけに在日韓国老人ホームをつくる会というものが発足しますて、三年の間に六〇〇〇万円のお金を集めました。その六〇〇〇万円があれば実は老人ホームが一つつくれたんです、この時代は。なぜかというと二五パーセントお金が集まれば、七五パーセントは政府と地方公共団体から補助が出るというようなそういう時代でしたんで、六〇〇〇万円で建てることができました。六〇〇〇万円で土地を購入したら建物は国と地方公共団体で建ててくれたと。ただし社会福祉法人であることが条件ですけれ

どもね。

民間の団体とか株式会社は不可能ですけれども。そういう形で始めたのが最初です。

もう一つの特徴はもういうまでもなく多文化共生を目指す施設であるということです。今「故郷の家・京都」の現状を申し上げますと、入居者の現状は日本と在日コリアンのお年寄りが約半々、出たり入ったりがありますので正確には数字は多少振れるんですけれども、約半分半分というふうに考えていただいていいと思います。先ほどの特養とケアハウスの関係でいうと新型特養の方は一〇〇人の内コリアンは三五、六人止まり。それ以外は日本の方。ところがケアハウスになると八割はコリアンの方、二割くらいが日本の方という構成になってトータルで半々というような状態で入居者の方がいらっしゃいます。

もう一つは職員に外国籍の方が大変多いです。韓国で韓国の国家試験をとった、つまり日本での労働ビザの下りる資格をもっているような方、こういう方の職員を韓国で採用して、施設で働いていただいている。それと在日の方も結構いらっしゃいます。それ以外にフィリピンの方も四人ほどいらっしゃいますし、中国籍の朝鮮族の方もいらっしゃいます。こういった方々を合わせると、職員の内、外国人が多くいます。日本国籍の方も中にはいます。フィリピンの方は旦那さんが日本人なので、国籍は日本です。そういう方も含めて外国人というふうに考えると、三割程度が外国人職員で構成されています。

それと我々の施設は単にそういう方がお年寄りの世話ををするだけではなくて、地域に多文化共生を根付かせることを目標にしています。一つは事業である介護サービスを通じて、もう一つはいろんなイベント、行事を通じて多文化共生を根付かせていく。難しい言い方ですけれども要は外国の文化に触れてもらう、韓国の文化に触れてもらう、そういう機会を多くして日常のものにして行こうということです。そういうことを頻繁にやっています。

あともう一つは韓国からの福祉研修生を受け入れています。大体短い人で一ヵ月、長い人で三ヵ月ぐらい。勉強中の方がお見えになります。そういう方が日本での福祉システムについての勉強、実際にそういう方た

設の中で仕事をしてみる体験、そういうことを通じての福祉研修生を受け入れております。

これが施設の中のスナップですけれども。左上の写真は、ある日のお誕生会のときのスナップなんですけども、こういったときには韓国の民族衣装と日本の民族衣装のきものを職員が着こんでちょっとおしゃれをして。この老人は一人いらっしゃいますけれどもどちらが日本人でどちらがコリアンかわかりますか。これは着物を着ている左の方がコリアンでチマチョゴリを着ている右の方が日本人なんですよ。見てほとんどわかりませんよね。当たり前のことですけれども。下は祇園祭のときのスナップです。日本の季節を感じる行事、それと七夕とかひな祭りとかいろいろありますよね。そういった日本の行事。それと韓国の行事をやります。だからうちの施設、行事がめちゃくちゃ多いんです。両方の分やりますんですね。それ以外にも文化交流事業とかもやりますので、おそらく京都で一番行事の多い施設だと思います。これもスナップですが、左側はこれは多分衣装からして旧正月のときの韓国の風俗なんですけれども、旧正月に法事をします。それを皆でやるときのスナップ写真。右側のものはおひな祭りのときの写真。下にギターを抱えた青年とチャンゴを持ったハルモニがいますけれども。このギターを抱えた青年が隣にいる申湘昊さんです。それとこのチャンゴを持つたハルモニ。韓国のお年寄りの方は歌を歌つたり踊つたりが大好きなんですけれども。なんの歌かはわからないですねけれども、これは多分、ギターを抱えて「皆さん一緒に歌を歌いましょう」と音頭をとつてリードしてるところです。どんな歌でものつてくるとチャンゴをたたき出します。合うのか合わないのかよくわからないんですけども、そういう楽しみ方をするという日常生活の風景というのを見ていただきました。

それと、地域での多文化共生を推進していくための行事としてコリアンジャパンデーというのを行っています。これは実は第一回目は「コリアンデー」だったんですよ。でもコリアンデーだけではわかりにくいたまうということで、今年からコリアンジャパンデーというふうに呼ぶことにしました。日本とコリアンの交流を深めて楽しみましょうという簡単な趣旨なんですけれども、ところが今年はその上に、先ほど震災の話が出まし

たけれども、このコリアンジャパンデーの収益を被災地のために使おうという形の趣旨を付け加えました。といいますのは先ほど簡単に何千万とか何億という話をしましたけれども、うちの老人ホームは約二〇年間日本社会の善意によって支えられてきた施設なんですね。やはりこのときにお返しをすべきであるうということです、今年のコリアンジャパンデーはそういう趣旨の催し物にして、中身は露天を楽しんだり、安いバザーの買い物をしたり、韓国物産を買つたり、あるいは音楽を楽しんだりという中身ではあるんですけれども。その収益金をそういう目的に使おうという形の催し物になるよう企画しました。お時間がありましたらぜひお越し下さい。四月一六日です。

コリアンジャパンデー、これは去年のときのものです。先ほど言いましたけど左側、ホールの中にはいろんな催し物があります。今年も多分、民族舞踊をやると思いませんけれども。右側のほうは施設内での露天の様子です。下はこれはフライパンがぎょうさん並んでいるんですけども。これはチヂミを焼いてるんですけどね。飛ぶように売れます。安いですから。前にいらっしゃる方は、これは近隣の方とか入所者のご家族の方。早く来て下さいよ。すぐに売り切れますよ。

それでは、在日高齢者についてのお話をしたいと思います。実は在日高齢者のことについては統計的な数字とか制度的な話はありましたけれども、実際の生活実態というのはどうなのがどういうことについて本格的な調査をしたのは、この二〇〇三年に大阪市生野区在住の在日コリアン高齢者の生活実態調査というのを大阪府立大学の中山徹教授が行われました。これは今、本となつて出ております。「高齢在日韓国朝鮮人」という本なんですが、「大阪における在日の生活構造と高齢福祉の課題」というサブタイトルがついています。実はこの本めちゃくちや高くて八二〇〇円します。だから皆さんに買って読んで下さいというふうには薦められないので。ここから出でてきているデータであるとか概略の話についてはインターネットで検索されましたら出てきますので、中山徹先生あるいは高齢在日韓国朝鮮人とかいろいろなキーワードを使っていただいて検索し

てみて下さい。そこで言われているいくつのことについて紹介したいと思います。

まず在日高齢者の特徴の一つとして所得から排除されているという表現があります。これは具体的には、単身世帯の七割、単身というのは一人住まいってことです。ごめんなさい言うのを忘れていました、大阪の生野区在住の七十歳以上の高齢者を対象に調査した結果です。生活保護基準というのを皆さんご存知ですよね。この金額よりも収入の少ない人は生活保護を支給しようという。つまり最低限の生活という意味の基準が生活保護基準です。最近ちょっとと水準が落ちていると思うんですけども、大体単身者の場合で八万円ぐらいの生活費が最低生活だと。これより下では生存できないという金額がその八万円という数字。これを当時大阪では十万円だったらしいんですけどね。その基準に満たない方が単身世帯で七割いたと。老人一人世帯で六割という数字が生活保護の水準以下であつたと。これとんでもない数字ですよね。それと無年金、つまり年金のない人が七割いた。当然のことながら生活保護率が高い。八・八パーセント、生活保護者がいたと。でもこれ考えて下さいよ。先ほどの生活保護水準よりも低い人が七割も六割もいて、生活保護をもらっている人がなんで八・八パーセントやねんと逆に不思議になりません? 低すぎるやないかと。僕に言わせると低すぎるやないかと思うんですけれども。在特会あたりは、生活保護を泥棒のように持っていくというような主張をしていますけれども。これ生活保護に関しては非常に率が少ないので、パー・ミルという単位を使うみたいです。これは、パーセントのときは百分率ですよね。パー・ミルというのは千分率ですよ。だから千分の二五・七が大阪の平均の生活保護率らしいです。パーセンテージに直すと一・五七パーセント。それと比較して在日は、四倍は行かないですね、三倍ちょっとという生活保護の受給率という状態になっています。

全般的に見ると生活保護率がこれであるということは非常に生活が苦しいということは目に見えますよね。七割六割の方が生活保護基準以下であるにもかかわらず生活保護をもらっている人は八・八パーセントというような実態がありました。これが何故そうなんだろうというのも実は長い間不思議だつたんですけれども。二

○一〇年、去年西成地区で同じよう我在日高齢者の調査が行われました。そこで意外なことがわかつたんですね。日本人の高齢者よりも在日の高齢者の方が家を持つている。持ち家率が高かつたというような数字が出るんです。ところが持ち家率が高い理由というのは、まだこの調査の分析結果が発表されていませんので、生データでの話なんですが、これはいろんなことが推測されます。例えば、後ほど話をしますけれども、在日の場合、公営住宅に国籍条項があつて公営住宅には入れませんでした。民間の賃貸住宅に関しても、保証人問題とか外国人お断りというようなことが結構あつたりして入りにくかつた。どうせ家賃を払うなら、それと在日文化の一つに頼母子講というのがあるんですが、皆でお金を融通しあつてお金をつくる。それを、頼母子講とかいろんなものを駆使してなんとかいさな家でも手に入れる。年金もないんやから家くらい持つていたら歳いつても食べていけるやろうという。これが年金にも入れない自分での老後の頼りなんですね。そういった志向が非常に高かつたということで、自然、持ち家率が高くなっているという結果になつてているようです。このこともやはり生活保護をもらいにくかつた理由になつてているのかなあと思つたりもしています。

それともう一つの特色として高齢者福祉サービスから排除されているということ。というのは福祉サービス情報へのアクセスが非常に難しい方が多かつた。たとえば福祉情報サービスというのは、文字情報がほとんどです。行政からもそうですし、最近はルビを打つたり、ハングルもごく稀に見るぐらいでんまり多くはないです。文字情報ということに関して、実は日本語が読める人が四割しかいなかつたという数字が出ています。日本語もハングルもどちらも読めない人が四割いたということで、文字情報で伝わることができない。これは先ほどの京都モアネットの話とも関連があるんですけども、京都モアネットができた最大の理由は、これは仲尾先生も非常に尽力していただきましたけれども、無年金の高齢者に対して特別給付金というのがいま支給されています。その特別給付金を支給決定して、皆さんこういうサービスがあるから使って下さいよということで、外国人登録から多分引つ張り出したと思うんですけども、外国人登録から引つ張り出した対応年齢の

方に、こういう制度ができましたから利用して下さいという通知を送った。ところが通知を送った内の半分が届かず返ってきてしまったというようなことがあって。その半分返ってきた中身の分析というのはできていな  
いんですけども。文字情報で伝えようと思うと、どうしても限界があるということが明らかになっています。

それとあと経済的理由で使いにくい。つまり自己負担があるということについて、非常に収入が低いという状態ではばかにならないんですね。こういった福祉サービスで負担する金額も。

それとあともう一つ、内容的に自分に合っていないから行きたくない。これは文化習慣の違いということです  
言えるかもわからないですけれども。大阪はそういう人のために、民間団体がたくさんのがた日コリアン向け  
のサービスを提供しています。京都にある「エルフア」のような組織が大阪には五つ六つぐらいあります。

それと情報の入りにくさのもう一つの問題として、社会関係から排除されていることが多い。近隣との人の  
付き合いに関しても、特定の方との付き合いしかないというようなこと多かったというような特色が出てき  
ています。

この調査結果はなかなか面白かったですし、それとその後の調査というのが行われているんですけども、  
これはまあ一般的な話です。

あともう一つ、先ほど無年金の話を申し上げましたけれども。社会保障からの排除という意味でいいます  
と、この右の表ですね。これは上の黒いベルトは一九四五年以降の一九五二年までの間のベルト。下の黒いベ  
ルトは、これは私は昭和の開国といいうのは江戸末期に行われました  
けど。黒船が来て、外国の武力によつて無理矢理開国を迫られたということなんですが、実は昭和にも無理矢  
理開国を迫られているんですね。外国人に対する国籍条項を軒並み撤廃していく時期です。つまり日本で外国人  
人が住めるという環境整備をした。外国人に対する日本を開国した。そういう時期だというふうに思つていま  
す。一九七九年には住宅関係の国籍条項がなくなりました。一九八二年は社会保障関係の国籍条項がなくなつ

てきました。だから外国人を日本に住む住民として制度的に整えていくという開国。これも実は外国の圧力によつて、インドシナ難民問題、それから国際人権規約の批准等の外國からの圧力によつて、無理矢理開国したというふうに思つています。あんまりにもちよつと皮肉っぽいですけどね。まあそういうようなことがありましたて、実は、戦後からこの開国の時期までの間の三五年から四〇年にわたる時期、この時期というのが今でも在日外国人の生活に大変大きな影響を与えて います。

うちの施設で見られる一世の場合の特色をいくつか申し上げますけれども、一つは、これはよく知られていますが、認知症の進行と母語返り。つまりもともと使つていた言葉、子どものときに使つていた言葉に帰つてしまつて、日本語を忘れてしまうという現象があります。うちの施設に来られる前からそういう状態になつている方もいらっしゃいますし、それとうちの施設にいるうちに徐々に認知症が進行して、そういう状態になる方もいらっしゃいますが。劇的に変わる場合もあるということがこの間わかりました。

体調を崩されて病院に入院されました。病院に入院されると点滴の針を抜いてしまつたためにベッドに縛りつけるとか非常にストレスがあるんですけれども。その方は施設にいるときは日本語も韓国語も話されていたのに、病院から帰つてきたら日本語が全く喋れなくなつていきました。わずか一週間の間にね。そういう劇的な変化もあるんやなということに気がつきました。

それとこの母語返りが原因で非常にコミュニケーションが取りにくいうことがあります。コミュニケーションが取れないといふ本人はすぐ不安になられます。こんな不安なことはないと思ひます。それでいろいろと認知症の周辺状況が悪化していくと。徘徊したりとか抵抗したりとか、いろいろな周辺症状が起こつてくるんですけれども。

ある日本の施設に入られていた方なんですが、こういつたコミュニケーションが取れないことでの不安であるとか周辺症状が悪化した状態があつて。でも施設職員もあんまりそういう状態が続くと、施設職員も人間で

すから腹が立つみたいなんですね。で、うちの施設に来られたときに家族の方が言っていたんですけども、実は施設で虐待を受けていましたと。だから一刻も早く変わりたかったというような話をされたことがあります。その話はつい最近の話です。右側のあばら骨にひびがいつているというようなことをおつしやつていてましたし、あとは、放置されている、いわゆるネグレクトというやつですね。最低限のことはやるんでしようけれども、とりあえず人の一〇倍も一〇倍も手がかかるわけですから、もうなるべく手をかけないようにすると。それが結果的にネグレクトという状態になるわけですけれども、まあそういうふうな虐待を受けていましたというような話を聞いたこともあります。

いずれにしましても、こういったコミュニケーションの障害であるとか、あるいは慣れ親しんだものというか、文化というものに触れていくと落ち着いてくるということがあります。意外に日本の高齢者も在日コリアンの高齢者も、日韓のどちらの文化も楽しむことができます。例えば先ほどちょっとスナップを見ていただきましたけれども、お茶会とかをやるんですよ。抹茶を飲んでいただく。在日の高齢者は初めて飲む。そんなこと今まで考えたこともないというようなことでも、一、二回経験すると楽しみにするようになるんですね。お茶が美味しいのか付いてくるお菓子が美味しいのかどっちかわかりませんけれども、とりあえず楽しめども、とりあえず楽しむことになります。まあ、違った文化でも楽しむという余裕が出てきます。これは多分生活を豊かにするという意味で、歳を取つても生活を豊かにするという意味ではいいんじゃないかなというふうに思っています。

最近のもう一つの傾向として二世の高齢者が増加しつつあります。一人ひとりみな生活歴が違いますから、一世二世と単純に分けられないんですけども、大体目安としてもう大分時間が経ちましたんで、八〇歳以下の方、七〇台の方はもう二世だというふうに考えていただいていいと思います。今年で一九四五年から六六年経ちました。ということはその当時四歳、五歳よりも若かつた人がもう七〇台なんですね。八〇歳以下なんですよ。そういう方が日本での教育を受けました。在日のお年寄りに対して、先ほど母語返りの話や日本語の

識字率の話をしましたが、七〇台のお年寄りに対してもよく失敗をする人がいるんですね。日本語はわかりますかとか。あるいは日本語は読めますかとかね。もう日本の学校出ているから日本語がわかつて字が読めて当たり前やのにね。

最近は一世の高齢者が増えてきているという状況になりつつあります。

こういうエピソードをご紹します。先日、日本名の通名の方で、入所の決まった方がいらっしゃいました。その方が来られるまで在日コリアンだということがわからなかつたんですよ。わからなくつて、最初にうちの施設でどのように暮らしたいですかとか、ご家族はどういうことを望んでいますかとかそういう話をするんですけれども、そのときに実は在日コリアンで、京都の丹後のほうで、丹後のほうは昔は糸へん関係の仕事も結構あつたみたいなんですけども、そういう仕事をやつて生き抜いてきた人で。とりあえずコリアンであることをばれるのが恐ろしかつたと。自分はコリアン違いますよと。どこから見ても日本人のふりをしてコリアンであることがばれないような人生を送つてきたと。そういうふうにして子どもも育ててきたという状態で。そのご本人は、自分はコリアンやからここを望んで来ましたつことは言わないんです。子どもがね、子どもと言いましてももう六〇ぐらいの子どもですよ。もう今まで自分を隠して生きてきて大変苦労をしたお母さんでした。ここに来て安心して暮らしていただきたいと。ぜひそれが望みですというような話をされました。

これは一つのエピソードなんですけれども。一世の高齢者というのは一世とはまた違つた民族アイデンティティを持つておられます。先ほど昭和の開国という言葉を言いましたけど、皆さん考えて下さい。例えば自分が一五歳でそれから五〇歳になるまで、市営住宅や公団住宅の対象外。社会保障も、極端な話をすると健康保険、年金一切外れているという状態で五〇歳まで暮らしてみなさい。どんな人間になると思います。一人ひとり自分で振り返つてみてください。今の自分とは全然違う人間になつていたはずです。そういう方が在日一世高齢者なんですよ。七〇台の方ね。でそういうところを生きて来た方のアイデンティティとはどんな思いやろ

うかと考えてみて下さい。生き抜いて来たのは違ひがないんですけれども、おそらくいろんな複雑な思いがあるはずです。外国人だから仕方がないと思わざるを得なかつたやろうし、自分は韓国人でも日本人でもないと。日本の社会からは排除されるし、韓国語も実はようわからんと、ハングルも読めへんと。一体自分は何者なんやというような思いをしながらも、外国人だから仕方がないというような、かなり屈折した思いをして生きてこられた方。こういう方がこれから我々の施設にも増えていくというふうに。あんまり今みたいにレタル貼りをしたらあきませんけどね。一人ひとり全部生活歴が違いますから。でもまあ、ある程度それについては共感できる部分が、皆あると思うんです。

こういう方に何ができるのかということになるんですけども。ここで、自分のアイデンティティを取り返せとか誇りを持てとか、七〇いくつの高齢者にそんな説教をしても仕方がないでしよう。じやあ何ができるのかといつたら、自分が今まで持つていたある意味の恐怖感不安感、ここにいたらそれは安心なんやでと。安心していいんですよという思いをしてもらうこと。それといろんな文化に触れてもらうことで、楽しむということでひょつとしたら変化が起つてくるかもしれない。まだこれから課題です。これもよくわからないです。私達もね。ただ、そういう思いをして生きて来た人達だということはわかつて下さい。

あともう一つ、多文化共生の地域づくりということだが、先ほど京都モアナネットの話を少ししましたけれども。今こちらのほうで、外国人多住地域高齢者実態調査というのを進めております。皆さんにお配りしたCANの『ニュースレター』六号の裏面の方に、実態調査にご協力を願いしますということをしております。これは当初、京都モアナネットは外国人高齢者障害者の生活支援をしていくという形で立ち上がつたグループなんですがれども。ところがこれを進めていけばいくほど、なかなかカリーチアウト、つまり本当に必要とされているところに手を伸ばす、届くということが難しいということが段々わかつてくるんです。いかにしてそういう支援を必要としていてなおかつ条件的に悪い方。情報を得ることもできない、どう伝えていいかもわからないと

いう方をいかに、そこに手を伸ばすかということを考えていくと、やはり究極は地域なんですよ。日本人も含めて地域なんですよ。地域の方がその方に對し神經を使つていただいて、必要とするところにつないでいただくということがないと、なかなかそういう方の支援というのはできないんです。それをインクルーシブコミュニティという言葉をしているんすけれども、一人の人も排除せずすべての人を包み込む地域の関係、とこういうものをやっぱりなんとか目指したいなと。この場合は日本人も在日コリアンも関係ないです。すべての人ですから。そのすべての人の中に、ちゃんとコリアンの高齢者に対する視点も持つて下さいよということを、地域の方にお願いしていきたいと。その関係をつくっていくという狙いも、この調査の中にはあります。その辺の詳しい説明は、読んでいただいたら少しわかつていただけるかと思うんですけども、それはその資料の方に説明をゆづりたいと思います。

あと今回の震災の日にうちの施設で思つたんすけれども、高齢者福祉施設というのは結構たくさん、うちの場合は最大一六〇人がいらっしゃるわけですよ。最大一六〇人いらっしゃって、夜間の職員の数というのは一五、六人なんです。一五〇人、一六〇人の高齢者にもしなにかがあつたときに一五、六人でなにかできるかというと、もう考えただけでもぞつとするような状況です。建物が新しくて結構それなりに大丈夫だと思つておるんですけども、実際に災害状態の中では面倒見切れませんから、下手すると命にかかるような状況を生み出すかもしれないということ非常に不安に思つています。やっぱりそのときに力になるのが地域なんですね。すぐ隣のおっちゃんおばちゃんなんですね。こういう方々がいかに、うちの地域からは一人も犠牲者を出さへんぞというような思いで動いて下さるかどうか。あるいは逆にそういう地域の方に、うちの施設をどう利用していただくかということも含めて、そういう関係をつくつていかないと、災害時にはとてもお預かりしている命を守れないなという思いをしております。

このインクルーシブコミュニティの話もそうですし、今の災害時の話もそうなんすけれども。多文化共生

という言い方はちょっと具体的にはどういうことかななかわかりにくいんですけど、そういう形での地域での関係を、すべての人を包み込む地域の関係につくっていくというのが、多文化共生の側面かなというふうには思っておりますし、うちの施設で経験していることはどちらの文化も楽しめる方が経験を通じていくらでもいらっしゃるんだということも、うちの施設で過ごしているよさかなというふうにも思っております。簡単ですけれどもうちの施設とうちの施設の高齢者のお話をさせていただきました。どうもありがとうございました。

仲尾 宏：ありがとうございます。私がもうまとめて言う必要もないくらい理路整然と、問題点を話していました。ですから続きましてニューイヤー、韓国から来られてそして今、福祉の現場におられる申湘昊さんからお話を伺いします。よろしくお願ひします。

申 湘昊：私は申湘昊と申します。簡単に自己紹介をします。韓国人で現在故郷の家・京都で、ご利用者様の生活を文化面からの支援、そして色々な催しを行う文化ホールを担当しています。京都では舞台映像を勉強しました。今日は社会福祉とはまったく関わりのなかつた私が、職場で初めて福祉に携わり、体験し、感じた事、学んだ事をお話しします。言葉がたりない所もあるかと思いますが、宜しくお願ひします。

韓国での私の家族は、祖父は小学校の時、祖母は高校の時になくなつたのでお年寄りと話すことも交流することもあまりありませんでした。そして認知症や麻痺があるお年寄りを介護する人は、特別な使命感のある人



湘昊氏

申

だけだと思っていました。私が働く施設には文化ホールがあります。就職希望時は文化ホールでの仕事だけだと思つていましたし、私は福祉をまったく知らないので、お年寄りと実際にかかわる事はないだろうと甘い考えで就職しました。

しかし、現実はまったく違いました。

試用期間の朝、始めてリハビリ体操に参加するために施設を訪れた時のことを見た事はできません。私は二つの事に驚きました。

一つ目は私の勤める施設では一六〇人のお年寄りが生活しています。今までそんなにお年寄りだけが集まっているところを見た事がなかつたため、とても驚きました。二つ目はそこで初めて会つたお年寄りがいきなり私の手を握つて「なくなつた兄さんがよみがえつた」と泣き始め、それと同時にとなりにいた方も叫び出しました。頭がパニックになり、体操を一回する事がすごく大変でした。怖かつたし、この仕事を続ける事が出来るかな?と不安な気持ちでいっぱいになりました。

しばらく体操を続けることになり、最初の仕事なのでいつしようけんめい頑張りました。大きな声での挨拶と笑顔を心がけました。しかし私は認知症がある人達とは違うと思つてしまい、心を開けませんでした。早く仕事が終わる事だけを考えていました。でもその考えを変える事がありました。

ある日いつもどおりに体操が終わると、ひとりのお年寄りが私に「先生と体操することが楽しいです。」といい、また明日もよろしくお願ひしますと挨拶してくれました。そしてそれがその方との最後の挨拶になりました。心筋梗塞でその日の夜になくなつてしまわれたのです。特に病気もなく、六七歳の若さでした。職場で初めてお年寄りの死を経験し、心の準備も出来ていなかつたため、すごくショックでした。

今日会つたお年寄りと明日また会う事が出来ないかもしれない、今日ハグした事、握手したことが最後になるかもしれない、「あなたと体操することが楽しい」と言つて下さる褒め言葉がこの世で最後の褒め言葉にな

るかも知れない。そういったことに気づきました。子供と違つてお年よりは時間が経てば経つほど力が無くなります。それがかわいそうで喜ばせるために色々考えるようになりました。

介護はできませんが、誕生日にピエロの格好をしてハッピーバースデイを歌つたらお年寄りは感動で泣きます。好きな歌を目の前でギターを弾きながら歌つたら目がハートの形になります。そして何回もありがとうございます。上手に出来なくてもうまい、言葉がよく分からなくてもいい、間違えてもいつも笑つてくださるお年寄りに、だんだん心を開けるようになつていきました。逆に、お年寄りに教えられることも多く、私が介護を受けて素直に関係を築いていくことが出来ました。

試用期間三ヶ月が終わつて文化ホールと生活文化支援担当になりました。生活文化支援担当の仕事は、生き延びる福祉から楽しく安心して暮らすことができる福祉サービスを提供するプログラムの開発、支援をすることです。簡単な映像を準備しました。「ご覧頂いてからお話しします。理事長は、福祉は文化だと言います。施設の雰囲気や食べ物、行事など両国の文化を味わうことが出来るように、また、楽しく生活できるようなサービスを目指しています。映像では全部は出でいませんが、日・韓節気行事から映画鑑賞会、スナックチング、コーヒーやお菓子を楽しむカフェアリラン、ユニット」というレクリエーションなど、ほぼ毎日行事やレクリエーションがあります。

そのなかで音楽療法をしながら感じたことをお話しします。歌を歌う時にも韓國のお年寄りと日本のお年よりは少し違いがあります。韓國の方は知つている曲が出たらまず立ち上がり、踊り始め、テンポとは関係なく大きな声で歌います。自分が歌つた事で満足します。知らない曲を歌つたらほかの歌を歌いましょと話します。

日本の方は椅子に座る時から違います。「ここに座つてもいいですか」から、先生が疲れていない今まで、配慮する心があります。知らない曲が出ても静かにしていて、後で楽譜を持って帰つて練習する方もいます。

自分が中心になることをあまり好きではないのです。すべての活動や行事は、強要するのではなく、選択の上で参加できるように準備することが一番大事です。最初から全力で歌つてしまつては疲れます。まず歌いやすい誰でも分かる歌で心の準備をします。例えば私の施設ではアリランやふるさとを歌います。その後には誰がどんな歌が好きかを事前に把握し歌を誘つたらよいのです。最後まで歌えるようにメロディや歌詞を手伝います。お年寄りが達成感を感じることができるように最後まで歌う事が大切です。終わつたら周りのお年寄りと一緒にたくさん褒めます。私が心を開けたように、お年寄りもだんだん変わります。自分や他人に関心がないお年寄りが歌を通してほめてあげたり、ほめてもらつたりすることによって心を開けるようになります。そしてそれが新しい意欲になり、楽器を演奏することにまでつながりました。昨年一月にはお年寄りと一緒に桃太郎を公演しました。

まだ福祉は、こうだとはつきりは分からなければ、介護をする、介護を受けることだけではなくお互いに影響を受けあい、学校や福祉機関だけの考えではなく、地域のみんなが一緒になって考えていかなければいけない」とだと思います。

「清聴頂き、ありがとうございました。

仲尾 宏：ありがとうございました。申湘昊さんはもともと福祉に縁のない人でしたけれども、このようにして現場に立ち会うことによって、福祉のありようがどういうものであるかということを身を持つて体験し、そして私達にこうして語りかけてくれています。

もう時間が大分おしていますけれども、今から皆さん方にご意見ご感想をお伺いして、またそれについてお二人からお答えを聞くことにいたします。

司会：それではいつものように、皆様のご意見ご感想をお配りしております用紙の方にご記入いただきまして、こちら出口のほうに箱を置いておりますので入れていただきまして、そちらをもとにまた第二部のほうを始めたいと思います。

司会：大変お待たせいたしました。それでは皆様からいただきました「質問」ご感想をもとに第一部の質疑応答の時間に入つて行きたいと思います。それではよろしくお願ひいたします。

仲尾 宏：今日は「質問が二件、それからあと五件がご感想です。最初に「質問の方を個々に答えていただく」ということでスタートします。

まず、最初の方のご質問。三つあります。一つ、「東九条地域でも独居老人がおられると思いますが孤独死などの事実はありますか。」二番、「『故郷の家』の入居者の国籍はどのような比率ですか。」三番、「在日の入居者はどの程度の地理的範囲の方が入つておられますか」

以上三問ですが、これはやはり金周萬さんからお答えいただいたらいいと思いますのでお願ひします。

金 周萬：お答えします。まず東九条地域での独居老人の孤独死のそういう事例があるかということですがれども、私どもの施設は暮らす場所なので、うちの施設の中での孤独死はございません。実は、先ほど少し名前が出ました、私どもの施設のすぐ横に、デイサービスとか居宅の事業をされているNPO法人の「エルファ」というところがあります。そのエルファの利用者さんで、やはり孤独死と同じ状態、つまり職員が訪問するまで死んでいるのがわからなかつた。ほかに訪ねてくる方もいらっしゃらなかつたので、エルファの職員が発見

したというケースはあります。それ以外に聞しては、この二年、厳密に言うと三年目に入っているわけですが  
れども、そういう話は聞きません。

今調査をしていますけれども、東九条地域と小栗栖地域の、外国人多住地域の生活実態調査をやっています  
けれども、その訪問をしていますと、調査の依頼に行きますと、大体調査の回収率が五割ぐらいなんですね。  
これは民生委員さんと老人福祉委員さんの自治体の方のご協力をいただいて、同行していただいてインタビュー  
するということで、それで五割と出てるんですけども。そのうち不在の方というのは、三回四回行つても不在  
と。しかも生活の匂いのする不在と生活の匂いのしない不在がありますよね。まあそういうものも区別する  
ようにしていますし。あと拒否されるケース。拒否されるケースは、今のところ二十パーセントぐらいです  
ね。意外に会えないケースが多かつたりしてね。そういうた調査のそれた内容の分析じゃなくて、無作為抽出  
で八百人中から三百人抽出して訪問した中で、会えないのはどうしてかということも含めて、今回調査の分析  
の材料にしています。そういうことを通じて、もう少しこういうことについても的確なお答えができるかもわ  
かりませんけれども、今の段階ではそういう事例が一つあつたということをお話しできるだけですね。

次に二つ目。入居者の国籍ということなんですかけれども。日本籍を持ったコリアンの方もいらっしゃいます  
んで、国籍的には日本国籍の方のほうが若干上回ります。でも先ほども申しましたけれども、出入り等もあり  
ますので波はありますけれども、ほぼ五〇パーセント五〇パーセントという形で推移しています。ただ、そう  
ですね。例えば日本国籍を持った在日コリアンの方ってどれくらいって話になると、五パーセントくらいです  
かね。五パーセントというのは一四〇人中の五パーセントですよ。だからそんなに多くはないですね。そういう  
感じです。

それと、どの程度の範囲から来られますかという話ですけれども。今来られている方で一番遠方の方は長野  
県諏訪市で。何故長野県諏訪市かというと、もともと大阪でお住まいやつたんですけども、娘さんが長野県

の諏訪市に嫁がれて、両親は大阪に住んでいたがお父さんが亡くなつてお母さんが一人住まいになり、だんだん弱つてき、もう一人で住めない。それで諏訪市に引き取つて一緒に暮らしていただけれども、だんだんその症状が悪くなつてきて、娘さん家族もともと一緒に暮らせないからと、うことで、探して来られて入所されたと。この方が長野県諏訪市ということで一番遠いですね。

大体基本的には近畿圏です。利用者に関しては、でもまあ京都市内の方が七割くらいですかね。あとはまあ京都府周辺の方が三割くらい。今の長野県諏訪市の場合は、これはもうお一人だけですし、それほど遠の方は滅多にないです。我々が入所の判定をするときに、ご家族のおられる方はご家族が会いに来られるかといふことも判断に含めるんですよ。全く家族の訪問がないという方は、とても辛い思いをするんですね。だからうちの施設で過ごしていただきよりも、ご家族に頻繁に会える場所の方がいいんじゃないかという考え方もあります、なかなか遠方の方はとらないことがあります。それぐらいですね。

仲尾 宏：はい。ありがとうございました。この「故郷の家」の場合は、「エルファ」のようにデイサービス、デイケアではありますんで、したがつて入居者というのはどこからでもいいといえばいいんですけども、やはり今おっしゃったように、できるだけ家族が来ていただけるということの方が、条件としては大きな意味を持つていて、うなづいています。

「エルファ」のようなデイケア中心の場合は、エルファの場合は東九条のほかに北区の衣笠、それから宇治市のウトロ、そして昨年から西京区の桂地区辺りにも設けられまして、それぞれ利用されております。遠方への送り迎えというのは大変ですから、各地におられるということからそのような展開になつておりますので、ちょっとそのへんデイセンターと、「故郷の家」の特養やケアハウス中心の施設とは意味合いが違うということを、ご理解いただければと思います。

それから一番の「故郷の家」の入居者の国籍ですが、これも先ほどから金周萬さんがおっしゃつていただいているように、二世が増えてくる。やがて二世が過半数になつてくるかも知れませんし、日本国籍を取つた在日の方もおられますから、国籍ではもう区別できない時代がやがて来ると思いますね。それでもやはり文化が違うと、生い立ちが違うというなかで、在日の二世、やがて三世も迎えることになると思いますが、やはり時代と共にいろんな新しい課題が出てくるんじやないかと思います。

次の方の質問に移ります。ちょっと深刻な質問ですが、全部読ませていただきてお一人の方から感想をお聞きするということにします。

「私も福祉の仕事に携わつっていました。生活保護ケースワーカーでした。妻も主任ケアマネ兼民間病院の職員です。実は私は一八歳のときに父親を、在日二世か三世の三十台の男性に、一方的に殴り蹴られ首を絞められ殺害されました。」お父さんが殺害されたということですね。

「父親はその男性の仕事や生活の相談や世話をしていたのに、恩をあだで返すように酷い仕打ちをされました。約二十年後にその本人の生活相談を私が受けました。少し薬物の後遺症もあり、私を息子と認識できなかつたようです。結局、なんとか生活できるように援助、助言をさせてもらいました。一ヶ月くらい不眠症になりました。もし殺したいほど憎い恨みのある人でも介護や援助ができますか?」これが第一のクエスチョンマークです。

二番。「私は在日韓国朝鮮の人人に憎しみや偏見差別を持つていましたが、父親の年齢四十五歳になり、父親の人に対する思いもやつと最近理解できるかもしれないと思い始めています。福祉というものもいろいろな経験や人とのかかわり合いの中で、成長や進化発展していくものでしようか?」

最後に、このチョゴリときものに参加させていただきとてもよかつたと思いまし、もう一度いろいろなことを深く考えていいけるようにしたいと思います。」

こういう感想をつけて二つのクエスチョンマークをいただいております。大変答えにくいかもしれません

が、率直なご感想だけで結構ですので、まず申さんからお願ひいたします。

申 湘昊…はい。一番目は、今はお答えはできないと思います。自分の考え方や経験の範囲を超えたことだつたから、ちょっとと考えたいと思いますね。

二番目のことは、成長や進化はできると思います。実際に僕は全くそれができない人だつたし、その知識も全くない人が、実際に経験を通してもっととかわることになつて、福祉を勉強、学べることができたので、経験や人のかかわりによって絶対どんな人でもそれは成長になると思います。

仲尾 宏…金さん、おねがいします。

金 周萬…はい。確かにかなり難しい問題なんですけれども。恨みのある人、憎い人でも介護や援助ができるですかということなんですけれども、これは非常に難しいと思います。ただ、仕事と感情は別ものやという考え方で自分を納得しようというふうにするでしようけど、おそらく感情がなかつたらいい仕事はできないと思います。

でもまあ、これ適切な例かわからないんですけど、最近韓国から来られた留学生が、自分の母親がALSといふ非常に重度の難病にかられて。その母親を車椅子に乗せて日本へ連れて来て、ドクターコース勉強しているわけですよ。授業中にも母親を連れていく。立命館大学なんですけれども、アパートから学校まで車椅子を押して歩いて往復するんですね。大変苦労しながらそういう苦学をされている方がいらっしゃつて。ところが、今先ほどの制度の話ですけれども、今は日本人と同じように国民年金にも入れるし、国民健康保険にも入れるし、いろんな制度の適用が受けられますから。

難病指定を受けていますから、難病指定の医療費無料。それ以外にも介護保険の、いわゆる支援費と介護保

険のサービスが使える。ただし生活保護は受給できないんですよ。日本での定住者じゃないですからね。旅行者や、短期の滞在者に生活保護は適用されませんからね。

でもその同じ職場にいる人でも、日本に来たら楽だということをわかつて来たんちやうと。普通そんな母親を連れて留学に来るなんて考えられへんと。なんか、一銭も日本で税金も払つたこともない人が制度だけ利用するというのは、どうしても割り切れんと。なんか心からそれを利用させて支援しようという気になれないという、極めて率直な話をされた方がいらっしゃったんですねけれども。その気持ちも理解できなくはないけれども、ものの考え方で、そんなに大変な状況でも、その方は福祉の勉強をされている方なんですねけれども、自分がそういう経験をしたから、なんとかそれを社会で支えていけるような形のものができないかということです、そういう研究をされている方なんですよ。自分の問題が研究のテーマでもあるということなんですねけれども。その方は大変な苦労をなさっています。自分で体位変換ができないから、夜中に一時間毎に体位変換をさせてあげるんですね。だから十分な睡眠もとれないと。このままじや続かないよということで、なんとか支援を入れてあげないともたない、という状況なんですねけれども。

まあそれをやっぱり目の当たりにすると、仕事の範疇を越えたことでも、制度的に使えるんですから使えるようには援助をしてあげるのは、当たり前のことやというふうに思います。感情がそれについていけるかどうかは人によって若干違うんですね。それをなんとか支援してあげたいと入れ込む人もいれば、内心はうまい事しやがつてみたいに思う人もいるかもわからない。これは受け止める人の違いがあるんやけど、でもどういうふうに内心受け止めていようが仕事は仕事なんですね。そこに権利という言葉もからんでくるかもわからないけど。それはやっぱり保障すべきだし。

一番怖いのはそういう「うまい事やりやがつて」みたいな感情が蔓延していつて、結局せつかくここまで来たものが、また後退するとほかの方にもすごく影響が出てくるんですね。いろんな意味で制度ができる

ようになつた。それが、悪用する人間がいるという考え方をしていくと、また後退する可能性があるわけでしょ。外国人には制限していこう、みたいな調子になつてくると、いわゆる後退じゃないですか。その後退になることを恐れるという思いがあつて、やはりこれはきつちりと対応すべきだというのが私の考え方なんですね。

今のは適切じやないんですけれども、心の問題と仕事の問題はありますけれども、やはり心がいかないといい仕事はできへんやろなと思いますが、それでも最低限の仕事はやるべき違いますか、というぐらいしか答えはないんですけども。やはり心の整理というのはすべきやし。心の整理というのはなかなかできないんですね、僕こんな経験ないですもんね。とても大変だと思いますけれども。

それといい仕事をすると人にやさしくなるというか、そういう面も出てくるというのが僕は福祉の仕事だと思ふんですけどね。福祉の仕事ってやりがいがあるんですよ。待遇は悪いんですけどね。すぐお金には換えられない喜びを感じるときがあります。やりがいだと思うんですけどね。そういうものを経験することで、人を許せるかどうかはちょっとまた倫理の問題になるんで苦手ですけれども。いい仕事をしていただければある程度人にもやさしくなるんじゃないかなという気がします。あんまり答えにならなかつたんですけども、私の感想です。

仲尾 宏…はい。ありがとうございました。これは私も含めて一人ひとりが考えてみたい問題だと思います。本当に心をこめて仕事をしないといい仕事ができないということとともにそうですし、かといって一人ひとりの感情、置かれた立場によって、心がどうしてもこもらないということもあるので、一概にこうすべきだという理屈の問題ではないですね。その場その場で自分の心と聞いて、自分で納得できるようなことをやつしていくしか仕方がないのかなという気がいたしました。

それからこの方は、在日の方に対し憎しみや偏見差別を持つていましたが、ようやく最近はそういう気持ちが少し変わってきたような印象のことも述べられています。そこで私は、たまたまこのお父さんに危害を加

えた人が在日であつたと、恩をあだで返したということですが、だからといって在日韓国・朝鮮の人という民族や出身でのことを見ないで欲しいというのが私の願いです。とにかくこの問題については、皆さん方ともども一緒にこれからも考えて行きたいと思います。

次からは感想ですので紹介させていただきます。

「申さんが福祉と無関係な分野から福祉の世界に飛び込まれたきっかけ、覚悟を決められたときのことなど、興味深く聞かせていただきました。」申さん、なにか付け加えることがありますたらおっしゃって下さい。

申 湘昊：ありがとうございます。話す間だんだん頭が真っ白になつて、何を言うかわからなくなつたんですけど。本当に気持ちだけ、僕が学んだその大事な気持ちが伝わつてよかつたと思います。それは一生忘れたい心だと思いますので大事にして行きたいし、皆さんもその感動を感じて下さつてありがとうございます。

仲尾 宏：次、これも申さんにかかわる感想です。

「音楽の話がとても面白く、韓國のお年寄りと、ここでは韓国と書いておられます在日ですね、在日のお年寄りと日本のお年寄りが素敵なお話をされている様子が伺えました。今まで考えてこなかつた二世高齢者のことに気付かされました。」こういう感想です。

次は、「先週に引き続き大変多くのことを学ばせていただきました。在日一世二世の方々の福祉の現状や、福祉施設での運営内容など、大変興味深く聞かせていただきました。今後私にも何かできることがあれば、お手伝いさせていただきたいという気持ちになりました。今後、何ができるのか、どんなことが必要とされるのか、考えていきたく思います。貴重なお話をありがとうございました。」

この件については、この「故郷の家」でもあるいは「エルファ」でも、一般の方々の見学は大いに歓迎され

ております。またグループで、子ども達を連れて行つたり、韓国やその他の外国から来られた方を、見学の受け入れもされておりますから、ぜひ見学に行かれる」ことを提案いたしました。

それからボランティアですね。いろんなボランティアの分野が、例えば申さんのように全くお門違いのところから入つていいたけれども、という方もおられますので。さまざまなボランティアの仕事があると思いますので、これも見学と兼ねてぜひとも皆さんに参加していただきたいと思います。

それからいまこの金周萬さんが中心になつて進めて来られた、外国人多住地域高齢者生活実態調査。この調査員の募集もあります。こういう形での参加の仕方があります。特にこういつた高齢者福祉は統計上何か出てくるというものではありませんので、やっぱり訪問をして聞き取りをしてということがとても大切な現実に近づく方法ですで、こういうことも一定の研修を受けて参加されることがいいのではないかと思います。

次の方、「なにやら重い気分の一週間。特に先週の帰りがけに見たテレビ画面以来の深い悲しみから、今回のお話を聞け、魂がゆっくりとけて行くような気分になりました。」

原発がとけたら困りますけれどね。「こうして心が魂が、ゆっくりとけていくという気分になられたようです。  
「申さんのお話から、これから震災に対して自分ができそうなことが見えた気がいたします。感謝いたします。」

最後の方のご感想、「申湘昊さんのエピソードの中でとても印象深かったのは、朝の体操のときのくだりです。体操終わってほめて下さった方が、その日の夜に心筋梗塞で亡くなられたという話はとても感慨深かったです。自分自身が介護されているとおっしゃったことも印象的でした。」

私は中学校の教員なんですが、「先生、先生」と声をかけてくれる子ども達や、保護者のその声に応えるために教壇に立つていると感じる瞬間は本当に多くあります。」

「こういう感想をいただきました。

今回、全部で「質問、ご感想合わせて七件ですが、とてもその「質問といい、あるいは個々の「感想といい、ご紹介していく心を打たれるものがありました。皆さんも多分そのようにお感じになっていると思います。

この在日コリアンの日本での生活ということは多面的、いろんなところから見て来たわけですけれども、特に「こういう高齢者福祉の問題」というのは、その在日コリアンという民族的出自の問題と、それから日本社会の福祉のあり方の問題。日本人の在日に対する眼差しの問題。いろいろ深い問題がそこにありますので、こういう問題を通じて、今の日本社会、そしてこれから日本社会がどのようにあるべきかということを考えさせてくれる課題であると思います。

その課題に今回も多くの方が参加していただきまして本当にありがとうございました。今年はこれで終わりですが、また来年も新しいテーマのもとにこのフォーラムを続けるということになるかと思いますので、ぜひとも来年もお誘い合わせてお越しいただければありがたいと思います。どうもありがとうございました。

司会…それでは今回の第四回をもちまして、今年度一〇一〇年度の連続フォーラム「チョゴリときもの」は終了となります。

改めまして金周萬さん、申湘昊さん、そしてコーディネーターの仲尾宏先生ありがとうございました。

全四回の記録は毎年のように、後日冊子にしてこの会館の方で配布いたしますので、そちらも楽しみにして下さい。

それでは皆様、本日はありがとうございました。



連続フォーラム「チョゴリときもの」No.18  
～高齢者福祉をめぐって～

東北地方太平洋沖地震（3/11）に際して

被災地各県の車臣人・朝鮮人（2009年末・入管協会）

	総数	うち	外居・外住者
青森	1, 1 2 8	8 9	7
岩手	1, 1 5 2	7 9	4
宮城	4, 5 1 2	2, 3 2	4
秋田	8 0 8	5 3	4
山形	2, 1 7 5	4 2	3
福島	2, 0 7 2	1, 3 6	3
茨城	5, 8 2 9	1, 8 5	1
合計	1 5, 6 0 4	7, 7 6	2

（総数と特在の差が新定住者）



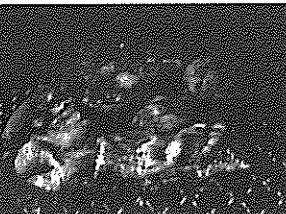
# 京都・東九条CANフォーラム

## ニュースレター第6号

2011年2月3日No.006

### 人権交流京都市研究集会に参加します

#### 東九条名物シリーズ② -ホルモンの語源-



ホルモンの語源には有力な二つの説がある。内臓は食用の肉をとった後の捨てた部分なので、大阪弁で「捨てるもの」を意味する「ほおるもん」から採られたといつてこの説を探る代表は、焼肉の「食道園」と、安くてグロテスクな内臓肉のイメージアップのために、生理活性物質のホルモン(戰後に流行語となつた)にあやかって、内臓を食べると精力がつきそうなイメージから名づけられたとする説がある。意外にも「ホルモン」という名称は西心斎橋の洋食屋「北極星」が1940年に商標登録しており、(ただし、煮込み料理主体の料理である。)「北極星」は後者の説を探る。テレビ番組「TOKYUアピアの泉」で素晴らしきムダ知識へ!においては、「ほおるもん=ホルモン」説は嘘であるとされた。その根拠とされるのは、ホルモン料理の名前は戦前から存在し、そして戦前にいっては内臓料理に限らず、スタミナ料理一般、例えばスープ料理などもホルモン料理と呼ばれたという事実からである。今から50年ほど前のころ、精肉店に「大の飼(だい)い」と言ってバケツ一杯20円で貰い、家族皆で七輪で焼いて食べた生活体験からすると、「ほおるもん」説に共感を覚えるのであるが…。

来る2月19日(土)第42回「人権交流京都市研究集会」が大谷大学において開催されます。今年のテーマは「めぐらう共生・協働の社会創造」で、全体集会で「TOKYOアイヌ」が上映され、午後から5つの分科会に分かれて討議が行われます。京都東九条CANフォーラムは第2分科会「共生社会とまちづくり」の主管を務めることになりました。第2分科会においては、先ず京都東九条CANフォーラム代表の朴実氏が基調報告を行い、その後4人のパネリストからの報告があり、ディスカッションを行います。全体のコーディネーターは大阪人間科学大学准教授の石川久仁子氏が務められます。

基調報告「多文化共生のまちづくりへ東九条マダンに託す思いへ」朴実  
報告1「多文化共生教育の現場から」

希望の家カリック保育園保育士 金光敬

報告2「関わるあおる、へじぶんからここからへ」

京都市立小学校常勤講師 李大佑

報告3「モアナ外の実践からへ外国人高齢者生活支援からへ」

京都「モア」ネット共同代表 金田萬

報告4「京都市国際化推進プランへ多文化が息づ(まちを目指してへ)」

京都市国際化推進室長 稲谷範子

#### 開催要項

日 時: 2011年2月19日(土) 午前9時30分開会(9時受付)

会 場: 全体会・分科会=大谷大学・2号館等各教室

全体会: 午前9時30分~正午 全体会

記念上映会「TOKYOアイヌ」開場にてアイヌの文化伝承や活動に  
携わる人々の姿の記録。どこであろうと自分の生きる場所でアイヌであり  
続けようとする人々の姿を、カタチは追い続けた。

分科会: 午後1時30分~4時30分まで

第1分科会 部落と人権「部落差別と同和行政」	2号館2301教室
第2分科会 共生社会とまちづくり	2号館2101教室
第3分科会 人権確立をめざす教育創造	2号館2201教室
第4分科会 共に生きることをめざして	2号館2202教室
第5分科会 自由討議「私自身と差別問題」	尋源館J101教室

- 個人会員 1口 1,000円  
一口 1,000円で何口でも結構です
- 団体会員 1口 5,000円  
一口 5,000円で何口でも結構です

- 賛助会員 いくらでも結構です  
活動に使わせていただきます
- 特別会員 会費負担なし  
どんどん活動に参加してください

- ご協力を頂いたみなさま、引き続  
き会費納入にご協力ください。
- この活動は皆様の支援に支えら  
れています。

振り込口座: ゆうちょ銀行 00910-7-216594 口座名義: キョウト・ヒガシクジョウキャンフォーラム

## 外国人多住地域高齢者生活実態調査にご協力ください

### はじめに～調査の主旨

2010年1月、NHKにおいて『無縁社会～「無縁死」3万2千人の衝撃～』という番組が放送されました。この番組では身元不明の自殺や行方不明などひとりで亡くなり引き取り手もない死を「無縁死」と呼び、様々な「無縁死」からぐるり当たり前の生活をしていた人が社会とのつながりを失い、ひとり孤独に生きて亡くなる現代社会のあり方を明らかにし、大きな反響がありました。このような現実は少子高齢化が激しく進む京都市市街地では大きな課題になっています。これに対応する既存の方策として介護保険制度および地域住民による活動やボランティアによる活動が行われていますが、すべての人に支援の手が行き届いているわけではありません。特に東九条は外国籍の住民が多く、京都市の助成事業である外国人福祉委員も活動している支援を必要としている人々も多いのではないかと思われます。今回の調査は、陶化学区に暮らすお年寄りの日常生活や地域社会や家族とのつながりの実態、福祉ニーズなどの情報を知るために、アンケート調査を行います。生活の実態を明らかにすることによって、今後、各団体がどのように取り組めば、またどのように協力しあわせばお年寄りが安心して暮らせるようになるのかを考えるために実施します。

### 地域力による問題乗り越えの重要性

これらの高齢者問題に対して、福祉施策によって問題解決を図っていくことはもとより必要ですが、「地域住民の力」、「民主委員会含む地域福祉関連組織・施設」そして、「NGOネットワーク」の連携などによって、地域力(地域の力)を引き出し、対処していくことは一層緊急な課題となっています。これらの各アクターの連携による地域力増進は、福祉生活問題にとどまらず、災害時対策においても、また、生き生きとすべての人が輝く町づくりの点においても、重要なものといえ、これは多文化共生のまちづくりの重要なファクターでもあります。

### 本調査研究プロジェクト

本研究グループは、文部科学省科学研究費補助金を得て、在日外国人高齢者や中国帰国者高齢者が集住する「東九条」地域あるいは「伏見・醍醐」地域に注目して、高齢者支援のための研究を開始しております。

この地域に注目する意味は、第一に、高齢化率も高く、また、上記マイナリティ高齢者が多く住む地域で多くの課題を抱えていること、第二に、さまざまな活動団体(モアナネット、まめやし、中国帰国者の会、京都外国人支援ネットワーク等)がすでに活動を行っており、これらの活動と連携協力して、いかに、地域力を高めていかかという課題を抱えているという点にあります。

### 調査の進め方

この調査活動は、龍谷大学・立命館大学・同志社大学・大阪人間科学大学等の研究者と市民団体が協力し、外国人多住地域における全ての高齢者を対象(無作為抽出法)に生活実態調査を行い、地域に暮らすすべてのお年寄りの福祉向上のために、インクルーシブ・コミュニティ(ひとりの人も排除せず、すべての人を包み込む地域の関係)の形成を推進するために、高齢者の孤立と不利益(ハンディキャップ)を可視化(目に見えるように)し、施策課題化(いま何が必要かをはっきりさせる)して、行政や地域社会に提言することにあります。この調査研究は、実態調査をし、分析し、提言をまとめることを3年間で行う計画です。

また、この調査研究過程を通じて、様々な活動を行っている諸団体間の相互協力を強めネットワーク機能を強化し、個々の力量を高めると同時に地域全体の福祉力を高めることをめざす、アクションリサーチの性格をもつて実行過程に様々な工夫を凝らしています。

中でも、情報の理解や生活習慣の違い等でハンディキャップをもちがちな人たちである「外国人高齢者」「中国残留孤児帰国者」の地域における福祉状況向上のために、生活実態、地域との関係、固有の問題、どのような支援が有効かなどの調査研究を重要な目的として同時並行で行ってゆきます。

この調査は、第1期(2011年2月～3月)に東九条陶化地区と伏見区小糸橋地区で、500人程の調査対象者を抽出し実施します。第2期(2011年5月)には東九条地区の外国人高齢者100名を抽出した調査を実施します。

### 調査員としてご協力をお願いします。

この調査を進めるためには50人程の調査員が必要となります。この調査研究活動は皆様のご協力なしには成り立ちません。調査員には若干の活動費の支払いを予定しております。是非とも調査員としてご協力ください。調査員のための説明会を下記の日程で行います。

2月12日(土)午後6時 小糸橋市営住宅集会場

2月18日(金) キャンバスプラザ

説明会に参加できない方は随時個別に行うこともできます。

お問い合わせ 調査事務局 TEL075-681-2721

京都・東九条 CAN フォーラム  
〒601-8013 京都市南区東九条南河原町3

075-204-7900

<http://higashikujoforum.jimdo.com/>  
E-mail:higashikujoforum@gmail.com



現在では、国内に定住する外国人・外国籍者を在日〇〇人と称しますが、長い間「在日」という言葉は、ほんどの場合、何世代も日本社会に生きる韓国・朝鮮人のこととして語られてきました。それは、まだそれほど他の外国籍者の定住が多くなかつた中、歴史的な経緯の中で数が圧倒的に多かつたことに由来します。正確には韓国併合やサンフランシスコ講和条約などによる、国籍の変更や剥奪などの歴史が存在しますが、概ね終戦から条約発効、あるいはそれ以前に来日し居住を始めた特別永住者を便宜上オールドカマーと呼び、また開きはあるものの、一九七〇年～八〇年以降の来日者をニューカマーとして区別しています。オールドカマーの中には、勉学や技術取得のために来日した人や強制的に来日した人も有り、ニューカマーの中には同様に留学や企業等勤務で来日し、数年後帰国する人や、婚姻などで日本での生活を選択する人々が含まれています。

日常の出来事や物事に対する感じ方や判断は、身を置く社会や文化・習慣、価値観によつて異なります。前述の両者は、ルーツは同じくしても、言葉、法的制度も異なるため、日本の生活での経験、直面する問題や感じ方もまた違つた種類のものになります。今回はその違いを視点の広がりとともに、身近なテーマのもと、多角的にお話しいただきました。

日本社会の現状を考えると他の国から来日、定住するニューカマーは増加していくことが予測されます。オールドカマー・ニューカマーがそれぞれ別々に生活する一方、日本に長年住まい、文化を理解するオールドカマーがニューカマーを地域で助けていくことや、生活者として共有する時間も今後増えて行くことでしょう。すでに、両者が互いに新たな気付きや異なりを楽しむ、広い意味での「日本に在住するコリアン」社会は

生まれており、いろいろな場で援助や交流が機能しています。こうした重層的かつ開放的な在日コリアンコミュニケーションの存在が、今後、在日社会を内包する日本社会自体の変化にも繋がっていくことを期待するものです。

視点の異なる在住コリアンによる「今」は、一部分ではありますが、聴く者にとつてオールドカマー、ニュー・カマーの現実を改めて考える機会となりました。

発行にあたりまして、各回お話しいただきました皆さま、コーディネーターの仲尾先生に心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

(財) 京都市国際交流協会 事業課 岡村敦子  
早川隆文



---

アジアの風文庫 27

「チョゴリときもの」

在日コリアンの視点とニューカマーの視点

2012年2月 第1刷発行

編集・発行 財団法人 京都市国際交流協会

〒606-8536 京都市左京区粟田口鳥井町2の1

TEL. 075-752-3010

印刷 株式会社 アルファ・プリント社

---





\* 財団法人 京都市国際交流協会  
KYOTO CITY INTERNATIONAL FOUNDATION